地質学雑誌　第121巻　第8号（通巻1439号）付録　平成27年8月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.18 No.8 August 2015

日本地質学会第122年学術大会（長野大会）
プログラム

会期　2015年9月11日（金）～13日（日）

～ 効率的な地質調査を実施するために ～

地質調査要領説明会

（一社）全国地質調査業協会連合会CPD制度認定講習（3.5単位）
（一社）全国土木施工管理技士会連合会CPDS制度認定講習（4.0ユニット）

主　催

一般社団法人　全国地質調査業協会連合会
一般財団法人　経 済 調 査 会

後　援

国立研究開発法人 土木研究所
日本地質学会
地質リスク学会

開 催 日

平成27年9月30日㈬～平成27年11月2日㈪

参 加 料

1名あたり 6,000円（税込）※テキスト代は別途

プログラム

第1章　地質調査の目的と調査計画
第2章　建設事業のための地質調査
第3章　防災・維持管理・環境のための地質調査
第4章　地質調査の最近の動向

テキスト

「改訂3版 地質調査要領」（平成27年9月発刊）
特別価格 4,900円（定価　税込価格5,400円）
※図書をお持ちの方は、当日必ずご持参ください。

会場一覧

開催月日	開催地区	定員	会　場　名	会 場 住 所	申込支部	問い合せ番号
9 /30（水）	東　京	200名	日本教育会館	東京都千代田区一ツ橋2-6-2	本　　部	03-3542-9291
10/ 9（金）	福　岡	160名	福岡センタービル	福岡市博多区博多駅前2-2-1	九州支部	092-411-9941
10/13（火）	名古屋	150名	名古屋国際会議場	名古屋市熱田区熱田西町1番1号	中部支部	052-221-8386
10/15（木）	仙　台	140名	イズミティ21	仙台市泉区泉中央2丁目18番地の1	東北支部	022-222-0629
10/20（火）	大　阪	150名	新梅田研修センター	大阪市福島区福島6-22-20	関西支部	06-6372-1721
10/22（木）	札　幌	100名	北海道経済センター	札幌市中央区北1条西2丁目	北海道支部	011-241-9491
10/29（木）	広　島	150名	広島商工会議所	広島市中区基町5-44	中国支部	082-227-5951
11/ 2（月）	東　京	200名	日本教育会館	東京都千代田区一ツ橋2-6-2	本　　部	03-3542-9291

〔テキストのご案内〕

地質調査の概念から調査手法、調査技術までを完全網羅！　2015年9月発刊

効率的な地質調査を実施するために

改訂3版 地質調査要領

［編集］一般社団法人 全国地質調査業協会連合会　　A4判　約500頁
［発行］一般財団法人 経済調査会　　定価5,400円（本体5,000円+税）

目　次

第Ⅰ部 地質調査要領
第1章　地質調査の目的と調査計画
第2章　建設事業のための地質調査
第3章　防災・維持管理・環境のための地質調査
第4章　地質調査の最近の動向

第Ⅱ部 参考資料
第1章　地形・地質および地盤の分類に関する基礎知識
第2章　調査の手法
第3章　地質調査の成果品と電子納品

詳細は（一財）経済調査会ホームページから☞　Bookけんせつplaza　検索

日本地質学会第 122 年学術大会（2015 長野）
プログラム

会期：2015 年 9 月 11 日（金）～ 13 日（日）
会場：信州大学長野（工学）キャンパス［工学部講義棟・学部共通棟・太田国際記念館・体育館］，メルパルク長野，ホクト文化ホール，長野市生涯学習センター（TOiGO 4F）

共催　国立大学法人信州大学，信州大学理学部，信州大学工学部
後援　長野県地質ボーリング業協会，公益財団法人ながの観光コンベンションビューロー

プログラムもく

会場周辺案内図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (1)
会場への交通機関のご案内・・・・・・・・・・・・・・ (2)
当日の受付について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (3)
会員顕彰式・各賞授与式・受賞記念講演・・・・・・・・ (4)
懇親会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (4)
巡検および巡検案内書・・・・・・・・・・・・・・・・・ (4)
緊急展示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (4)
長野大会に関連したプレス発表・・・・・・・・・・・・ (4)
企業等団体展示・書籍販売・・・・・・・・・・・・・・ (4)
その他のお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (4)
　手荷物/無線LAN/無料シャトルバス（9/11のみ運行）/
　大会期間中のお食事
会場での注意点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (4)
問い合わせ先・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (4)
全体日程表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (5)
信州大学工学部キャンパス構内図・・・・・・・・・・・ (6)
ランチョン・夜間小集会・・・・・・・・・・・・・・・・ (7)
発表者へ（発表時の注意点など）・・・・・・・・・・・ (8)
　口頭発表（ファイルインストール，PCの使用　など）
　ポスターセッション（OR.R6の発表について，優秀ポスター賞について　など）
シンポジウム・セッション世話人一覧・・・・・・・・・ (9)
シンポジウム・セッションハイライト・・・・・・・・・ (11)
講演プログラム（口頭）
　9月11日（午前）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (18)
　9月12日（午前）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (21)
　9月12日（午後）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (24)
　9月13日（午前）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (27)
　9月13日（午後）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (30)
講演プログラム（ポスター）
　9月11日・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (32)
　9月12日・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (35)
　9月13日・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (38)
関連行事 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (40)
　地質情報展ながの・市民講演会・小さなEarth Scientistのつどい・若手会員のための業界研究サポート・特別講演会

会場周辺案内図

会場への交通機関のご案内

【信州大学長野（工学）キャンパスまでのアクセス】

（メイン会場）

（注意）長野市内には長野（工学）キャンパス（長野市若里４－17－１）の他に，長野（教育）キャンパス（長野市西長野6のロ）があります．**メイン会場は，「長野（工学）キャンパス」です．**お間違えのないようにお越しください．
参照URL<http：//www.shinshu-u.ac.jp/guidance/maps/map03.html>
バス：
（長野電鉄バス）JR長野駅東口から長電バス１番のりば「屋島・保科温泉・日赤行き」バス停より，「日赤経由アークス中央行き」「日赤経由水野美術館行き」「保科温泉行き」のいずれかに乗車（５分），バス停「信大工学部」で下車して，進行方向と反対に直進し「北市」交差点を左折してから，徒歩約２分（約200m）．
（アルピコバス）JR長野駅善光寺口を出てアルピコバス２番のりばで，「日赤経由大塚南行き」「松岡行き」「サンマリーン行き」「ビッグハット行き」のいずれかに乗車（８分），バス停「信大工学部前」で下車し，進行方向に向かって徒歩約３分（約300m）．
徒歩：JR長野駅東口から，徒歩約20分
※信州大学長野（工学）キャンパスは駐車スペースがないため，乗用車でのご来訪はご遠慮下さい．宿泊施設はJR長野駅周辺にあります．

【メルパルク長野へのアクセス】

（表彰式，記念講演会，懇親会）

参照URL<http：//www.mielparque.jp/nagano/access/>
徒歩：JR長野駅東口より徒歩約５分
信州大学長野（工学）キャンパスから徒歩約20分
自動車：上信越自動車道長野I.C.から約20分．須坂長野東I.C.から約15分
※メルパルク長野地下駐車場が満車の際は，近隣の有料駐車場をご利用いただきますようお願いいたします．
※大会初日（11日）のみ，大学からメルパルク長野（表彰式・懇親会会場）までの直通バス（無料）を運行します．詳しくは，本誌ｐ．(4) 参照．

【ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）へのアクセス】

（市民講演会）

参照URL<http：//www.n-bunka.jp/traffic/>
バス：
（川中島バス）JR長野駅善光寺口，２番乗り場から日赤経由大塚南行き・工業高校経由犀北団地循環に乗車し，中御所下車（約４分），徒歩５分．
（長電バス）JR長野駅東口，１番乗り場から日赤壇田線・保科温泉行きに乗車し，文化会館入り口下車（約３分），徒歩５分．
※駐車スペースに限りがあるため，公共交通機関をご利用下さい．
徒歩：JR長野駅東口から徒歩約15分．
信州大学長野（工学）キャンパスから徒歩約10分

【長野市生涯学習センター「TOiGO（トイーゴ）」へのアクセス】

（地質情報展）

参照URL<http：//www.toigo.co.jp/access/>
徒歩：JR長野駅善光寺口より徒歩約10分．
長野電鉄　市役所前駅より徒歩約３分．
バス：
（川中島バス）JR長野駅善光寺口１番乗り場から善光寺行きに乗車し，昭和通り下車，徒歩約１分．
（長電バス）JR長野駅善光寺口４番乗り場から長野市循環バス「ぐるりん号」に乗車し，昭和通り下車，徒歩約１分．
自動車：上信越自動車道 須坂長野東I.C.から約20分．上信越自動車道 長野I.C.から約20分．
※TOiGOパーキングを利用できます．

当日の受付について

■ 事前参加登録者

【入金済みの場合】確認書２枚（本人控･受付提出用）と名札，懇親会とお弁当を予約の方にはそれぞれクーポンをお送りします．大会開催10日前頃には，皆様のお手元に届くようお送りします．当日会場へ持参してください[注1)]．

【期日までに入金確認が取れていない場合】請求金額は当日払いの金額に変更になります．また，大会10日前頃までに未入金の旨記載された確認書のみ送付いたします[注2)]．当日会場にて確認書をご提示いただき，代金の清算をして下さい[注1)]．期日を過ぎて入金された場合でも，会場にて差額分のご精算をお願いします．その際は，入金時の控え等を会場にお持ちください．

事前登録者用受付にて，確認書に記載されている項目ごとに受付して下さい．
受付にてネームカードホルダーをお渡ししますので『参加証（名札)』を入れ，大会期間中は身に付けてください．

１．確認書の提出（全員）→ネームカードホルダーの配布．要旨付きの場合は，要旨の配布
２．講演要旨追加購入（予約購入者のみ）→要旨の配布
３．懇親会→参加者は直接懇親会会場でクーポンを提示してご入場ください．
４．お弁当（予約者のみ）→お弁当の引換所にてクーポンを提示して，引き換えてください．
５．巡検（参加者のみ）→名簿確認と参加最終確認

注1) 当日確認書やクーポンを忘れた方は，専用の用紙に申込内容をご記入いただき，受け付けを済ませてください．確認がスムーズに行えますよう，ご協力をお願い致します．
注2) 未入金の方には，会場受付での入金確認後，懇親会やお弁当のクーポンをお渡しします．

■ 事前登録をしていない方

１．当日は必ず参加登録をしてください．参加登録費の有料･

無料に関わらず備え付けの『参加登録票』に必要事項を記入し当日用受付にて受付して下さい.
2．当日参加登録費（講演要旨集付きです．要旨集が不要の場合でも割引はありません）
正会員：9,500 円
院生割引会費適用正会員：6,500 円
学部学生割引適用正会員・名誉会員・50 年会員・非会員招待講演者・学部学生（会員・非会員問わず）：無料（講演要旨は付きません）
非会員（一般）：15,000 円
非会員（院生）：9,500 円
3．講演要旨当日販売
会　員：4,000 円
非会員：5,500 円
4．懇親会の当日参加費（ただし，人数に余裕がある場合に限る）
正会員・非会員（一般）：7,000 円
名誉会員･50 年会員･院生および学生割引適用正会員（家族および非会員院生・学生含）：4,000 円
別途領収書が必要な方は会場受付でその旨お申し出ください．当日のお支払いは，現金のみの取扱いとなります．クレジットカードはご利用いただけません.

会員顕彰式・各賞授与式・受賞記念講演

9 月 11 日（金）16：00 ～ 18：00
会場：メルパルク長野

16：00～16：10　会長挨拶，来賓挨拶（赤羽貞幸　信州大学副学長）
16：10～16：25　Geological Society Located in Taipei・Geolgical Society of Japan　学術交流協定調印式
16：25～17：15　名誉会員証授与，50年会員顕彰，各賞授与式
17：15～17：30　日本地質学会小澤儀明賞受賞スピーチ　辻　健会員「地質学に貢献する地震探査」
17：30～18：00　日本地質学会賞受賞講演　脇田浩二会員「地質図とともに－付加体地質図とシームレス地質図－」

懇　親　会

日時：9 月 11 日（金）18：30 ～ 20：00
会場：メルパルク長野　3 階白鳳

原則として予約制です（予約は８月18日に締め切りました）．人数に余裕があれば当日参加の申込みも可能です.
会場受付で確認し，当日参加の申込みをしてください．その場合の会費は，正会員・非会員（一般）7,000円です．名誉会員・50年会員・院生割引会費適用正会員・学部割引適用正会員および会員の家族は4,000円です．非会員の会費は正会員に準じます.

巡検および巡検案内書

巡検参加事前申込みは８月７日に締め切りました．参加者への連絡などを大会ホームページに随時掲載いたします.
巡検案内書は，例年冊子体は作成せずCD-ROMで発行しておりましたが，今大会では地質学雑誌121巻７号および８号（2015年７月および８月号）に掲載いたします．また，J-STAGE <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>にて公開をいたします.
なお，予告記事でもお知らせの通り，巡検参加者には各参加コース箇所の巡検案内書を巡検当日に配布します.

緊急展示

緊急かつホットなテーマについて議論する場を提供するために，会場内に，災害調査報告や速報性の高い新技術・成果紹介などの「緊急展示コーナー」を設けます．ポスターの掲示場所およびコアタイムの日程は，大会HPまたは会場内の掲示でご確認下さい．なお，緊急展示での発表も優秀ポスター賞の審査対象となります
会場：体育館ポスター会場
問い合わせ先：行事委員会（main@geosociety.jp）
担当：牧野州明（長野大会実行委員会）・亀高正男（行事委員会）

長野大会に関連したプレス発表

長野大会での注目すべき学術発表や行事について，９月上旬にプレス発表を行う予定です．例年多数のメディアに取り上げられ，会員の研究成果が大いに注目されています．プレス内容は，プレス発表後学会ホームページに掲載いたします.

企業等団体展示 / 書籍販売

企業・団体・研究機関などによる展示を行います．会場は，信州大学工学部キャンパス講義棟２階を予定しています．７月30日現在，以下の各社よりお申込がありました.
Exelis VIS株式会社
国立研究開発法人海洋研究開発機構
株式会社加速器分析研究所
株式会社建設技術研究所
株式会社SASAMI-GIO-SCIENCE
株式会社ジオシス
特定非営利活動法人ジオプロジェクト新潟
ジャスコインタナショナル株式会社
日本地球掘削科学コンソーシアム
石油資源開発株式会社
株式会社蒜山地質年代学研究所
メイジテクノ株式会社
安井器械株式会社
ライカマイクロシステムズ株式会社

また，同じく信州大学工学部キャンパス講義棟２階では**書籍・物品の展示販売コーナー**を設けます．７月30日現在，以下の各社よりお申込がありました.
エルゼビア・ジャパン株式会社
近未来社
株式会社古今書院
「高遠ぶらり」制作委員会
地学団体研究会
株式会社ニチカ
株式会社ニュートリノ
※変更がある場合もあります．随時大会ホームページをご覧ください.

その他のお知らせ

・手荷物について：会場内での手荷物のお預かりは致しません．参加者各自での管理をお願い致します．

・無線LANをご利用頂けます：総合受付周辺および，休憩室で，無線LANを各自のパソコンでご利用頂けます．利用方法は，会場内に掲示します．

・無料シャトルバス（9/11のみ運行）

大会初日（11日）のみ，**大学からメルパルク長野（表彰式・懇親会会場）までの直通バス（無料）**を運行予定です．ぜひご利用下さい．（信州大学長野（工学）キャンパスから，徒歩の場合は約20分）

運行区間：信州大学長野（工学）キャンパス→メルパルク長野（直通）（注）大学→メルパルクまでの片道運行です．

運行日・時間帯：11日（金）14：00～16：00（約15分間隔）

乗り場：工学部講義棟近くのロータリー（p.（6）構内図参照）

・大会期間中のお食事について：

◯お弁当予約販売（予約申込は締切りました）．
予約弁当は信州大学工学部キャンパス講義棟１Ｆで配布します．

◯大学生協厚生施設の営業
信州大学工学部生協食堂：
９月11日（金）11：30～13：30
９月12日（土）11：30～13：30
９月13日（日）11：30～13：30
信州大学生協食堂隣の売店（飲料や菓子類の販売あり）：
９月11日（金）11：00～16：00のみ営業

注意：上記以外の日時にはキャンパス北側（駅方向：徒歩10分）のコンビニエンスストア等をご利用ください．信州大学工学部周辺には飲食店が少ないので，ご注意ください．

会場での注意点

■発表終了時には拍手をお願いします

１題の口頭発表はわずか15分で終了します（セッションの場合）．しかし，その発表の裏には，発表者の弛まぬ努力と，研究や発表準備に費やした多くの時間があるはずです．講演終了時には，惜しみない拍手をお願いします．

■無断で撮影をしてはいけません！

口頭発表・ポスター発表を，発表者に無断で写真撮影・ビデオ撮影してはいけません．撮影には発表者の許可が必要です．また，それらを発表者の許可なく，SNS等で配信もしてはいけません．

■軽装でお出かけ下さい

７月末現在，信越地区の電力供給は逼迫した状況ではありませんが，不測の事態で急な節電要求がある可能性も考えられます．残暑厳しい時期，大会参加の皆様には軽装でお出かけ下さい．ご理解，ご協力をお願いします．

問い合わせ先

【大会期間中（９/11～９/13）の問い合わせ】

日本地質学会第122年学術大会現地事務局（担当：熊崎）
電話：080-3434-8211
e-mail：gsj2015_nagano@nta.co.jp

【上記以外の問い合わせ先】（平日9:30～18:00）

◯日本地質学会行事委員会／地学教育委員会／学会事務局
〒101-0032　東京都千代田区岩本町２-８-15井桁ビル６Ｆ
TEL：03-5823-1150　FAX：03-5823-1156
e-mail：main@geosociety.jp

◯日本地質学会第122年学術大会現地事務局
（株式会社日本旅行・松本支店内）担当：熊崎・伴野
〒390-0811　長野県松本市中央２-６-１　住友生命松本ビル１階
TEL：0263-34-5555，FAX：0263-35-3925
e-mail：gsj2015_nagano@nta.co.jp

日本地質学会第122年学術大会（2015長野）全体日程表

発表方法	部屋番号[収容人数]	1日目 9月11日（金） AM 9:00-12:30	ランチョン 12:45-13:45	13:45-15:05	16:00-18:00	18:30-20:30	2日目 9月12日（土） AM 8:45-11:45	ランチョン 12:00-13:00	13:00-14:20	PM 14:30-17:45	夜間 18:00-19:30	3日目 9月13日（日） AM 8:45-11:45	ランチョン 12:00-13:00	13:00-14:20	PM 14:30-17:45	夜間 18:00-19:30	部屋番号
口頭	第1会場（講義棟100）[160]	**R5 地域地質** 9:15-12:30	地域層序	ポスターコアタイム（体育館）	表彰式・受賞記念講演会（メルパルク長野）	懇親会（メルパルク長野）	**R8 堆積物** 8:45-11:00 **R9 ★1**	堆積	ポスターコアタイム（体育館）	**R9 炭酸塩岩** 14:30-16:15 **R10堆積過程** 16:30-17:45	炭酸塩	**R10 堆積過程** 8:45-10:45 **R7海洋 ★4**	海洋	ポスターコアタイム（体育館）	**R7 海洋** 14:30-17:45		第1会場
	第2会場（講義棟102）[168]	**R22 地球史** 9:00-12:30					**R22 ★2** **R17 ★3** **T4 三次元** 10:15-12:00	三次元		**T3 水蒸気噴火** 14:30-16:45	産学官	**R13 沈み込み帯** 8:45-11:45	構造		**R13 沈み込み帯** 14:30-16:15		第2会場
	第3会場（講義棟200）[230]						**S2 東アジア** 9:00-11:45			**S2 東アジア** 14:30-17:00	地殻ダイナミクス	**S1 北部フォッサマグナ** 8:45-11:45			**S1 北部フォッサ** 14:30-17:45		第3会場
	第4会場（講義棟300）[152]	**R21 第四紀** 9:00-12:30					**R21** 8:45-9:45 **R3 噴火** 10:00-12:00	火山		**R24 鉱物資源** 14:30-18:00	南極	**T6 地球史から宇宙史** 8:45-12:00					第4会場
	第5会場（講義棟301）[202]	**R12 変形と反応** 9:00-12:45					**R12** 8:45-10:00 **R14テクトニクス** 10:00-12:00	構造若手		**R14 テクトニクス** 14:30-18:00	地質学史	**R2岩石鉱物** 9:00-10:30 **R4変成岩** 10:45-11:45	岩石		**R4 変成岩** 14:30-17:45		第5会場
	第6会場（学部共通棟1）[80]	**R1 深成岩** 9:45-12:30					**R15 古生物** 10:45-11:45	地雑編集		**R15 古生物** 14:30-16:15 **R16ジュラ系** 16:30-17:45	環境	**S3 法地質学** 9:00-11:45			**R23 原子力** 14:30-17:45		第6会場
	第7会場（学部共通棟3）[80]	**R11 石油・石炭** 9:00-12:30					**R18 環境地質** 8:45-12:00			**R18環境** 14:30-15:30 **R19 応用地質** 15:45-17:45	技術者教育	**T5 泥火山** 8:45-12:00	現行過程		**特別講演会** 14:30-17:00		第7会場
	第8（太田国際記念館研修室）[84]	**T1 グリーンタフ** 9:15-12:30					**T2 文化地質** 8:45-12:00	文化地質		**T2文化地質** 14:30-15:45 **R20 地学教育** 15:45-17:45	博物館	**R6 ジオパーク** 9:15-11:45 一般公開				ジオパーク	第8
	休憩室（講義棟101）[160]										ジオ・アーケオロジー						休憩室
	講義棟203 [84]									**業界研究サポート** 14:00-17:00	INT RAD						講義棟203
ポスター（体育館）		R1深成岩・R5地域地質・R11石油・石炭・R12変形と反応・R22地球史					T2文化地質・T3水蒸気噴火・T4三次元・R3噴火・R8堆積物・R9炭酸塩岩・R10堆積過程・R14テクトニクス・R15古生物・R16ジュラ系・R17情報地質・R18環境地質・R19応用地質・R20地学教育・R21第四紀					S3法地質学・T5泥火山・R2岩石・鉱物・R4変成岩・R6ジオパーク・R7海洋地質・R13沈み込み帯・R23原子力 ORアウトリーチ **（注）ORはポスター掲示のみ．コアタイムはありません**					ポスター（体育館）
その他							・若手会員のための業界研究サポート（工学部講義棟 2階203） ・市民講演会（14:00-16:30　ホクト文化ホール） **・ORアウトリーチセッション　コアタイム** 一般公開（13:00-14:00/16:30-17:30 ホクト文化ホール外通路）**（注）R6ジオパークのポスター掲示もあり．**					・特別講演会「地質地盤情報の利活用と法整備」（第7会場） ・小さなEarth Scientistのつどい（9:00-15:30　体育館ポスター会場） ・地学教育・アウトリーチ巡検（8:30-16:00）					その他
		・地質情報展（9:30-17:00　長野市生涯学習センター TOiGOトイーゴ）					・地質情報展（9:30-17:00　長野市生涯学習センター TOiGOトイーゴ）					・地質情報展（9:30-16:00　長野市生涯学習センター TOiGOトイーゴ）					

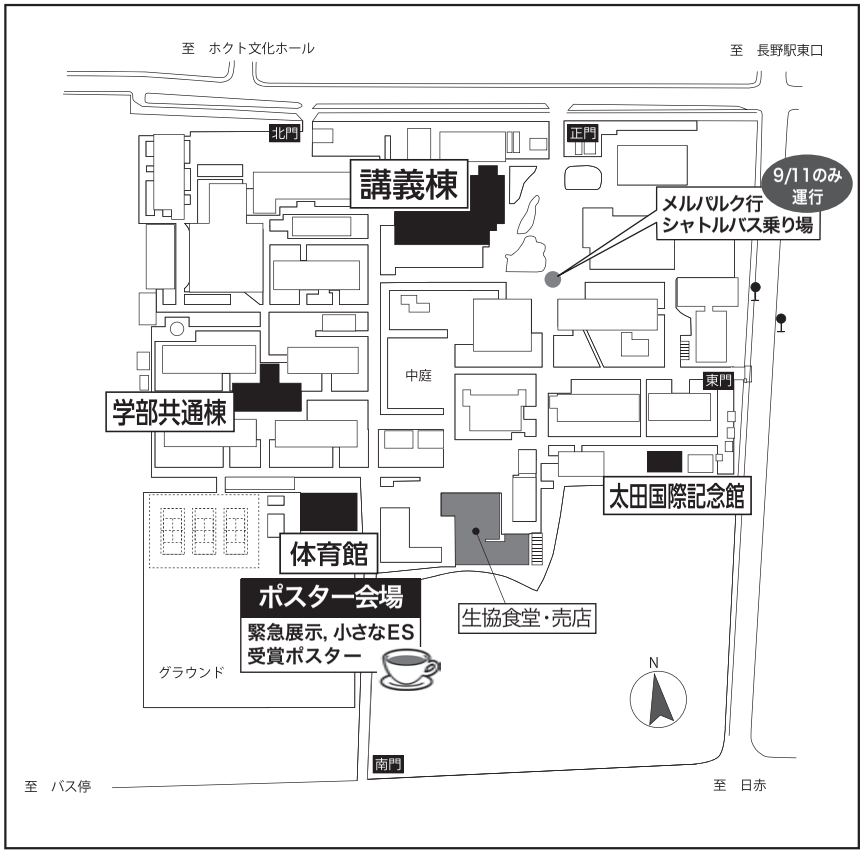
★1 R9．炭酸塩岩の起源と地球環境　9/12　第1会場　11:15-11:45

★2 R22．地球史　9/12　第2会場　8:45-9:30

★3 R17．情報地質とその利活用　9/12　第2会場　9:45-10:15

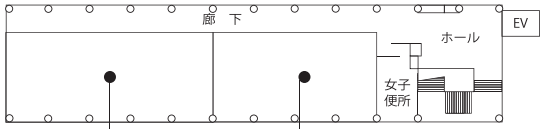
★4 R7．海洋地質　9/13　第1会場　11:00-11:45

信州大学　工学部キャンパス構内図



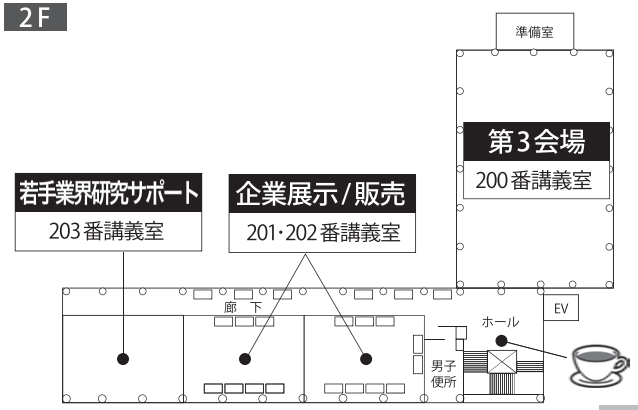
講義棟 1～3階

3F



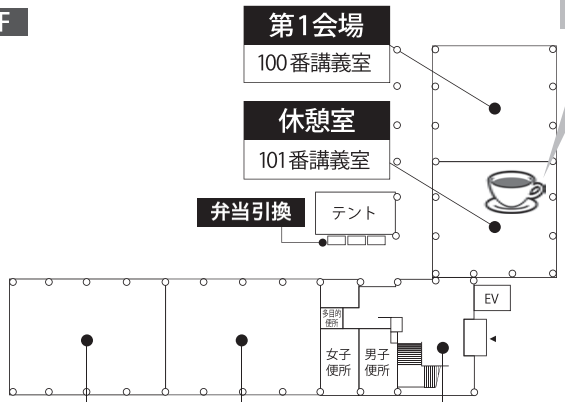
- 第5会場　301番講義室
- 第4会場　300番講義室

2F



- 第3会場　200番講義室
- 若手業界研究サポート　203番講義室
- 企業展示/販売　201･202番講義室

1F

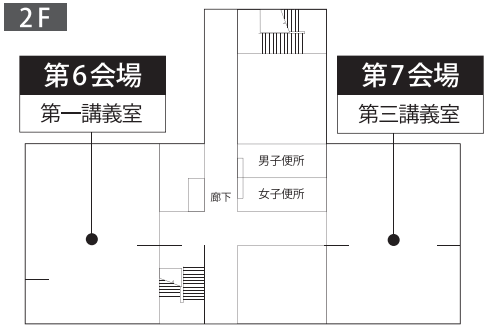


- 第1会場　100番講義室
- 休憩室　101番講義室
- 弁当引換
- テント
- 学会･大会本部スタッフ控え室　103番講義室
- 第2会場　102番講義室
- 総合受付

このマークの箇所にお茶・コーヒー等の用意がございます

学部共通棟　2階

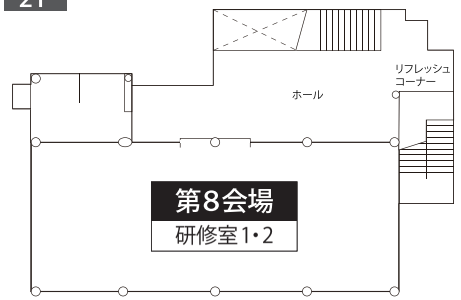
2F



- 第6会場　第一講義室
- 第7会場　第三講義室

太田国際記念館　2階

2F



- 第8会場　研修室1･2

※無線 LAN をご利用頂けます：総合受付周辺，休憩室で，無線 LAN を各自のパソコンでご利用頂けます．利用方法は，会場内に掲示します．

ランチョン・夜間小集会の予定

ランチョン

昼休みの時間帯を利用した会合です．昼食の用意はありませんので，各自でご用意下さい（口頭会場内は飲食不可の場合があります．ご確認ください）．都合により急遽会場が変更になる場合もありますので，会期中の掲示にご注意下さい．

9月11日（金）12：45〜13：45

第1会場　地域地質部会・層序部会合同（世話人：内野隆之）
部会活動やセッションについての議論と情報交換

9月12日（土）12：00〜13：00

第1会場　堆積地質部会（世話人：中条武司）
堆積地質部会の活動報告および国内外の堆積学に関する情報交換を行う．

第2会場　三次元地質モデル研究の展望（世話人：木村克己・升本眞二・高野　修・根本達也）
三次元地質モデル研究に関する国内外の最新動向をレビューし，今後の研究展開や技術開発の課題について，意見交換を行う．

第4会場　火山部会（世話人：長谷川　健）
次期部会幹事体制について，本大会トピックセッションの総括と特集号について話し合う．

第5会場　構造地質部会若手の研究発表会（世話人：武藤　潤）
構造地質部会若手の研究発表会を一人20分程度で2名ほどを予定．

第6会場　地質学雑誌編集委員会（世話人：秋元和實）
地質学雑誌の発行などに関する諸課題の解決に向けて，意見および情報交換する．

第8会場　文化地質学（世話人：鈴木寿志）
文化地質学の研究活動について，科研費研究の進展状況，特集号の編集状況を含め，情報交換を行う．これらに関わっていなくても，関心のある方はどなたでもご参加ください．

9月13日（日）12：00〜13：00

第1会場　海洋地質部会（世話人：芦　寿一郎・小原泰彦・板木拓也）
海洋地質関連の研究機関における最近の研究動向と今後の調査の紹介を行い，各種情報を共有するとともに，海洋地質部会の活動について議論する．

第2会場　構造地質部会定例会（世話人：武藤　潤・丹羽正和・氏家恒太郎）
過去の活動報告，会計報告，今後の活動計画など

第5会場　岩石部会（世話人：鵜澤（平原）由香）
岩石部会に関連した審議の必要な事項について，審議を行う．また，会員への報告が必要な件についても報告を行う．その他にも，提案したり，連絡をすべき件があれば，ランチョンでの議題として取り上げる．

第7会場　現行地質過程部会（世話人：辻　健）
現行地質過程部会の活動報告，年間予定などを話し合う．部会以外の人たちも大歓迎．

夜間小集会

都合により急遽会場が変更になる場合もありますので，会期中の掲示にご注意下さい．

9月12日（土）18：00〜19：30

第1会場　炭酸塩堆積学に関する懇談会（世話人：奥村知世・高島千鶴・松田博貴）
炭酸塩堆積学に関連する最近の研究動向や成果について紹介し，意見・情報交換を行う．

第2会場　産官学の堆積学者の集い：明日の堆積学を担う若手研究者の育成プログラム（世話人：武藤鉄司・田村　亨）
堆積学系研究者の若手育成・人材確保を主目的とした産官学連携の緩やかなコンソーシアムを設立する方向で検討が進められている．本集会をもって，コンソーシアム設立に関わる意見集約の場の一つとしたい．

第3会場　地殻ダイナミクス（世話人：竹下　徹）
新学術領域研究「地殻ダイナミクス」に関する研究紹介と情報交換を行う．本領域に直接関連されていない方の参加を歓迎する．

第4会場　南極地質研究委員会（世話人：外田智千）
・南極観測の現況と南極地質将来計画について
・その他（第12回国際南極地学シンポジウム報告）

第5会場　地質学史懇話会（世話人：会田信行）
信州の地質学史に関する講演2題
・田辺智隆：信州地質学の原点　保科五無斎－明治時代の在野の地質学者－
・富樫　均：信州の地学遺産とその活用

第6会場　環境地質部会（世話人：田村嘉之・風岡　修）
環境地質に関する講演，事務連絡など

第7会場　地質技術者教育委員会（世話人：山本高司）
①中期ビジョンに対しての具体的取り組み，
②ジオスクリーニングのCPD単位基準変更，
③その他（就職・民間から公務員への転職）

第8会場　博物館における地質系学芸員の戦略（世話人：川端清司・平田大二）
規模の大小を問わず全国各地の博物館では，地質系学芸員がそれぞれの現状を踏まえて他館との連携も含めてユニークな活動をしている．今後は，さらに連携が期待されていくものと思われます．今後の活動のヒントになるようなTIPS紹介や，各館における課題（収蔵庫，後継学芸員の採用など）について，今後の戦略を考える機会にしたい．

講義棟101（休憩室）　ジオ・アーケオロジー（世話人：渡辺正巳・井上智博・趙　哲済・松田順一郎・小倉徹也・別所秀高）
長野県北部の「立が鼻遺跡」で発掘調査を続けている野尻湖発掘調査団の内山　高さん（山梨県富士山科学研究所）に，「長野県北部野尻湖遺跡の自然環境と人類」として講演して頂く．

講義棟203　15th INTERRADに関する意見交換（世話人：松

岡　篤・鈴木紀毅・板木拓也・栗原敏之）
第15回INTERRAD（国際放散虫研究者協会）の2017年10月日本開催に向けて，準備状況を共有し，これからの取組について意見交換を行う．

9月13日（日）18：00〜19：30

第８会場　ジオパークの活性化をめざして（世話人：天野一男・平田大二・渡辺真人）
近年，日本において多くのジオパークが成立している．また，本年９月にはユネスコの正式プログラムになる可能性が大きい．この状況の中で，日本地質学会のジオパーク支援のあり方について率直な意見交換を行う．

発　表　者　へ

発表者は本学会または共催学協会の会員に限ります（招待講演者を除く）．共同発表の場合は，この制限を代表発表者（講演要旨に下線を引いた著者）に適用します．やむを得ない事情により，あらかじめ連記された共同発表者内で発表者の変更を希望する場合は，必ず事前に行事委員会（会期前は学会事務局，会期中は学会本部）に連絡して下さい．この場合も，シンポジウムおよびアウトリーチセッション以外の場合は「会員に限り１人１題（発表負担金を支払った場合は２題）」の制限を守るものとします．代理人の代読，会場内での突然の発表者変更，発表順序の変更は認めません．口頭発表者は発表時間を厳守して下さい．持ち時間 15 分のうち，発表は 10 〜 12 分とし，質疑応答と講演者の交代時間を確保してください（30 分の招待講演の場合，発表 20 〜 25 分）．発表に際しては座長の指示に従い，会場運営がスムーズに行われるようご協力下さい．

口頭発表

・１題15分（質疑応答と講演者の交代時間３〜５分を含む）．ただしシンポジウムとセッション招待講演は除きます．
・口頭発表会場には液晶プロジェクターとWindowsパソコン（OS：Windows 7 対応，PowerPoint2007. 2010. 2013 対応）を用意します．

【講演ファイルをUSBメディアでご持参の方】
ファイルのインストールは，セッション開始前に，講演会場前方パソコン設置台にて行ってください．各会場のパソコンのデスクトップ上には日付（例0911）のフォルダが配置されており，その中にセッション番号のサブフォルダ（例T1）が配置されています．そのサブフォルダ内に講演ファイルを保存してください．ファイル名は「発表番号と演者氏名」にしてください（例：S1-O-１長野太郎，T1-O-13松本花子）．インストール後，ファイルが正常に投影されることを必ず確認してください．特に，会場のPCと異なるバージョンで作成されたパワーポイントのファイルは，レイアウトが崩れる場合がありますのでご注意ください．

【ご自分のパソコンを使用して講演する方】
Macパソコンをお使いになる方，ソフトの互換性からレイアウトが崩れる可能性のある方，パワーポイント以外のプレゼンテーションソフトをご利用の方は，ご自身でパソコンをご用意ください．会場の液晶プロジェクターにパソコンの切り替え器（ケーブル形状はD-SUB15ピン）を用意します．プロジェクターの解像度設定はXGA（1024×768）です．講演前に出力調整の上，接続してください．Macパソコンをお使いになる方は，必ずD-SUB15ピンのアダプターをご持参ください．接続は発表者自身が責任を持って行なってください．セッション開始前に試写し，正常に投影されることを必ず確認してください．

口頭発表の注意
今大会もPCセンターを設置しません（ニュース誌５月号を参照）．セッションが円滑に進むように，次の注意点をよくご確認ください．

１）発表はできるだけ会場備え付けのWindowsパソコンをご使用下さい（ただしMacご利用の方と動画を使用する方はご自身のパソコンをご用意下さい）．プロジェクター解像度は1024×768ドット（XGA）です．パワーポイント・ファイルをUSBフラッシュメモリで持参し，セッション開始前にパソコンにコピーして下さい（セッション終了後，世話人がファイルを削除します）．フォントは特殊なものではなく，PowerPointに設定されている標準的なものを使用して下さい．セッション開始前に発表会場で正常に投影されることを必ず確認して下さい．
２）ご自身のパソコンで発表する方は，セッション開始前に発表会場において正常に接続・投影されることを確認して下さい．事前に解像度（上記）の設定をご確認下さい．会場の接続端子はD-SUB15ピン（ミニ）です．パソコンによってはコネクタが必要になる場合がありますので必ずご持参下さい（会場にはありません）．確認作業の混雑とそれによるセッション開始の遅れを防ぐため，早めの確認作業をお願いします．なお，発表者が事前確認を怠ったために発表時にトラブルが生じても時間延長等の措置は取りません．

ポスターセッション

・掲示する際のチェスピンを準備いたします．テープは利用できません．
・掲示可能時間は9：00〜18：00です．最低掲示時間帯（10：00〜17：00．ただし11日は10：00〜15：05）は必ず掲示して下さい！．撤収は必ず19：00までにお願いします．
・コアタイムは，11日（金）が13：45〜15：05，12日（土）と13日（日）が13：00〜14：20です．この時間は必ずポスターに立ち会い，説明して下さい．その他の時間は各自の都合により随時説明を行って下さい．
・ボード面積は，高さ210 cm，幅120 cmです．
・ポスターには，発表番号・発表題名・発表者名を必ず明記して下さい．
・コンピューターやビデオを使用される場合，機器の準備は各自で行ってください．電源は確保できませんので，予備バッテリーをご準備下さい．
・ポスター発表に対し，別記の要領にて優秀ポスター賞が授与されます．奮ってご準備下さい．

OR，R６のポスター発表について

ORアウトリーチセッション，R６ジオパークセッションは，一般市民へのアウトリーチ活動を目的として，下記のように発表を行います．

［**ORアウトリーチセッション**］

12日（土）：場所　ホクト文化ホール（市民講演会会場）．掲示可能時間（11：00～17：30），コアタイム（13：00～14：00，16：30～17：30；計２回）

13日（日）：場所　工学部体育館（ポスター会場）．掲示のみ，コアタイムはありません．（※ポスター賞審査対象日）

［**R６ジオパークセッション**］

12日（土）：場所　ホクト文化ホール（市民講演会会場）．掲示のみ，コアタイムはありません．

13日（日）：場所　工学部体育館（ポスター会場）．コアタイム（13：00～14：20）（※ポスター賞審査対象日）

優秀ポスター賞について

今大会でも学術発表の優秀ポスターに対して「日本地質学会優秀ポスター賞」を授与します．毎日３～５件の予定です．受賞者には学会長から直接賞状を授与します（表彰と写真撮影）．受賞ポスターは，その栄誉をたたえ，大会期間中，別途設けるボードに掲示します．大会終了後，News誌（年会報告記事）に氏名，発表題目，受賞理由を掲載します．

【審査】

審査は各賞選考委員会が行い，学会長がこれを承認します．選考委員会は日替わりで，行事委員会委員５名，大会実行委員会代表１名および各賞選考委員会委員２名の合計８名により構成されます．選考委員氏名は大会終了後に公表します（News誌11月号を予定）．

【審査のポイント】

・（研究内容）オリジナリティ

・（プレゼンテーション）レイアウト・中心点の明示・わかりやすさ・美しさ・斬新さ

【審査結果の発表時間と方法】

発表は各日毎16時頃に行います．表彰は17時前後にポスター会場で行います．ただし，初日（11日）の表彰は，２日目（12日）の表彰時にあわせて行う予定です．審査結果は掲示板や廊下等の要所に貼り出します．受賞ポスターには受賞花をつけ，会期中ポスター会場に掲示します．

シンポジウム・セッション一覧

＊印は代表世話人（連絡責任者）です．

シンポジウム

S１．北部フォッサマグナ —東西日本の地質境界：過去，現在，そして未来—［信州大学山岳科学研究所共催］

North Fossa Magna : Past, present and future of the geologic boundary between NE and SW Japan Arc.

世話人：原山　智*（信州大：shara@shinshu-u.ac.jp）・廣内大助（信州大）・常盤哲也（信州大）

S２．東アジアのテクトニクスと古地理（国際シンポジウム）

Early Tectonics and Paleogeography of East Asia

世話人：ウォリス サイモン（名古屋大），井龍康文（東北大），Mark Williams（Leicester Univ.），大路樹生（名古屋大），村越直美（信州大）

S３．法地質学の進歩［IUGS-法地質学イニシアチブ，日本法科学技術学会，医療地質－地質汚染－社会地質学会共催］（国際シンポジウム）

Development of Forensic Geology

世話人：杉田律子*（科学警察研究所：sugita@nrips.go.jp）

トピックセッション

T１．グリーンタフ・ルネサンス

Green Tuff renaissance

天野一男*（茨城大学：ikap@cap.ocn.ne.jp）・細井　淳（産業技術総合研究所）・松原典孝（兵庫県立大学大学院）

T２．文化地質学

Cultural geology

鈴木寿志*（大谷大：hsuzuki@res.otani.ac.jp）・先山　徹（兵庫県立大・院）・石橋弘明（大谷大）

T３．水蒸気噴火と火山体構造

Phreatic eruption and related volcanic structures

長谷川　健*（茨城大：hasegawt@mx.ibaraki.ac.jp）・及川輝樹（産総研）・竹下欣宏（信州大）

T４．三次元地質モデル研究の新展開

Recent progress on the three-dimensional geological modeling

木村克己*（（独）防災科学技術研究所災害リスク研究ユニット（NIED）k.kimura@bosai.go.jp）・升本眞二（大阪市大・院）・高野　修（石油資源開発）・根本達也（大阪市大・院）

T５．「泥火山」の新しい研究展開に向けて

Advanced Mud Volcano Studies

浅田美穂*（JAMSTEC：asadam@jamstec.go.jp）・土岐知弘（琉球大）・井尻　暁（JAMSTEC）・辻　健（九州大）・森田澄人（産総研）

T６．地球史から宇宙史へ：日本の地球史研究25年

From geohistory to cosmohistory: A quarter century of Earth history studies in Japan

磯崎行雄*（東京大；isozaki@ea.c.u-tokyo.ac.jp）・小宮　剛（東京大）・片山郁夫（広島大）

レギュラーセッション

※セッション名に続く（　）は責任母体となる専門部会または委員会です．

R１．深成岩・火山岩とマグマプロセス（火山部会・岩石部会）

Plutonic rocks, volcanic rocks and magmatic processes

長谷川　健*（茨城大：hasegawt@mx.ibaraki.ac.jp），高橋俊郎（新潟大）

R２．岩石・鉱物・鉱床学一般（岩石部会）

Petrology, mineralogy and economic geology

壷井基裕*（関西学院大：tsuboimot@kwansei.ac.jp），纐纈佑衣（名古屋大）

R３．噴火・火山発達史と噴出物（火山部会）
Eruption, evolution and products of volcanic processes
長井雅史*（防災科研：mnagai@bosai.go.jp），長谷川　健（茨城大），上澤真平（電中研）

R４．変成岩とテクトニクス（岩石部会）
Metamorphic rocks and tectonics
小林記之（名古屋学院大：t-koba@ngu.ac.jp），足立達朗（九州大），吉田健太（大阪市大）

R５．地域地質・地域層序・年代層序（地域地質部会・層序部会）
Regional geology and stratigraphy, chronostratigraphy
松原典孝*（兵庫県立大：matsubara-n@stork.u-hyogo.ac.jp），内野隆之（産総研），岡田　誠（茨城大）

R６．ジオパーク（地域地質部会・ジオパーク支援委員会）　一般公開
Geopark
天野一男*（茨城大：kazuo@mx.ibaraki.ac.jp），高木秀雄（早稲田大），渡辺真人（産総研）

R７．海洋地質（海洋地質部会）
Marine geology
芦　寿一郎*（東大大気海洋研：ashi@aori.u-tokyo.ac.jp），小原泰彦（海上保安庁），板木拓也（産総研）

R８．堆積物（岩）の起源・組織・組成（堆積地質部会）［共済：日本堆積学会，石油技術協会探鉱技術委員会，日本有機地球化学会］
Origin, texture and composition of sediments
太田　亨*（早稲田大：tohta@toki.waseda.jp），野田　篤（産総研）

R９．炭酸塩岩の起源と地球環境（堆積地質部会）［共催：日本堆積学会，石油技術協会探鉱技術委員会，日本有機地球化学会］
Origin of carbonate rocks and related global environments
山田　努*（東北大：t-yamada@m.tohoku.ac.jp），足立奈津子（鳴門教育大）

R10．堆積過程・堆積環境・堆積地質（堆積地質部会・現行地質過程部会）［共催：日本堆積学会，石油技術協会探鉱技術委員会，日本有機地球化学会］
Sedimentary geology, processes and environments
高清水康博*（新潟大：takashimi@ed.niigata-u.ac.jp），西田尚央（産総研），酒井哲弥（島根大）

R11．石油・石炭地質学と有機地球化学（石油石炭関係・堆積地質部会）［共催：石油技術協会探鉱技術委員会，日本有機地球化学会，日本堆積学会］
Geology and geochemistry of petroleum and coal
金子信行*（産総研：nobu-kaneko@aist.go.jp），千代延仁子（石油資源開発），三瓶良和（島根大）

R12．岩石・鉱物の変形と反応（構造地質部会・岩石部会）
Deformation and reactions of rocks and minerals
高橋美紀*（産総研：miki.takahashi@aist.go.jp），廣瀬丈洋（JAMSTEC），大坪　誠（産総研），水上知行（金沢大）

R13．沈み込み帯・陸上付加体（構造地質部会・海洋地質部会）
Subduction zones and on-land accretionary complexes
氏家恒太郎*（筑波大：kujiie@geol.tsukuba.ac.jp），橋本善孝（高知大），坂口有人（山口大），中村恭之（JAMSTEC）

R14．テクトニクス（構造地質部会）
Tectonics
武藤　潤*（東北大：muto@m.tohoku.ac.jp），安江健一（JAEA），針金由美子（産総研）

R15．古生物（古生物部会）
Paleontology
生形貴男（京都大），太田泰弘（北九州博），三枝春生（兵庫県立人と自然の博），上松佐知子*（筑波大：agematsu@geol.tsukuba.ac.jp）

R16．ジュラ系＋（古生物部会）
The Jurassic +
松岡　篤*（新潟大：amatsuoka@geo.sc.niigata-u.ac.jp）近藤康生（高知大），小松俊文（熊本大），石田直人（明治大），中田健太郎（城西大）

R17．情報地質とその利活用（情報地質部会・地域地質部会）
Geoinformatics and its application
野々垣　進*（産総研：s-nonogaki@aist.go.jp），斎藤　眞（産総研）

R18．環境地質（環境地質部会）［共催：地質汚染－医療地質－社会地質学会］
Environmental geology
難波謙二（福島大），風岡　修（千葉環境研），三田村宗樹（大阪市大），田村嘉之*（千葉県環境財団：y_tamtam3012@nifty.com）

R19．応用地質学一般およびノンテクトニック構造（応用地質部会）
Engineering geology and non-tectonic structures
西山賢一（徳島大），亀高正男*（（株）ダイヤコンサルタント：m.kametaka@diaconsult.co.jp），須藤　宏（応用地質（株））

R20．地学教育・地学史（地学教育委員会）
Geoscience Education/History of Geoscience
矢島道子*（東京医科歯科大：pxi02070@nifty.ne.jp），三次徳二（大分大）

R21．第四紀地質（第四紀地質部会）
Quaternary geology
公文富士夫*（信州大：shkumon@gipac.shinshu-u.ac.jp），竹下欣宏（信州大）

R22．地球史（環境変動史部会）
History of the Earth
清川昌一*（九州大：kiyokawa@geo.kyushu-u.ac.jp），山口耕生（東邦大），小宮　剛（東京大），尾上哲治（熊本大），須藤　斎（名古屋大）

R23．原子力と地質科学（地質環境の長期安定性研究委員会）［共催：日本原子力学会バックエンド部会］
Nuclear energy and geological sciences

吉田英一*（名古屋大：dora@num.nagoya-u.ac.jp），梅田浩司（日本原子力研究開発機構），高橋正樹（日本大），渡部芳夫（産総研）

R24. 鉱物資源と地球物質循環（鉱物資源部会）
Mineral resources and global material cycles
加藤泰浩*（東京大：ykato@sys.t.u-tokyo.ac.jp），岩森　光（JAMSTEC），中村謙太郎（東京大）

OR. 日本地質学会アウトリーチセッション（ポスター発表のみ）　一般公開
Outreach session
星　博幸*（愛知教育大：hoshi@auecc.aichi-edu.ac.jp）・須藤　斎（名古屋大）

シンポジウム・セッションハイライト

一昨年の仙台大会からの試みとして，「シンポジウム・セッションハイライト」を作成しています．それぞれのシンポジウム・セッションがより盛り上がることを期待して，また，会場で学術大会に不慣れな方（学生など）にわかりやすく情報を提供し，おもしろいサイエンスにひとつでも多く接してもらうことを目的に，「おもしろそう，注目すべき，ぜひ聞いてほしい」発表を世話人に選んでいただき，わかりやすく紹介いただきました．

ハイライトは，本プログラム記事のほか，学会 HP と講演要旨集に掲載し，さらに学会プレス発表時に報道機関に配布いたします．何らかの理由で学会のプレス推薦候補にならなかった優れた研究が埋もれているかもしれません．そのようなものをできるだけ発掘し，より多くの学術情報を提供したいと考えます．

今大会では 3 件のシンポジウムと 31 件のセッション（トピック，レギュラー，アウトリーチ）が開催され，600 題を超える多くの発表が行われる予定です．このハイライト情報はきっと皆様のお役に立つと思います．日本最大の「地質学の祭典」をお楽しみください．

2015 年 8 月
日本地質学会行事委員会

講演番号・発表日時・会場	発表者氏名	発表タイトル	紹介文	キーワード
T 1．グリーンタフ・ルネサンス				
T1-O-1［招待］ 11日（金） 第 8 会場 9：15～9：45	中嶋　健 ほか 4 名	日本海の拡大とグリーンタフ期の日本列島のテクトニクス	日本海形成問題については，①拡大メカニズムの解明，②拡大時期の決定という 2 つの問題が残っている．本講演は，この 2 つの観点から新生代日本列島のテクトニクスを論じている．日本海形成問題についてのレビューもなされており，日本列島新生代テクトニクスに興味のある方には，おすすめの講演である．日本海形成問題は実証的研究がまたれている未解決重要課題である．	日本海拡大，島弧テクトニクス
T1-O-2［招待］ 9月11日（金） 第 8 会場 9：45～10：15	星　博幸	日本における新第三紀回転運動の新知見	新生代の日本列島テクトニクス解明のためには，グリーンタフ研究が一層重要となっている．中でも，日本海形成問題は，実証的研究がまたれている未解決重要課題である．本講演は，西南日本の急速時計回り回転の時期，伊豆弧衝突による本州地殻の回転運動についての新知見を紹介している．グリーンタフ研究に新たな局面を開く研究として興味深い発表である．	日本海拡大，西南日本の回転，伊豆弧衝突
T 2．文化地質学				
T2-O-5［招待］ 12日（土） 第 8 会場 9：45～10：15	尾池和夫	文化と日本列島のジオ多様性	講演者の尾池氏は，いわずと知れた日本を代表する地震学者である．氏は，日本列島が変動帯に位置することから，安定大陸とは異なる多様性に富んだ地質が形成され，それが独自の「変動帯の文化」を生み出したと考えた．日本海の形成は，四季の明瞭化につながり，それは日本人の心に美意識をもたらした．その代表的表現は，俳句の季語である．京文化・俳句・ジオパークという一見関係がないようにみえる文化事象を，地質学的視点で統合する．地質学者必聴の講演である．	変動帯の文化，俳句，ジオパーク
T2-O-6 12日（土） 第 8 会場 10：15～10：30	大友幸子 ほか 5 名	山形城坤櫓遺構の等高線図と栗石の礫種組成	先進技術のドローン（UAV）を地質学・考古学調査に利用した意欲的な研究．空中から撮影した画像をコンピューターソフトで解析することで等高線間隔 3 cmの地形図を作成することに成功した．地質調査において調査地点の地形図が欲しくても，高精度のものを短期間でつくることは今まで困難であった．新たな手法の確立は地質学者全般にとって研究の可能性を拡げるものとなるだろう．	ドローン，高精度地形図，山形城
T2-O-10 12日（土） 第 8 会場 11：15～11：30	安間 了 ほか 8 名	スレイマニヤ博物館所蔵のメソポタミア粘土板胎土の組成	世界最古の記録文書は地質媒体だった．いわれてみれば当たり前の事実であるメソポタミアのくさび文字が記録された粘土板．意外にも，有孔虫や円石藻が含まれている海成粘土も一部で使われていたようである．考古学的には文字の解読に主眼が置かれているが，演者たちは，記録媒体である地質素材の分析結果から，古代文明の謎に迫る．	メソポタミア文明，粘土板，スレイマニヤ考古博物館

T2-O-12 12日（土） 第８会場 11：45～12：00	谷川　亘 ほか11名	土佐清水市竜串海底の石柱群の歴史地震考古学的意義	高知県西部，竜串沖には謎の石柱群が沈んでおり，684年の白鳳地震の際に海中に没した村があるという伝説との関わりで注目されている．石柱を回収して材質と形状を分析した結果，石柱は砂岩から作られ，同様のものが付近の村で使用されていることがわかった．南海地震の歴史と被災実態に迫る注目すべき講演である．	竜串爪白海岸，砂岩，南海地震
T2-O-13 12日（土） 第８会場 14：30～14：45	筬島聖二	西彼杵半島のシシ垣	長崎県の西彼杵半島では，江戸時代より野生動物の田畑への侵入を防ぐための石塁，「シシ垣」が数多く築かれてきた．現在では電気柵などに変更されたため山林に放棄されたが，筬島氏はそれらの石塁を詳細に調査し，遺存状況，石材材質による形状の違い，設置場所の地質との対応関係を明らかにした．民俗や農林業が，実は地質と深い関わりをもってきたことを示す講演である．	石塁，野生動物，人の生産活動
T４．三次元地質モデル研究の新展開				
T4-O-3［招待］ 12日（土） 第２会場 10：45～11-15	関口春子 ほか７名	大阪堆積盆地構造モデルの改良	堆積盆地での地震動評価には三次元の速度構造モデルが構築されるが，地質モデルとの整合性が検証されていない場合が少なくない．本講演では，大阪堆積盆地を例に，豊富な地下構造探査データに基づき，地質と物理探査データとを有機的に統合する手法と，その結果構築された高い精度の三次元モデルの事例が地震学の代表的な研究者によって紹介される．	地震動，三次元モデル，堆積盆地
T4-O-5［招待］ 12日（土） 第２会場 11：30～12：00	秋山泰久	CIMにおける地質・地盤の３次元モデルについて	国土交通省が進める建築・土木分野でのCIM（Construction Information Modeling）では，建築・構造物と同様に地盤についても三次元のモデル化が求められている．本講演では，各種公共事業の利用目的に応じた三次元地質モデルとはどういうものなのか，必要とされるモデルの精度，工学的な属性情報の与え方，情報の管理・運用などに関する課題とその方策が紹介される．	CIM，三次元モデル，地盤
T4-P-2 12日（土） ポスター会場 コアタイム 13：00～14：20	芝原暁彦 ほか３名	積層型の立体造形物と３Dプロジェクションマッピングを用いた，地質情報の可視化およびアウトリーチ手法の現状	立体物を対象とした映像技術であるプロジェクションマッピングを三次元地質モデルの可視化に利用するため，著者らは，可搬性の高い「精密立体地質模型」システムを開発し，国内外の学会での展示や教育現場でのアウトリーチで精力的に活用している．その技術はマスコミにも注目されTV番組でもたびたび紹介さているほどだ．ポスター発表では，その開発経緯やさらに複数の積層型の立体造形物への地下構造手法へと発展させている事例が紹介される．	立体地質模型，プロジェクションマッピング，可視化
T５．「泥火山」の新しい研究展開に向けて				
T5-O-8［招待］ 13日（日） 第７会場 10：45～11：15	田中和広	陸上泥火山研究の進展	泥火山は，広域圧縮場の地下深部に静置される物質が，何かのトリガーをもって，地表まで上昇して発現する地質学的現象である．海洋にあっては，現在の掘削技術をもってしても到達困難な地下深部情報を手に入れるための，未踏の研究領域である．陸上泥火山研究はどこまで進んだか，陸上でしか知り得ない特徴とは何か．陸上泥火山研究を牽引して来られた田中先生が最新の研究成果を総括してくださる，この貴重な機会を見逃すな！	
T5-O-10 13日（日） 第７会場 11：30～11：45	谷川　亘 ほか２名	LUSI泥火山の特徴と発生過程の再検討（レビュー）	インドネシアのシドアルジョで2006年に発生した泥火山による災害をご存知だろうか．LUSI泥火山と呼ばれるその災害は，地表で100℃にもなる高温の泥水が噴き出し，街を埋めてもなお噴き出し続けた．この泥流噴出現象のトリガーが二日前に遠地で発生した地震であったか，近隣で遂行されていた掘削事業であったのか，議論には未だ決着がついていない．この事象を谷川さんが分かり易くまとめて解説してくれる．	LUSI（Lumpur Sidoarjo），泥火山災害，高間隙水圧
R２．岩石・鉱物・鉱床学一般				
R2-O-6 13日（日） 第５会場 10：15～10：30	前川寛和 ほか４名	三内丸山遺跡出土の緑色磨製石斧の岩石学的特徴とその原産地	三内丸山遺跡及で大量に出土する緑色磨製石斧の岩石学的特徴を調べ，原産地について議論する．北海道沙流郡平取町額平川流域に分布する『アオトラ石』と，上流域の緑色岩，及び緑色磨製石斧の化学組成を比較する事で，石斧の供給源を考察した．	
R４．変成岩とテクトニクス				
R4-O-5［招待］ 13日（日） 第５会場 14：30～15：00	板谷徹丸	高圧・超高圧変成岩のフェンジャイトK-Ar年代学	長年にわたりK-Ar年代測定法の開発と適用法について研究をリードしてきた板谷氏による講演．これまで板谷氏は，フェンジャイトの閉止温度が広く受け入れられてきた350℃よりも高く，600℃以上に達している可能性を示唆し，さらに塑性変形によるArの離散影響があることを示してきた．本講演では，フェンジャイトK-Ar年代学から見えてきた，大陸衝突型造山帯と太平洋型造山帯の新しい変成帯上昇テクトニクスの具体例について紹介いただく．	K-Ar年代測定法，変成帯上昇テクトニクス

R4-O-9［招待］ 13日（日） 第５会場 15：45～16：15	廣井美邦 ほか15名	グラニュライト中の「珪長岩包有物」から推定される大陸衝突型造山帯での地殻深部過程	近年，登壇者である廣井氏は，最も良く平衡に達していると考えられるグラニュライト中から，火山岩様組織を保持する「珪長岩包有物」を発見し，その地質学的意義について検討してきた．この包有物中には石英や長石などの微細な樹枝状結晶組織等が保存されており，平衡から大きくかけ離れた条件（過冷却）で結晶化し，その後急冷されたことが示唆される．この発見は，地下深部物質の上昇メカニズムを解明する重要な手掛りとなる．	グラニュライト，珪長岩包有物，過冷却
R4-P-3 13日（日） ポスター会場 コアタイム 13：00～14：20	曽田祐介 ほか４名	アンチゴライト形成反応と酸化還元状態の変化	蛇紋岩化作用は近年地震の発生プロセスとの関連が指摘されるなど注目が集まっている．本研究は，ダナイトを原岩とし，高温下で形成されたアンチゴライト蛇紋岩について，詳細な岩石記載に基づいてその形成プロセスに迫る研究である．特に注目すべき成果として，複数の硫化鉱物をはじめとする不透明鉱物の解析により，高温下での蛇紋岩化に伴うより酸化的な状態への変化が示されたことが挙げられる．	蛇紋岩化作用，アンチゴライト，硫化鉱物
R4-P-19 13日（日） ポスター会場 コアタイム 13：00～14：20	坂田龍玄 ほか２名	日高変成帯南部における熱輸送機構の解明	日高変成帯における加熱イベントの熱源と熱輸送機構を明らかにするために，地質温度計などのオーソドックスな手法に加え，ザクロ石の粒径分布とその空間分布の関係に着目した研究．ニカンベツカンラン岩体を中心とする地温勾配を復元することに成功し，この岩体が熱源であることと，カンラン岩体近傍において見られる非常に高い地温勾配がマグマ輸送によるものであることを提案した．	日高変成帯，カンラン岩体，地温勾配
R4-P-24 13日（日） ポスター会場 コアタイム 13：00～14：20	中村佳博 ほか３名	石墨化実験のアレーニウス則に基づく地質学的外挿	従来の室内実験に基づくと，完全に秩序化した石墨を形成する活性化エネルギーは極めて高く，変成作用中の石墨の形成過程をうまく説明できないという問題が指摘されていた．発表者らは，変成岩に適用する上で地質学的に妥当な温度圧力条件で，新たに実験を行ってパラメタを求めた．更に，得られた結果を用いて地殻の温度圧力条件での石墨形成過程の検討を行い，変成作用中の石墨形成過程をうまく説明することが可能となることを明らかにした．	石墨，活性化エネルギー
R５．地域地質・地域層所・年代層序				
R5-O-5 11日（金） 第１会場 10：15～10：30	菅沼悠介 ほか10名	Byk-E（白尾）テフラのSHRIMP U-Pb年代測定に基づくMatuyama-Brunhes境界年代値の高精度決定	Matuyama-Brunhes（M-B）境界については780 kaが広く受け入れられているが，近年約10 ka若い境界年代値が報告されている．演者らも上総層群国本層千葉セクションのM-B境界年代値をByk-Eテフラのジルコン U-Pb年代値から770.2±7.3 kaとしている．本講演では従来のM-B境界年代値がより若くなる可能性と，Ar/Ar年代測定に利用される標準試料年代に再検討の余地がある事が示される．新たな境界年代値設定の可能性を示す本研究は注目に値する．	Matuyama-Brunhes境界，Byk-Eテフラ，ジルコンU-Pb年代
R5-P-28 11日（金） ポスター会場 コアタイム 13：45～15：05	原田達也 ほか３名	岡山県北部におけるカンブリア紀後期を示す花崗岩マイロナイトの発見	演者らは岡山県北部の久米地域の周防帯から，488.7±2.9 Maのジルコン U-Pb年代を示す花崗岩マイロナイトを見出した．近年，日立変成岩類を始め，カンブリア紀の年代を示す岩石が見出されているが，周防帯でも同時代の岩石が見出された事は意義深い．	花崗岩マイロナイト，ジルコンU-Pb年代，カンブリア紀
R5-P-32 11日（金） ポスター会場 コアタイム 13：45～15：05	三宅由洋 ほか３名	二枚貝フォーナと砕屑性クロムスピネルを用いた黒瀬川帯下部白亜系の古地理	演者らは，黒瀬川帯に分布する下部白亜系ついて，二枚貝フォーナと砕屑性クロムスピネルを用いて古地理の復元を試みた結果，高緯度から低緯度にかけて物部川層群，先外和泉層群，南海層群の順で列状配列していた事を明らかにした．そしてそれらの現在の分布が黒瀬川帯形成に関わる横ずれ運動の結果であると推定した事は興味深い．	黒瀬川帯，下部白亜系，古地理復元
R６．ジオパーク				
R6-O-2［招待］ 13日（日） 第８会場 9：30～10：00	松原典孝	日本のジオパークの現状と課題	日本のジオパークは現在36地域（７つの世界ジオパークを含む）におよび，活発な活動を展開している．また，近い内にジオパーク事業がユネスコの正式プログラムになる可能性も伝えられている．地域活性化，教育活動，民・官・学の連携，研究機関の積極的関与などの観点から今後のジオパークのあり方について，山陰海岸ジオパークでの実践例に基づいて考察している．ジオパークに関心のある方必聴の講演．	ジオパーク，地域活性化，学術スタッフ
R７．海洋地質				
R7-O-4［招待］ 13日（日） 第１会場 14：30～15：00	石橋純一郎	沖縄トラフの海底熱水系の地球化学的特徴	石橋氏は，大学院時代であった1980年代初頭の沖縄トラフ調査の黎明期（海上保安庁水路部によるマルチビームマッピングの開始と「しんかい2000」による潜航調査）から沖縄トラフの熱水系に関わってきた，いわば「沖縄トラフ調査の生き字引」である．新学術領域研究「海底下の大河」では，計画研究の研究代表者の一人として，沖縄トラフ研究をリードした．そのような「沖縄トラフを最も知る人物」の一人から，本講演では，沖縄トラフ熱水系の分かりやすいレビューがなされる．	沖縄トラフ，熱水系，地球化学

R7-O-5［招待］ 13日（日） 第１会場 15：00～15：30	横瀬久芳	北部琉球弧における第四紀海底火山活動	横瀬氏は，独自の視点から，過去約10年間に渡り，北部琉球弧・トカラ海域の火山地質学を強力に推し進めている．本講演では，これまでの研究成果をとりまとめ，トカラ海域・北部沖縄トラフの海底火山学的研究を紹介頂く．北部沖縄トラフでは未だ背弧リフティングのステージに至っていない，すなわち「北部沖縄トラフでは，ほぼ全域に渡って島弧の火成活動が卓越している」という大変に刺激的な話題が提供される．	北部琉球弧，トカラ列島，海底火山
R８．堆積物（岩）の起源・組織・組成				
R8-O-3［招待］ 12日（土） 第１会場 9：15～9：45	大山隆弘	堆積性軟岩の化学的風化	堆積性軟岩の化学風化は，珪酸塩鉱物よりも急速に進行する．過去の風化作用を吟味する際，一般的に大陸地殻を花崗岩に近似するが，当時の堆積性軟岩が大陸表層を広く覆っていたことを考えると，この成果は古気候解析にとって一石を投じる知見である．また，トンネル掘削面では硫酸の移動方向が逆になる．地質記録においても，後背地削剥速度の違いによって，異なる化学風化が進行することがありえたのか興味深い．	堆積性軟岩，化学風化，硫酸反応
R8-O-7［招待］ 12日（土） 第１会場 10：30～11：00	太田充恒	全国地球化学図を利用した陸から海への物質移動過程解明	陸海域の膨大な堆積物試料に基づく地球化学図によって，物質移動過程を明らかにした講演である．一般的に，浅海堆積物組成は，その陸域組成を反映するという固定概念にとらわれがちだが，陸域と海域の化学組成には不連続が存在する．さらに，沿岸環境と元素種によっては，河口から局所的に広がる組成変化示すもの，または，広域拡散する元素種もある．これらの成果は，後背地復元の応用に有用な知見になる．	地球化学図，物質移動過程
R９．炭酸塩岩の起源と地球環境				
R9-O-1 12日（土） 第１会場 11：15～11：30	奥村知世 ほか	南部マリアナ前弧しんかい湧水域で発達するチムニーの鉱物組成と堆積組織	カンラン岩の蛇紋岩化反応は，初期生命圏や地球外生命圏を支えうる地質学的プロセスとして注目されている．本発表では，しんかい6500による潜航調査で回収された南部マリアナ前弧しんかいシープのチムニーについて，鉱物組成と堆積構造が報告される．このチムニーには蛇紋岩化反応が育む生態系の時系列変化が記録されているので，今後の解析が大いに期待される研究である．	初期生命圏，蛇紋岩化反応，しんかいシープ
R9-O-6 12日（土） 第１会場 15：15～15：30	島津　崇 ほか４名	沖縄県南大東島大東層における上部中新統～鮮新統炭酸塩岩の堆積様式とドロマイト化作用	南大東島の主体をなす大東層の試錐試料と地表試料から，礁性堆積物の堆積様式・堆積時期とドロマイトの分布・形成時期が検討される．サンゴ礁の発達史やドロマイト化作用のメカニズムの解明に重要な知見をもたらす研究である．	南大東島，サンゴ礁発達史，ドロマイト化作用
R9-P-1 12日（土） ポスター会場 コアタイム 13：00～14：20	井川敏恵 ほか４名	山口県美祢市秋吉産大理石石材の古生物学的・岩石学的研究	国会議事堂など多くの建造物に用いられている秋吉産石灰岩・大理石石材の27銘柄について，色調・岩相・地質年代・含有化石等が示され，成因が議論される．研磨された石材断面をみて，その石材を構成する生物が生育していた当時から現在の姿となるまでの来歴に思いを巡らすことは，多くの人々が地質学への親しみを感じるきっかけとなるであろう．	秋吉石灰岩，石材，石の来歴
R9-P-2 12日（土） ポスター会場 コアタイム 13：00～14：20	冨永紘平 ほか３名	北部秩父帯，叶山石灰岩に見られる石灰藻（*Anthracoporella* - *Palaeoaplysina*）マウンドの堆積過程	関東山地の北部秩父帯に分布する叶山石灰岩中にみられる，石灰藻化石を多量に含む石灰岩の産状が示され，さらのその堆積過程が議論される．オーソドックスな手法に基づく研究であるが，今後の発展が期待される．	叶山石灰岩，石灰藻
R10．堆積過程・堆積環境・堆積地質				
R10-O-1［招待］ 12日（土） 第１会場 16：30～17：00	伊藤　慎	深海底で形成される粗粒ベッドフォームの特徴化とLoweモデル再構築の可能性（招待講演）	深海底で形成される粗粒ベッドフォームの特徴とその形成プロセスについて，露頭アナログの詳細な観察によって検討した．その結果，それらの一部は下流進行型アンティデューンとして形成された可能性が明らかとなってきた．また，露頭アナログによる検討結果と国内外の研究事例との比較検討をふまえ，従来の堆積モデルを再構築する可能性について議論する．	重力流堆積作用，露頭アナログ
R10-O-6 13日（日） 第１会場 9：00～9：15	横川美和ほか４名	流砂による侵食で形成される基盤岩上の周期的ステップの形態に被覆堆積物が及ぼす影響	周期的なステップ地形であるサイクリックステップについて，筆者らを含めて近年盛んに研究が進められており，新たな特徴が次々と明らかにされている．本講演では，岩盤河床の侵食地形の形態と支配要因について，アナログ実験によって得られた一連の成果について報告する．	サイクリックステップ，アナログ実験
R10-P-2 12日（土） ポスター会場 コアタイム 13：00～14：20	大西由梨 ほか４名	長波長ベッドフォームの形成からみた"トラクションカーペットの堆積物"の成因	この研究では，トラクションカーペットの堆積物による長波長のベッドフォームの詳細な観察結果から，その形成条件について言及している．安房層群清澄層と宮崎層群青島層の長波長ベッドフォームを成すトラクションカーペット堆積物は，流れの基底で持続したものと想定するよりは，長波長の内部波が広く底面に影響した結果によるものであることを示唆するとした．	トラクションカーペット，内部波

R10-P-5 12日（土） ポスター会場 コアタイム 13：00～14：20	宮田雄一郎 ほか２名	塊状タービダイト砂層の粒子ファブリックから可視化されたメートルスケールのベッドフォーム	この研究では見かけ上，何も構造の見えない塊状のタービダイト砂層を対象に，長軸方位やその集中率，粒度などのファブリックパラメータの組み合わせでマッピングする方法を使って，塊状砂岩の内部堆積構造を可視化した．それにより，異なる方向のインブリケーションを示すユニットの繰り返しと波状ベッドフォームと思われる構造を検出した．	タービダイト，粒子ファブリック，ベッドフォーム
R10-P-17 12日（土） ポスター会場 コアタイム 13：00～14：20	仁科健二 ほか３名	日本海石狩湾陸棚上の起伏地形の形成要因，津波および内部波の検討	この研究では，石狩湾中陸棚の水深40 m付近に分布する暴浪時の戻り流れでは説明不可能な波長数100 m，比高2.5 m，長さ数kmのサンドリッジの成因について検討している．海底地形，数値シミュレーションと流速既報値を考察した結果，サンドリッジは，内部波によって形成され維持されている現在もアクティブなベッドフォーム（Internalites: internal wave deposits）である可能性が高いとした．	サンドリッジ，内部波，急潮
R11. 石油・石炭地質学と有機地球化学				
R11-O-4［招待］ 11日（金） 第７会場 9：45～10：15	森田澄人	経産省による日本海表層型メタンハイドレート広域調査の概要	経産省資源エネルギー庁により平成25年度から行われている日本海の表層型メタンハイドレートに関する広域調査について，研究の経緯と6種類の調査手法による成果の概要を紹介して頂く．	表層型メタンハイドレート，資源量調査，マウンド
R11-O-9［招待］ 11日（金） 第７会場 11：15～11：45	奥井明彦	石油システムの概念に基づく油田形成シミュレーションの新潟県直江津沖地域への応用	石油探鉱において普及しているベースンモデリングについて，石油の生成・移動・集積に関する地質現象の支配方程式とその構成要素，シミュレーションと実坑井での検証の実際を，直江津沖海域での応用例を通じて紹介して頂く．	石油探鉱，ベースンモデリング，直江津沖
R12. 岩石・鉱物の変形と反応				
R12-O-7 11日（金） 第５会場 10：30～10：45	森　宏 ほか７名	炭質物ラマンスペクトルに対する被熱時間スケールと変形の影響 ―炭質物ラマン温度計の応用―	炭質物ラマン温度計は，広域変成作用による最高被熱温度の推定手法として広く用いられている．森氏らは，貫入岩近傍の泥質岩を用いて数年～数万年スケールでの石墨化の進行を解析し，石墨化の定常状態に達するために要する時間スケールの検証を行った．一方で，炭質物ラマン温度計を中央構造線断層岩試料へも適用して，断層の剪断熱推定の指標となる可能性を示し，地震時の高速すべりの理解を一層深める成果として注目される．	ラマン分光分析，最高被熱温度，炭質物の石墨化
R12-O-10 11日（金） 第５会場 11：15～11：30	田阪美樹 ほか３名	かんらん石-輝石系における鉱物混合層形成と歪弱化	歪（ひずみ）に伴う反応と物質移動によって，かんらん岩中にかんらん石-輝石細粒混合層が形成されることを高歪実験により示した．マントル内に剪断帯などの局所的な弱線が生ずるには，構成鉱物の細粒化が必要である．その機構として転位すべりに伴う再結晶が考えられてきたが，発生条件が限定的であり負のフィードバックが問題であった．今回提示された細粒化機構は，より一般性があり，劇的な歪弱化を起こしうる．変形組織の見方を変えうる革新的成果である．	細粒化機構，歪弱化（剪断集中），大剪断変形実験
R12-O-11［招待］ 11日（金） 第５会場 11：30～12：00	大内智博 ほか７名	カンラン石の転位移動律速型粒界すべり：上部マントルの流動を支配する変形メカニズム	マントル鉱物・岩石の変形は地球スケールの物質循環を支配する重要なプロセスである．前世紀に確立されたかんらん石の変形機構図が，近年，新しい実験結果によって描きかえられようとしている．その先鋒に立つ大内氏らの含水・高圧条件での最新の実験によると，これまで転位クリープで流動すると考えられてきた上部マントルの幅広い領域で転位移動律速型の粒界すべりクリープが優勢になる．この新しい流動則は上部マントルに推定される粘性構造をうまく説明できる．	マントルの粘性構造，新しい流動則，高圧変形実験
R12-O-16［招待］ 12日（土） 第５会場 9：00～9：15	片山郁夫	粘土鉱物の摩擦ヒーリング特性と沈み込みプレート境界での固着度	プレート境界における固着の違いをもたらす原因は，多くの説あれど，未だ不明である．片山氏は粘土鉱物とそれ以外の鉱物の摩擦ヒーリング特性の違いから，プレート境界の固着の程度の違いは，物質の不均質な分布が原因と仮説を立て検証を行っている．粘土鉱物は岩石―水反応により生成されるので，非アスペリティ（弱い固着をもつ部分）の分布はプレート境界における流体移動の指標ともなりうる．沈み込み帯の理解へ新しい切り口が提示される．	摩擦のヒーリング効果，アスペリティ，粘土鉱物
R12-P-5 11日（金） ポスター会場 13：45～15：05	大坪　誠 ほか６名	鉱物脈を用いたプレート沈み込み帯巨大分岐断層周辺での応力状態および駆動流体圧比の推定：延岡衝上断層の例	地殻内部に存在する流体は，地殻の応力状態を変化させ，プレート運動や断層運動を誘起する要因のひとつである．しかし，地質体から過去の応力や流体圧の状態を推定することは容易ではない．大坪氏らは，南海トラフ・巨大分岐断層のアナログと考えられている延岡衝上断層に焦点をあて，断層帯周辺に産する鉱物脈の姿勢情報から，断層帯の応力状態と流体圧比の推定を試みている．自然の地質から如何に重要な物性パラメータを抽出するか，その試みが注目される．	地殻応力，流体圧，巨大分岐断層

R13. 沈み込み帯・陸上付加体				
R13-O-2［招待］ 13日（日） 第２会場 9：00～9：30	ウォリス　サイモン ほか６名	蛇紋岩化したウェッジマントルにおける固体流動と流体浸透	地球物理学的観測により，沈み込んだ海洋プレート（スラブ）とマントルの境界では，Episodic Tremor and Slip（ETS）と呼ばれるゆっくり地震が発生していることが明らかとなっている．ETSを支配する要因は何か？ETSの地質学的描像は？これらの問題に，蛇紋岩化したウエッジマントルが岩体として露出する三波川帯における構造地質学的・岩石学的研究から迫る！関連する河原ほかのポスター発表含め必聴の発表.	蛇紋岩，三波川帯，ETS
R13-O-11 13日（日） 第２会場 11：30～11：45	石川剛志 ほか５名	断層岩の微量元素分析に基づく摩擦溶融の評価	地震時の高速断層運動によって生じた摩擦熔融物が固化してできたシュードタキライトは，稀にしか見つからない．しかし，微量元素分析を行えば，後生的な変質・変形の影響を受けていても，かつてシュードタキライトであったかどうかが評価できるという．微量元素分析から，付加体中の断層における摩擦熔融履歴の評価を可能にした画期的な研究！	微量元素，シュードタキライト，四万十付加体
R13-O-12［招待］ 13日（日） 第２会場 14：30～15：00	山下幹也 ほか６名	高分解能反射構造イメージングから得られた南海トラフ沈み込み帯の特徴	2011年東北地震では沈み込み帯の最浅部である海溝軸近傍まで地震時滑りが達したことが明らかになったが，南海トラフでも同様の現象が起こった可能性が指摘されている．本講演は，南海トラフのトラフ軸における稠密地下構造調査のこれまでの結果からトラフ軸付近での断層や変形構造のマッピングを詳しく行い，それらと沈み込むフィリピン海プレートの構造との関連を議論している.	地震探査，南海トラフ，断層
R13-O-16 13日（日） 第２会場 15：45～16：00	山本由弦 ほか６名	房総半島から見いだされた沈み込み帯浅部の地震性すべりの痕跡	海溝軸付近沈み込みプレート境界浅部の地震性すべりは津波地震の原因の一つと考えられている．本論は房総半島陸上付加体中のアウトオブシークエンス断層に沿った摩擦溶融の証拠であるシュードタキライトを新たに見出した．微細構造観察と化学分析からシュードタキライトであることを注意深く認定した．また最高被熱温度が60-80°Cであることから摩擦溶融が一般的な地震発生帯よりも浅部で起こっていることを明らかにした.	房総半島四万十帯，浅部プレート境界地震性すべり，シュードタキライト
R13-P-3 13日（日） ポスター会場 コアタイム 13：00～14：20	木下貴裕 ほか３名	遠洋性堆積岩における断層帯構造：犬山地域ジュラ紀付加体チャート－砕屑岩シーケンスにおけるスラストの例	2011年東北地方太平洋沖地震は，遠洋性粘土から成る日本海溝プレート境界の先端が大きく変位したことで特徴付けられる．しかしその深部延長の実態は不明のままであった．愛知県犬山地域のジュラ紀付加体には遠洋性堆積物中に断層が発達しており，日本海溝の深部と対比することが可能である．断層は黒色有機質泥岩に発達し，そこから地震の化石であるシュードタキライトが見出された．これは沈み込み帯の浅部から深部まで，遠洋性堆積岩中に断層運動が局所化することを意味している.	遠洋性堆積岩，シュードタキライト，ジュラ紀付加体
R14. テクトニクス				
R14-O-8 12日（土） 第５会場 14：30～14：45	宮川歩夢 ほか２名	第四紀以降の日本列島における地殻構造の発達過程：断層の力学的活動性による検討	日本列島に分布する活断層及び地質断層の違いや歪集中帯の形成原因を応力場と断層形状から推定することが可能になった．断層の姿勢と地震観測による応力場の比較から，第四紀以降の日本列島の断層の活動性をSlip tendencyを用いて評価した．slip tendencyを用いて活断層と地質断層を区分することができること，またその差は日本列島における異なる断層発達のステージを表す可能性を指摘した.	断層活動時期，slip tendency，活断層と地質断層
R14-O-11 12日（土） 第５会場 15：15～15：30	香取拓馬 ほか２名	屏風山断層帯における運動象の変遷と変質帯の空間分布	野外調査における豊富な断層露頭の記載と採取した断層岩試料の研磨片・薄片観察・XRD分析等の結果を用いて，屏風山断層の運動像の変遷を考察した．その結果，同断層の活動において，少なくとも３ステージの存在が明らかとなった．さらに周辺に分布する阿寺断層や赤河断層が幾何学的バリアとして機能し，同断層の横ずれ運動を規制している可能性を示した.	断層岩，変質鉱物，幾何学的変遷
R14-O-15 12日（土） 第５会場 16：15～16：30	窪田安打 ほか２名	四国西部，中央構造線沿いのドロマイト質片岩の地質構造からみた古第三紀の運動像の検討	古第三紀（66-26Ma）における中央構造線の運動像を明らかにするため，四国西部における中央構造線沿いの複数露頭から採取された古第三紀の運動に関連すると推定されているドロマイト質片岩の地質構造を検討した．その結果，ドロマイト質片岩に確認されたカタクレーサイトに正断層センスが認められ，Ichinokawa phaseの大規模正断層運動による変形構造であることが示唆された.	中央構造線，古第三紀，ドロマイト質片岩
R14-O-16 12日（土） 第５会場 16：30～16：45	酒井治孝 ほか５名	沈み込んだインドプレートのデラミネーションによる22～10Maのヒマラヤ変成帯の急激な上昇	ヒマラヤ山脈を形成した22（～25）-10Maの変成帯の上昇メカニズムを明らかにするために，変成帯の形成場と地震波トモグラフィーの結果を合わせて考察した．その結果として，アジア大陸下に貼り付くように沈み込んだインド亜大陸の地殻が中圧型の変成作用を受け，25-22Ma頃にマントル部分とデラミネーションを起こし，スラブ・ブレイクオフによる浮揚力を得て急激に上昇してきた可能性を示した.	ヒマラヤ変成帯，上昇過程，中圧型の変成作用
R14-P-7 12日（土） ポスター会場 コアタイム 13：00～14：20	八木雅俊 ほか８名	布田川-日奈久断層帯海域延長部における活動履歴と最新活動時期について	布田川―日奈久断層帯海域延長部に位置する複数の海底断層から構成される八代海底断層群における地震イベントの認定と断層ごとの連動性について，高分解能地層探査及び柱状試料の解析結果を合わせて検討を行った．地震波反射面から得られた４回のイベントのうち最新の活動時期は1619年の肥後・八代の地震であることを明らかにした.	八代海底断層群，高分解能地層探査，地震イベント
R17. 情報地質とその利活用				
R17-O-1 12日（土） 第２会場 9：45～10：00	富樫　均 ほか	長野県地質図（2015）と地質情報の活用	10年を超える歳月と多くの研究者等による献身的な協力により，約半世紀ぶりに長野県地質図が刷新される．基礎となる背景図は縮尺１/20万から１/５万に精度が高められ，全県データが新しいデジタル地質図として統一されている．今後，防災や環境保全・観光・教育等の幅広い分野に地質情報が有効に活用されるものと期待される.	長野県地質図，シームレスデジタル地質図

R19. 応用地質学一般およびノンテクトニック構造				
R19-O-1［招待］ 12日（土） 第７会場 15：45～16：15	佐々木靖人	道路斜面防災の現状と課題	佐々木氏は応用地質学の立場から，全国の直轄国道の道路斜面防災に関する研究を推進している．本発表では，道路斜面の防災対策の現状を概観し，膨大な斜面に対する調査データの蓄積不足，及びデータ不足の状況下での評価技術という課題について，これらを克服するための調査体系の解説をしていただく．	道路斜面防災，点検体系，リスク評価技術
R19-O-2 12日（土） 第７会場 16：15～16：30	斎藤　眞 ほか５名	2014年８月20日広島豪雨による土石流発生地域の地質	2014年８月20日に発生した広島豪雨災害では，隣接する複数の沢筋で土石流が発生した．発表者らは被災地域周辺の詳細な地質図を作成し，土石流を発生させた花崗岩類，結晶片岩類，流紋岩岩脈などの異なる地質系統について，それぞれの地質の状況を詳細に説明している．	2014年広島豪雨災害，土石流，地質的背景
R19-O-6［招待］ 12日（土） 第７会場 17：15～17：45	近藤久雄	2014年長野県北部の地震と糸魚川-静岡構造線断層帯	2014年11月22日に発生した長野県北部の地震では，神城断層に沿って地表にずれが発生した．発表者らは地震直後から現地調査を実施し，地表地震断層の長さや変位量を求めている．本発表では，著者らが実施してきた調査結果も含めて，糸魚川-静岡構造線断層帯の活動史や連動性について解説していただく．	糸魚川-静岡構造線断層帯，地表地震断層，活断層の評価
R22. 地球史				
R22-O-6［招待］ 11日（金） 第２会場 10：15～10：45	Gorge Tetteh ほか２名	Lower Proterozic Birimian ‘Greenstone belt’ of west Africa and sources of Manganese mineralization in Ghana	ガーナ西部には22-20億年前後のグリーンストーン帯が分布し，巨大漂砂型・熱水系金鉱床やマンガン鉱床が知られている．G.Tetteh博士はこれら鉱山が集まる鉱山街Tarkwaの鉱山工業大学で研究・教育を行っている．前半は原生代のガーナの地質をレビュー，後半は大酸化事変の鍵をになうマンガン鉱床の全貌について講演予定である．	Birimian，Greenstone Belt，古原生代，マンガン鉱床
R22-O-10 11日（金） 第２会場 11：30～11：45	武藤　俊 ほか５名	大分県津久見地域に分布する南部秩父帯中の下部三畳系遠洋域深海堆積物層序復元	近年遠洋性層状チャートが見直され，その一枚一枚の記録から，すでに沈み込んでしまった過去の海洋底からの詳細な地球環境復元が盛んに行われている．本研究はコノドント化石層序を用いて，大分県津久見地域の南部秩父帯に分布する下部三畳系遠洋性深海堆積岩の層序を詳細に検討している．パンサラッサ遠洋域から得られる新たな知見は，三畳紀古生の気候変動パズルの重要な１ピースとなるだろう．	三畳系，遠洋性深海堆積物，コノドント化石
R22-O-13［招待］ 11日（金） 第２会場 12：15～12：30	吉田晶樹	大陸移動の原動力と大陸内応力場の起源	数値シミュレーションにより過去２億年間の大陸配置を見事に再現した吉田晶樹博士に，その研究を紹介していただく．パンゲア分裂後の大陸移動の原動力となったメカニズムは何か？マントル曳力がプレート運動の原動力？など彼の研究から明らかになった新知見は,地質記録を武器に地球史解明を目指す地質学者を大いに刺激するだろう．著書「地球はどうしてできたのか　マントル対流と超大陸の謎」（講談社ブルーバックス）ぜひ，ご一読.	大陸移動，パンゲア大陸，応力場
R23. 原子力と地質科学				
R23-O-9 13日（日） 第６会場 16：45～17：00	石渡　明	日本の原子力規制と地質学	原子力規制委員会は，3.11以降の原子力発電所の安全性確保を使命として，５人の委員会メンバーとその事務局の原子力規制庁（約1000人）ともに新たな活動を行ってきた．今回の発表では，これまでの活動を通し，原子力規制委員会の役割ならびに地質学会の役割，そして学会へのさらなる期待について紹介する．	原子力規制，地質現象，学会の役割
R24. 鉱物資源と地球物質循環				
R24-O-1［招待］ 12日（土） 第４会場 14：30～15：00	小宮　剛	太古代アルカリ熱水作用：縞状鉄鉱層と親銅元素鉱床形成	大気－海洋系の二酸化炭素濃度が高かった太古代の海底熱水系において，現世とは異なるアルカリ性の熱水が噴出していたという新しいモデルに関する発表である．このことが，酸素の無い時代に縞状鉄鋼層が形成される原因となり，さらにはCu, Zn鉱床この形成および初期生命の出現にも重要な役割を果たした可能性が高いという．初期地球に関する多くの謎を一度に解決できる非常に魅力的な新説である．	太古代，アルカリ熱水作用，鉱床生成
OR. アウトリーチセッション				
OR-P-2 12日（土） ホクト文化ホール コアタイム 13：00～14：00 16：30～17：30	中条武司ほか	みんなで坂を調べよう：坂から見る大阪平野の成り立ち	市民と研究者が共同して地域の地形・地質を調査し，成果公表まで至った好例である．「坂」という身近な地形要素に注目し，その成因を探っている．	坂，大阪平野，市民共同調査
OR-P-3 12日（土） ホクト文化ホール コアタイム 13：00～14：00 16：30～17：30	小坂共栄ほか	役に立つ「揺れやすさマップ」を作り地震に備える	「安全・安心な市民生活に専門家が果たせる役割は？」という問いは，多くの地質学研究者が常に抱いていると思われる．発表者らは地元（長野県）で発生した地震に注目し，大規模アンケート調査結果を踏まえて震度分布を詳細に明らかにし，地下地質との関連性を考察している．	地震，揺れやすさ，大規模アンケート調査

関 連 行 事

地質情報展 2015 ながの「知っていますか信濃の大地」

日程：9 月 11 日（金）～ 13 日（日）
11 日（金）9:30 ～ 17:00
12 日（土）9:30 ～ 17:00
13 日（日）9:30 ～ 16:00
会場：長野市生涯学習センター（TOiGO WEST 4F）［入場無料］
主催：産業技術総合研究所地質調査総合センター・一般社団法人日本地質学会
共催：南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク協議会，苗場山麓ジオパーク振興協議会
後援：長野県，長野県教育委員会，長野市，長野市教育委員会，NHK 長野放送局，信濃毎日新聞，（公財）ながの観光コンベンションビューロー，全国地質調査業協会連合会，日本ジオパークネットワーク
展示協力：戸隠地質化石博物館，野尻湖ナウマンゾウ博物館，大鹿村中央構造線博物館，信州新町化石博物館

内容：長野県および周辺地域の地質をはじめとして，最新の地質学の成果や地震・津波・地盤災害の起こるしくみをわかりやすく体験的に”展示・解説”します．小学校入学前のお子様から大人まで，皆さんに楽しみながら「地質」を学んでいただけるイベントです．また，さまざまな”体験学習コーナー”を用意しており，実験や実演を通じて地質学をわかりやすく学ぶことができます．
展示テーマ（予定）：長野県の地質紹介，地震・津波，長野県の火山，地中熱の利用，地質の利用，長野県の地質系博物館・県の研究所展示，ジオパーク（日本ジオパーク / 苗場山麓ジオパーク / 南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク）など
体験コーナー（予定）：「化石のレプリカ作り」・「石割り体験」・「岩石破壊実験」・「ペットボトルで地盤の液状化実験」・「焼岳見たまま砂絵で地質図」・「グラブ採泥器を使ってマンガン団塊を採ろう！」・「地学クイズに挑戦」など
地質学会コーナー：第 6 回惑星地球フォトコンテスト入選作品展示

問い合せ先：
産業技術総合研究所地質調査総合センター
地質情報展企画運営事務局
TEL：029-861-3540
e-mail：johoten2015jimu-ml@aist.go.jp

※地質情報展は，平成 27 年科学研究費補助金研究成果公開促進費補助事業です．

市民講演会「信州の自然とともに生きる ー地震と火山の防災地学—」

日時：2015 年 9 月 12 日（土）14：00 ～ 16：30
※開場は 13：00 より
【入場無料・事前申込不要】
会場：ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）小ホール（長野県長野市若里 1 - 1 - 3）
講師：三宅康幸（信州大学理学部教授）
塚原弘昭（信州大学名誉教授）
概要：長野県では昨年 2014 年には多くの災害に見舞われました．7 月 9 日の南木曽土石流，9 月 27 日の御嶽山の水蒸気爆発，そして 11 月 22 日の長野県神城断層地震．このような状況で，あらためて私たちの住む長野県の成り立ちと地質学的特徴を理解し，より安全な市民生活を送る一助となることを願って，長年信州大学でそれぞれ活火山と地震の研究に携わってこられたお二人を講師に，次のような講演を企画いたしました．

信州の火山を知ろう（三宅康幸）
まず長野県内の諸火山群の分布を紹介し，それらのなかで特徴的な活火山である，浅間山，焼岳，御嶽山の活動史とその噴火活動や地形発達などについて，現地調査の様子なども交えながら詳しく解説していきます．

糸静構造線活断層地震が起きたとき，長野盆地・松本盆地の震災は（塚原弘昭）
長野県内の 5 大活断層帯とそれらの大地震発生確率を紹介し，さらに糸静活断層で発生する大地震による震災の予測を示す．また糸静活断層による大地震が予知困難な理由を示したうえで，減災のために住民がめざす地域とはどのようなものか考えていきます．

防災・減災の面からの提案をもとに，市民のみなさんにも参加していただいて議論を深めていく予定です．
詳しくは，http://www.geosociety.jp/nagano/content0001.html

・本講演会は，平成 27 年科学研究費補助金研究成果公開促進費補助事業です．

小さな Earth Scientist のつどい ～第 13 回小，中，高校生徒「地学研究」発表会～

日本地質学会地学教育委員会では，年会の開催に合わせて，地学教育の普及と振興を図ることを目的に，学校等における地学研究を紹介する「地学研究」発表会をおこなっています．長野大会でも，小・中・高等学校の地学クラブの活動，および授業の中で児童・生徒が行った研究，学校外の研究会において児童・生徒が中心に行った研究などが発表されます．長野県内，また中部地方，さらには全国の児童・生徒の来場をお待ちしています．会場は研究者も発表するポスター会場内に，特設コーナーを用意いたします．同時並行で研究者の発表も行われますので，児童・生徒同士のみならず，研究者との交流もできます．この会を通じて生徒，研究者，市民の交流が進み，地質学，地球科学への理解が深まって，未来を担う小さな地球科学者たちの学習意欲への良い刺激と励みになることを願っております．

日時：2015 年 9 月 13 日（日）9 ：00 ～ 15：30
場所：長野大会ポスター会場（信州大学（工学）キャンパス内体育館）

参加予定校（7 月 30 日現在，13 校・1 団体参加，18 件）
・長野県松本深志高等学校地学会
・長野県長野西高等学校

・岐阜県立加茂高等学校（２件）
・山梨県立日川高等学校物理・地学部（２件）
・新潟大学理学部未来の科学者養成講座（２件）
・群馬県立太田女子高校地学部
・千葉県立柏高等学校課題研究Ⅱ受講者
・東京学芸大学附属高等学校
・早稲田大学高等学院理科部地学班
・学校法人奈良学園奈良学園高等学校 SS 研究チーム
・滋賀県立彦根東高等学校 SS 部地学班
・兵庫県立西脇高等学校地学部（２件）
・兵庫県立加古川東高等学校地学部
・鹿児島玉龍高等学校サイエンス部天文班

問い合わせ先：
日本地質学会地学教育委員会（担当　三次）
〒101-0032　東京都千代田区岩本町２- ８-15 井桁ビル６F
TEL：03-5823-1150　FAX：03-5823-1156
e-mail：main@geosociety.jp

若手会員のための業界研究サポート

本年も，表記「若手会員のための業界研究サポート」を開催することになりました．本行事は，地質企業に興味のある学生・大学院生および指導にあたっている教員の方々を対象とし，地質企業の現状や求める人材について語り合う交流会を目的としています．

東日本大震災から４年，国土強靱化の施策のもとに“防災・減災に対するハード・ソフト対策”と“戦後から高度成長期にかけて建設されたインフラの維持管理・更新”が重要なキーワードとなっております．この社会的要請に対して地質技術者が不足しており，その人材確保に企業の皆様も苦労されていると思います．また，今後の日本のエネルギー政策として“地熱”・“地下資源”の開発が改めて注目を集めています．実際に企業で活躍されている地質技術者と語り合い，大学で学んだ地質学が企業でどのように生かされているのか，学生・大学院生および教員の方々が，企業の生の声を聴くことができるような場を提供したいと考えています．

日程　2015 年 9 月 12 日（土）14：00 ～ 17：00（＊時間帯は若干変更になる場合があります）
場所　信州大学長野（工学）キャンパス　工学部講義棟２階 203
主催　一般社団法人日本地質学会
内容　主催者等　挨拶・紹介，参加各社の個別説明会（今回は，例年以上に多くの企業にご参加頂けることになりました．そのため会場の都合上，実施内容を一部変更いたします．各社によるプレゼンテーションはありません）．
対象　長野大会に参加する学生・院生および大学教員等の会員．信州大学等の学生・院生および教員等

出展予定企業（敬称略．８月 10 日現在）
・川崎地質株式会社
・石油資源開発株式会社
・株式会社建設技術研究所
・中央開発株式会社
・株式会社日さく長野営業所
・日鉄鉱業株式会社
・日本綜合建設株式会社
・三井石油開発株式会社
・応用地質株式会社
・株式会社地圏総合コンサルタント
・株式会社サクセン
・有限会社アルプス調査所

問い合わせ先：
日本地質学会　担当理事　緒方信一 / 事務局　堀内昭子
電話：03-5823-1150　FAX：03-5823-1156
e-mail：main@geosociety.jp

特別講演会「地質地盤情報の利活用と法整備」

期日：2015 年 9 月 13 日（日）14：30 ～ 17：00
会場：信州大学工学部講義棟 300

【開催趣旨】

日本学術会議は，平成 25 年 1 月 31 日，提言「地質地盤情報の共有化に向けて－安全・安心な社会構築のための地質地盤情報に関する法整備－」を公開しました．提言の骨子は，①地質地盤情報に関する包括的な法律の制定，②地質地盤情報の整備・公開と共有化の仕組みの構築，③社会的な課題解決のための地質地盤情報の活用の促進と国民の理解向上，の 3 項目です．

この提言に示されるように，日本の国土を構成している地質・地盤の状況を把握し，その情報を社会の安全に役立てることが必要です．そこで平成 25 年 4 月，地質・地盤に関する学協会・業界・研究機関等が中心になって，「地質・地盤情報活用促進に関する法整備推進協議会」が設立されました．日本地質学会も本協議会に加入しています．

講演会では，本協議会の活動を紹介し，地質地盤情報の整備・利用の現状，学術研究の進展，法整備の必要性，および日本地質学会の現状について報告します．総合討論では，今後の活動の進め方について議論します．

【プログラム】
司会：松浦一樹（(株) ダイヤコンサルタント）・佐脇貴幸（産業技術総合研究所）
１．開催趣旨と法整備推進協議会の活動
　栗本史雄（地質・地盤情報活用促進に関する法整備推進協議会，産業技術総合研究所）
２．地質地盤情報を用いた学術研究とその整備に対する提言
　増田富士雄（同志社大学理工学部）
３．地質地盤情報の整理と工学的地盤モデル
　山本浩司（(一財）地域地盤環境研究所）
４．地質地盤情報の利用とビジネスモデル
　丸山昌則（基礎地盤コンサルタンツ（株））
５．二次利用を促進するための法整備
　平野　勇（地質・地盤情報活用促進に関する法整備推進協議会，応用地質（株））
６．日本地質学会と地質地盤情報の整備・活用
　小嶋　智（岐阜大学工学部）
７．総合討論

問い合わせ先：
栗本史雄 <kurimoto-chikao@aist.go.jp>

知っていますか 信濃の大地

地質情報展 2015 ながの

2015年 9/11(金)・12(土)・13(日)

時間 9:30～17:00（13日は、16:00終了） 入場無料

会場 長野市生涯学習センター（TOiGO WEST 4F）
長野市大字鶴賀問御所町 1271-3

長野県および周辺地域の地質をはじめとして、最新の地質学の成果や地震・火山・地盤災害の起こるしくみをわかりやすく体験的に“展示・解説”します。小学校入学前のお子様から大人まで、皆さんに楽しみながら「地質」を学んでいただけるイベントです。

また、さまざまな“体験学習コーナー”を用意しており、実験や実演を通じて地質学をわかりやすく学ぶことができます。

ぜひ、「地質情報展 2015 ながの」にご来場ください。

市民講演会（主催:日本地質学会）

**「信州の自然とともに生きる
－地震と火山の防災地学－」**

日時:2015年9月12日(土)
14:30～16:00

会場:ホクト文化ホール(長野県県民文化会館)

「信州の火山を知ろう」
三宅康幸(信州大学理学部教授)

「糸静構造線活断層地震が起きたとき、
長野盆地・松本盆地の震災は」
塚原弘昭(信州大学理学部名誉教授)

連絡先:日本地質学会事務局
03-5823-1150

主　催：国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター
一般社団法人 日本地質学会

共　催：南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク協議会、苗場山麓ジオパーク振興協議会

後　援：長野県、長野県教育委員会、長野市、長野市教育委員会、NHK長野放送局、信濃毎日新聞社、(公財)ながの観光コンベンションビューロー、全国地質調査業協会連合会、日本ジオパークネットワーク

展示協力：戸隠地質化石博物館、信州新町化石博物館、野尻湖ナウマンゾウ博物館、大鹿村中央構造線博物館

【 問い合わせ 】
国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター 地質情報展開催事務局
Email: johoten2015jimu-ml@aist.go.jp / TEL: 029-861-3540
URL: https://www.gsj.jp/event/2015fy-event/nagano2015/

「地質情報展 2015 ながの 知っていますか信濃の大地」は、平成 27 年度科学研究費補助金研究成果公開促進費補助事業です。

日本地質学会第 122 年学術大会（2015 長野大会）講演プログラム（口頭）

■9 月 11 日（金）午前

会場	第 1 会場（工学部講義棟 100）	第 2 会場（工学部講義棟 102）
	R5. 地域地質・地域層序・年代層序	R22. 地球史
	座長：内野隆之（1-4），里口保文（5-8），岡田　誠（9-13）	座長：清川昌一（1-3），小宮　剛（4-6），須藤　齋（7-10），山口耕生（11-13）
9：00		9：00 R22-O-1 初期太古代イスア表成岩帯縞状鉄鉱層の堆積場の推定．**青木翔吾**・加藤泰浩・平田岳史・小宮　剛
	9：15 R5-O-1 上部白亜系久慈層群における炭素同位体比・U-Pb放射年代統合層序を用いた高精度年代決定．**有元　純**・高嶋礼詩・西　弘嗣・條　将太・山中寿朗・折橋裕二・高地吉一・山本鋼志・梅津慶太	9：15 R22-O-2 西グリーンランドイスア地域，イトサック片麻岩のジルコンU-Pb年代の再検討．**佐藤直紀**・山本伸次・坂田周平・平田岳史・岡本和明・小宮　剛
	9：30 R5-O-2 北部フォッサマグナ南東部，小諸陥没盆地の鮮新世～中期更新世のテクトニクス．**狩野謙**一・宮坂　晃	9：30 R22-O-3 高CO_2濃度下におけるコマチアイト熱水変質実験による水素発生．**上田修裕**・澤木佑介・斎藤誠史・渋谷岳造・丸山茂徳
	9：45 R5-O-3 礫種からみた猿丸層礫岩の供給経路とその時空変遷．**清水岩夫**・渡辺吉和	9：45 R22-O-4 西オーストラリアピルバラ地域の重晶石硫黄同位体比から探る32億年前の海洋環境．**三木　翼**・清川昌一・奈良岡浩・高畑直人・石田章純・伊藤　孝・池原　実・山口耕生・佐野有司
	10：00 R5-O-4 砕屑性ジルコンU-Pb年代から見た下部ジュラ系来馬層群の堆積年代と後背地．**竹内　誠**・常盤哲也・高地吉一・山本鋼志・横田秀晴	10：00 R22-O-5 ガーナ・アシャンティー帯古原生界セフィー層群火山砕屑岩ユニットの岩相層序．**吉丸　慧**・清川昌一・伊藤孝・Nyame Frank K・Tetteh Jeorge M
	10：15 R5-O-5★ Byk-E（白尾）テフラのSHRIMP U-Pb年代測定に基づくMatuyama-Brunhes境界年代値の高精度決定．**菅沼悠介**・岡田　誠・堀江憲路・海田博司・竹原真美・仙田量子・木村純一・川村賢二・風岡　修・Martin J. HEAD	10：15 R22-O-6（招待）★ Lower Proterozic Birimian ‘Greenstone belt’ of West Africa and sources of Manganese mineralization in Ghana．**Tetteh George M.**・Nyame Frank K.
	10：30 R5-O-6 千葉セクションにおけるM-B極性反転境界付近の高解像度古地磁気-酸素同位体比記録．**岡田　誠**・羽田裕貴・菅沼悠介・風岡　修	10：45 R22-O-7 7億年前の縞状鉄鉱層をもつ海底堆積相の復元 1：エジプト・Wadi El Dabbah地域の層序と構造．**清川昌一**・鈴木大志・Mohamed Abouelhassan・Maher Dawoud
	10：45 R5-O-7 立山周辺に分布する飛騨変成岩類および深成岩類のSHRIMP，ジルコンU-Pb年代の再検討．**高橋　浩**・Cho Deung-Lyong・毛　建仁・超　希林・Yi Keewook	11：00 R22-O-8 愛知県犬山地域に分布する美濃帯上部三畳系チャートの古地磁気・化石統合層序．**山下大輔**・宇野康司・尾上哲治
	11：00 R5-O-8 九州山地西縁の日奈久断層の再検討．福田将眞・**田中　均**・高橋　努	11：15 R22-O-9 美濃帯犬山地域に分布する中部三畳系層状チャートの化学-サイクル層序．**曽田勝仁**・尾上哲治
	11：15 R5-O-9 古琵琶湖層群堆積盆の流出方向変化モデルの検討．**里口保文**	11：30 R22-O-10★ 大分県津久見地域に分布する南部秩父帯中の下部三畳系遠洋域深海堆積物層序復元．**武藤　俊**・高橋　聡・山北 聡・池田昌之・尾上哲治
	11：30 R5-O-10 四国西部～中西部，西予-梼原地域の秩父帯の地質構造．**村田明広**・前川寛和	11：45 R22-O-11 美濃帯の三畳系-ジュラ系層状チャートの形成モデル：有機炭素同位体比による検討．**尾上哲治**・曽田勝仁・山下大輔・佐藤峰南・池原　実
	11：45 R5-O-11 鹿児島湾奥，新島（燃島）の完新統層序．**鹿野和彦**・内村公大	12：00 R22-O-12 海洋性かんらん岩のOs同位体分布から読むマントル内部の地球化学的構造とその進化．**石川　晃**・仙田量子・鈴木勝彦・谷　健一郎・石井輝秋
	12：00 R5-O-12 Gauss/Gilbert 境界層準の広域テフラ，分部-池子1火山灰層．**田村糸子**・森　勇一・宇佐美　徹・田中里志	12：15 R22-O-13★ 大陸移動の原動力と大陸内応力場の起源．**吉田晶樹**
	12：15 R5-O-13 ベトナム南部ホンチュオイ島の地質．**脇田浩二**・Nguyen Anh Tuan・Ngo Tran Thien Quy・Pham Trung Hieu・Tran Van Xuan	

■ MEMO ■

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/ 口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．
※**太字氏名**：代表発表者．　★印：ハイライト（本誌 p.（11）を参照）．　（招待）：招待講演．

日本地質学会第 122 年学術大会（2015 長野大会）講演プログラム（口頭）

■9 月 11 日（金）午前

会場	第 4 会場（工学部講義棟 300）	第 5 会場（工学部講義棟 301）	第 6 会場（学部共通棟 1）
	R21. 第四紀地質	**R12. 岩石・鉱物の変形と反応**	**R1. 深成岩・火山岩とマグマプロセス**
	座長：兵頭政幸（1-5），嵯峨山積（6-9），瀬戸浩二（10-14）	座長：高橋美紀（1-5），大坪　誠（6-10），田阪美樹（11-14）	座長：加藤涼介（1-5），鈴木和恵（6-11）
9：00	9：00 R21-O-1 オホーツク海南東部のMD01-2412コアにおける最終氷期以降の有機炭素量変動の解析．**公文富士夫**・喜田　誠・坂本竜彦 9：15 R21-O-2 下北半島に分布する海成段丘および下北沖コアC9001Cの花粉群集組成の対比．**菅谷真奈美**・岡田　誠 9：30 R21-O-3 鮮新–更新統の古花粉学的研究における絶滅属について．**楡井尊** 9：45 R21-O-4 猿ヶ森砂丘に挟在する再堆積層の成因：下北半島後期完新世砂丘の起源の考察．**鎌田隆史**・菅原大助・箕浦幸治・根本直樹・山田　努 10：00 R21-O-5 青森県上北平野海成段丘堆積物のルミネッセンス年代測定と隆起速度の推定．**伊藤一充**・田村　亨 10：15 R21-O-6 東北日本における最終間氷期に生成した赤色土の分布状況－青森県西部を中心に－．**仲川隆夫** 10：30 R21-O-7 中国Lingtaiのレス・古土壌層におけるMatuyama–Brunhes境界と磁気・気候層序．**兵頭政幸**・番匠健太・高崎健太・登日真里奈・楊　天水・加藤茂弘 10：45 R21-O-8 北海道東部，藻琴湖におけるラミナと降水の関係．**瀬戸浩二**・園田　武 11：00 R21-O-9 湖沼底質に含まれる球状炭化粒子および重金属を用いた環境汚染履歴の解明～三重県四日市地域を例として～．**古谷祥悟**・香村一夫・山崎秀夫 11：15 R21-O-10 北海道頓別平野の沖積層ボーリングコアの珪藻分析．**嵯峨山積**・近藤玲介 11：30 R21-O-11 駿河湾西岸・伊豆半島南部の完新統の津波堆積物調査–南海トラフの「最大クラスの津波（レベル2）」に関する検討．**北村晃寿** 11：45 R21-O-12 松江平野の古環境（2）．**渡邉正巳**・瀬戸浩二 12：00 R21-O-13 香港周辺海域における現生底生有孔虫群集と海洋環境との関係．**辻本　彰**・安原盛明・Hong Yuanyuan 12：15 R21-O-14 長野県白馬村堀之内における地形および第四系と2014年長野県北西部地震被害の関係．**太田勝一**・保柳康一	9：00 R12-O-1 加水反応において形成するフラクチャーパターン：表面反応速度 vs. 流体移動速度．**岡本　敦**・清水浩之 9：15 R12-O-2 高温・封圧下における花崗岩き裂の溶解による透水率と間隙構造変化．**田中寛人**・岡本　敦・渡邉則昭・土屋範芳 9：30 R12-O-3 多孔質砂岩中の二相流体挙動に関する実験的研究．**北村圭吾**・本田博之・高木進之介・三谷泰浩 9：45 R12-O-4 断層破砕帯における岩石変形の分数階微分に基づく考察．**山崎和仁** 10：00 R12-O-5 非ホロノーム部分空間分解論（接触テンソル解析）．**長濱裕幸**・菊地和平 10：15 R12-O-6 新包埋法および凍結乾燥法を用いた断層岩試料の薄片及びSEM試料の作成方法の紹介．**滝沢　茂**・相山光太郎・溝口一生 10：30 R12-O-7★ 炭質物ラマンスペクトルに対する被熱時間スケールと変形の影響 ―炭質物ラマン温度計の応用―．**森　宏**・ウォリス サイモン・纐纈佑衣・永冶方敬・森なつみ・重松紀生・藤本光一郎 10：45 R12-O-8 龍門山断層帯における炭質物のラマン分光分析．**纐纈佑衣**・清水以知子・Lu Yao・Shengli Ma・嶋本利彦 11：00 R12-O-9 炭素含有岩石の形成と保存過程：鉄・炭素含有固化物．**三浦保範** 11：15 R12-O-10★ かんらん石–輝石系における鉱物混合層形成と歪弱化．**田阪美樹**・Zimmerman Mark・Kohlstedt David 11：30 R12-O-11（招待）★ カンラン石の転位移動律速型粒界すべり：上部マントルの流動を支配する変形メカニズム．**大内智博**・川添貴章・肥後祐司・舟越賢一・鈴木昭夫・亀卦川卓美・入舩徹男 12：00 R12-O-12 天然鉱物を用いた透輝石多結晶体の粒成長実験．**坪川祐美子**・石川正弘 12：15 R12-O-13 East Pilbara地域に産するメタチャート中の電気石形体定向配列と応力場の関係：初期太古代における純粋剪断が支配的な変形の存在．**松村太郎次郎**・増田俊明 12：30 R12-O-14 褶曲していない変形変成岩サンプルから複雑な変形史が読み取れる例：四国東部三波川変成帯のメタチャートの場合．**増田俊明**・西脇　伸・大森康智・松村太郎次郎・道林克禎・佐津川貴子・岡本　敦	9：45 R1-O-1 超臨界地殻流体の賦存モデルとしての花崗岩―斑岩システ．**土屋範芳**・宇野正起・山田亮一 10：00 R1-O-2 朝日山地の花崗岩類のSHRIMP U-Pb年代とその意義．**小笠原正継**・根岸義光・堀江憲路・藤本幸雄・大平芳久・大坪友英・菊池康浩・庄司勝信・水落幸広 10：15 R1-O-3 基礎試錐「気仙沼沖」花崗岩コアのジルコンU-Pb年代と全岩化学組成の特徴．**土谷信高**・足立達朗・中野伸彦・小山内康人・荒戸裕之 10：30 R1-O-4 タイタオ花崗岩中のジルコンHf-O同位体組成から推定するスラブメルティング時の溶融物質．**鈴木和恵**・飯塚　毅・北島宏輝・Valley John W.・澤木佑介・服部健太郎・平田岳史・丸山茂徳 10：45 R1-O-5 高シリカ無人岩はリサイクルした高枯渇スラブの再融解によって生じた．**海野　進**・北村啓太朗・金山恭子・草野有紀・仙田量子・石塚　治 11：00 R1-O-6 アジア大陸東縁における後期白亜紀イグニンブライト・フレアアップ：西中国カルデラ群の例．**今岡照喜**・君波和雄・早坂康隆・馬傷園　明・木村　元・大中翔平・井川寿之・岸　司・吉田健司 11：15 R1-O-7 東太平洋海膨 Hess Deep （IODP Site U1415）で採取された斑れい岩中の単斜輝石オイコクリストの結晶作用．**前田仁一郎**・貝瀬長門 11：30 R1-O-8 日高変成帯主帯における苦鉄質変成岩の部分溶融．**加藤涼介**・小山内康人・中野伸彦・足立達朗・北野一平・加々島慎一 11：45 R1-O-9 後期白亜紀に根室層群で活動したアルカリマグマ．**油谷　拓**・平野直人 12：00 R1-O-10 火成岩研究における 造岩鉱物解析の重要性–箱根火山の岩石学的研究を例に–．**石井輝秋** 12：15 R1-O-11 浅間・前掛火山の硫化物とマグマ混合：注入・混合する玄武岩マグマに共存するCu-Ni-Fe不混和硫化物液滴．**山口佳昭**・川嵜智佑

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/ 口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．
※**太字氏名**：代表発表者．　★印：ハイライト（本誌 p.（11）を参照）．　（招待）：招待講演．

日本地質学会第 122 年学術大会（2015 長野大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 11 日（金）午前

会場	第 7 会場（学部共通棟 3）	第 8 会場（太田国際記念館研修室）
	R11. 石油・石炭地質学と有機地球化学	**T1. グリーンタフ・ルネサンス**
	座長：千代延俊（1-4），佐脇貴幸（5-8），辻　隆司（9-12）	座長：天野一男（1-3），松原典孝（4-7），細井　淳（8-11）
9：00	9：00 R11-O-1 南関東ガス田を形成した有機物分解／メタン生成反応の地球化．**金子信行**・前川竜男・猪狩俊一郎 9：15 R11-O-2 常磐地域南部五浦海岸に分布する中新世大規模炭酸塩コンクリーションの成因．**前山大地**・數川恵輔・鈴木德行・安藤寿男 9：30 R11-O-3 長野県松代地域における天然ガスおよび地層水の地球化学．**加藤　進**・西田英毅・岩野裕継 9：45 R11-O-4（招待）★ 経産省による日本海表層型メタンハイドレート広域調査の概要．**森田澄人** 10：15 R11-O-5 日本海北海道沖の堆積コア（IODP Exp. 346 U1423）の陸上植物バイオマーカー分析．**青柳治叡**・沢田　健・風呂田郷史・入野智久・五十嵐八枝子 10：30 R11-O-6 白亜系双葉層群から産出した炭化小型植物化石の抵抗性高分子組成から見た化学分類．**宮田遊磨**・沢田　健・池田　慧・中村英人・高橋正道 10：45 R11-O-7 秋田県北部福川油田（SK-18D号井）の微化石層序．**千代延仁子**・江森良太郎 11：00 R11-O-8 秋田県中新統女川層の有孔虫化石群集に基く堆積環境と石油根源岩性状．三**輪美智子**・黒川将貴・東　将士・横井　悟 11：15 R11-O-9（招待）★ 石油システムの概念に基づく油田形成シミュレーションの新潟県直江津沖地域への応用．**奥井明彦** 11：45 R11-O-10 福島県沖阿武隈リッジ周辺における地質構造の特徴．**荒戸裕之**・千代延　俊 12：00 R11-O-11 火山岩貯留岩の類型．**大久保　進**・赤工浩平・奥村文章・平野ひとみ 12：15 R11-O-12 アラブ首長国連邦アブダビ沖の巨大油田におけるバレミアン階炭酸塩プラットフォーム堆積物中のドロマイト層の成因と発達．**山本和幸**・オッティンガー ゲイリー・アルジナティ オサマ・高柳栄子・山本鋼志・井龍康文	9：15 T1-O-1（招待）★ 日本海の拡大とグリーンタフ期の日本列島のテクトニクス．**中嶋　健**・檀原　徹・岩野英樹・山下　透 9：45 T1-O-2（招待）★ 日本における新第三紀回転運動の新知見．**星　博幸** 10：15 T1-O-3 日本沈没が開始されたか．**新妻信明** 10：30 T1-O-4 中新世における棚倉断層の横ずれ運動と日本海の拡大．**天野一男**・澤畑優理恵・小沼早織 10：45 T1-O-5 中新世における棚倉断層周辺の古応力場の復元．**前田知行**・菊田亮太・天野一男 11：00 T1-O-6 兵庫県但馬妙見山地域の中新世の岩脈群は日本海拡大終了にともなう応力場転換を示すのか？　**羽地俊樹**・佐藤活志・山路　敦 11：15 T1-O-7 岩手県西和賀町に分布するグリーンタフのFTおよびU-Pb年代とその意味．**細井　淳**・中嶋　健・檀原　徹・岩野英樹・平田岳史・天野一男 11：30 T1-O-8 アパタイト微量元素組成を用いた凝灰岩の高精度対比．**高嶋礼詩**・西　弘嗣・桑原　里 11：45 T1-O-9 山陰海岸ジオパークにおける中新世ペペライトの産状と形成過程．**松原典孝**・郡山鈴夏・井口博夫 12：00 T1-O-10 山陰海岸ジオパーク但馬御火浦周辺に分布する中新世火山砕屑岩類の産状と形成過程．**郡山鈴夏**・松原典孝・天野一男 12：15 T1-O-11 中期中新世の平坦な玄武岩質海底溶岩を構成するピローローブの形態変化について．**藤林紀枝**・丸山貴利

■ MEMO ■

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/ 口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．
※**太字氏名**：代表発表者．　★印：ハイライト（本誌 p.（11）を参照）．　（招待）：招待講演．

日本地質学会第 122 年学術大会（2015 長野大会）講演プログラム（口頭）

■9 月 12 日（土）午前

第 1 会場（工学部講義棟 100）

R8. 堆積物（岩）の起源・組織・組成

座長：太田　亨（1-4），野田　篤（5-7）

8：45
8：45 R8-O-1
北米北部Rae地塊の前期原生代Murmac Bay層群クォーツァイトの岩石学的検討と砕屑性ジルコン同位体分析．**沢田　輝**・磯崎行雄・堤　之恭・飯塚　毅
9：00 R8-O-2
オマーン山地，下部三畳系半遠洋性堆積物の岩相と化学組成．**吉田孝紀**・葉田野　希
9：15 R8-O-3（招待）★
堆積性軟岩の化学的風化．**大山隆弘**
9：45 R8-O-4
新潟～信越堆積盆-富山トラフの砂岩組成と砕屑物供給系．**中嶋　健**・高野　修・興津　修・檀原　徹・山下　透
10：00 R8-O-5
北海道蝦夷層群における白亜紀海洋無酸素化事変の原因としての“風化仮説”の検証．上形由布子・高木悠花・**太田　亨**
10：15 R8-O-6
西南日本後期白亜紀前期の堆積盆における砂岩組成変化から何が読み取れるか？　**別所孝範**
10：30 R8-O-7（招待）★
全国地球化学図を利用した陸から海への物質移動過程解明．**太田充恒**

R9. 炭酸塩岩の起源と地球環境

座長：中澤　努（1-2）

11：15 R9-O-1★
南部マリアナ前弧しんかい湧水域で発達するチムニーの鉱物組成と堆積組織．**奥村知世**・石井輝秋・小原泰彦・高井研・YK13－08及びYK14－13乗船研究者一同
11：30 R9-O-2
滴下水-石筍方解石間の同位体分別：鹿児島県沖永良部島クリンジョフキにおけるケーススタディー．**山田　努**・松田博貴・馬淵しの・財津良太

第 2 会場（工学部講義棟 102）

R22. 地球史

座長：尾上哲治（14-16）

8：45 R22-O-14
Radiolarian assemblages from surface sediments of the Northwestern Pacific Ocean. **Matsuzaki Kenji M.**・Itaki Takuya
9：00 R22-O-15
白亜系蝦夷層群における浮遊性・底生有孔虫，放散虫統合層序の樹立と古環境解析．**西　弘嗣**・小安浩理・尾松圭太・高嶋礼詩
9：15 R22-O-16
北海道蝦夷層群Cenomanian/Turonian境界堆積岩の有機地球化学指標に記録された海洋の酸化還元環境変動．**安藤卓人**・沢田　健・中村英人・宮田遊磨・尾松圭太・高嶋礼詩・西　弘嗣

R17. 情報地質とその利活用

座長：野々垣　進（1-2）

9：45 R17-O-1★
長野県地質図（2015）と地質情報の活用．**富樫　均**・信州地質情報活用研究会・古本吉倫・松下英次
10：00 R17-O-2
カーネル密度推定を用いたスプライン補間した地質境界面の信頼度評価．**升本眞二**・根本達也・吉田宗可・ラガワン ベンカテッシュ・野々垣　進

T4. 三次元地質モデル研究の新展開

座長：高野　修（1-3），升本眞二（4-5）

10：15 T4-O-1
ボーリングデータ解析による千葉市地域の浅部地下構造モデリング．**木村克己**・花島祐樹・大井昌弘・落合　努
10：30 T4-O-2
沖積層の3次元モデル構築における堆積相区分の重要性．**中尾健人**・石原与四郎・成瀬　元
10：45 T4-O-3（招待）★
大阪堆積盆地構造モデルの改良．**関口春子**・浅野公之・岩田知孝・吉見雅行・堀川晴央・竿本英貴・林田拓己
11：15 T4-O-4
WebGLを用いた新日本シームレス地質図3Dの公開．**西岡芳晴**・銀木　護・瀧沢　哲
11：30 T4-O-5（招待）★
CIMにおける地質・地盤の3次元モデルについて．**秋山泰久**

第 3 会場（工学部講義棟 200）

S2. 東アジアのテクトニクスと古地理

座長：Simon WALLIS （1-3），Yasufumi IRYU （4-5）

9：00
Introduction（趣旨説明）
9：10 S2-O-1
The early Palaeozoic evolution of Japan. **WILLIAMS Mark**・WALLIS Simon・OJI Tatsuo・LANE Phil・VANDENBROUCKE Thijs・SIVETER David・SIVETER Derek・TANAKA Gengo・KOMATSU Toshifumi・STOCKER Christopher
9：40 S2-O-2（招待）
Development of the Middle Paleozoic in Japan inferred from radiolarian biostratigraphy, inter-terrane correlations, and tectonic relationships with neighboring orogenic belts in NE Asia. **KURIHARA Toshiyuki**
10：10 S2-O-3（招待）
Upper Paleozoic stratigraphy and tectonic evolution in Thailand. **CHAROENTITIRAT Thasinee**・UENO Katsumi
10：40 S2-O-4（招待）
Testing Lower Palaeozoic palaeogoegraphy using fossils. **SIVETER David**・TANAKA Gengo・WILLIAMS Mark
11：10 S2-O-5
Protracted onset of the Cambrian expolosion based on the trace fossil record. **OJI Tatsuo**・DORNBOS Stephen・YADA Keigo・GONCHIGDORJ Sersmaa・HASEGAWA Hitoshi・MOCHIZUKI Takafumi・TAKAYANAGI Hideko・IRYU Yasufumi

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/ 口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．
※**太字氏名**：代表発表者．　★印：ハイライト（本誌 p.（11）を参照）．　（招待）：招待講演．

日本地質学会第 122 年学術大会（2015 長野大会）講演プログラム（口頭）

■9 月 12 日（土）午前

第 4 会場（工学部講義棟 300）

R21. 第四紀地質

座長：公文富士夫（15-18）

8：45 R21-O-15
富山湾沿岸地域の沖積層に記録されたイベント堆積物．**卜部厚志**・高清水康博・鈴木幸治・片岡香子・仁科健二・川上源太郎・平川一臣・酒井英男

9：00 R21-O-16
熊本県南部を流下する球磨川の変遷と規制要因（その2）．**寺田昂世**・田中　均

9：15 R21-O-17
八ヶ岳連峰東麓に分布する火山灰土壌の有する重金属吸着特性の基礎的検討．**新井達之**・太田萌美・栗原正憲・香村一夫

9：30 R21-O-18
X線分析顕微鏡（XGT）による半定量分析結果の評価と化学組成連続分析への適用．**長橋良隆**・中澤なおみ

R3. 噴火・火山発達史と噴出物

座長：長井雅史（1-4），上澤真平（5-8）

10：00 R3-O-1
オフリッジ巨大海底溶岩流の組成変化と固化過程：オマーンオフィオライトV3溶岩原の岩石学・地球化学．**大塚　遼**・海野　進・草野有紀・金山恭子

10：15 R3-O-2
ハイアロクラスタイトの形成機構の解明―水底溶岩流の破砕を支配する要因について．**梅澤優美**・海野　進・金山恭子・草野有紀・安田　敦

10：30 R3-O-3
新島軽石：爆発的噴火に直接由来する水底密度流堆積物の堆積学的特徴．**鹿野和彦**・内村公大

10：45 R3-O-4
屋久島に分布するテフラのU-Th-Pb年代測定から推定された鬼界カルデラの活動史．**伊藤久敏**・上澤真平・東丸直頌・七山　太・中川正二郎

11：00 R3-O-5
十和田火山，噴火エピソードN-L間の噴火活動史．**工藤　崇**

11：15 R3-O-6
四阿火山南麓から東麓における火山活動史．**桐生和樹**・竹下欣宏

11：30 R3-O-7
群馬県西部嬬恋層群中から見出された，中期更新世八甲田国本テフラ．**山田眞嵩**・田辺智隆・鈴木毅彦

11：45 R3-O-8
長野県霧ヶ峰地域和田峠火山岩類の地質と年代．**長井雅史**・金成太郎・弦巻賢介・柴田　徹・杉原重夫

第 5 会場（工学部講義棟 301）

R12. 岩石・鉱物の変形と反応

座長：森　宏（15-19）

8：45 R12-O-15
断層構造の発展と地殻の強度低下：微細構造および物質移動解析からの考察．**竹下　徹**・荒井　駿・金子由実

9：00 R12-O-16（招待）★
粘土鉱物の摩擦ヒーリング特性と沈み込みプレート境界での固着度．**片山郁夫**

9：15 R12-O-17
伊豆-ボニン-マリアナ弧を構成する岩石のすべり特性：高温摩擦実験と低～高速摩擦実験からの考察．**兵東玄威**・高橋美紀・斎藤実篤・廣瀬丈洋

9：30 R12-O-18
高圧型変成岩中に認められるアクチノ閃石・緑泥石集合体の摩擦特性．**岡本あゆみ**・Niemeijer André R.・Spiers Christopher J.・竹下　徹・合地信生

9：45 R12-O-19
チャートの中速摩擦実験で形成された断層ガウジ物質の微細構造と摩擦特性．**堤　昭人**・三宅　亮・飯田大貴

R14. テクトニクス

座長：武藤　潤（1-3），西川　治（4-7）

10：00 R14-O-1（招待）
熱年代学を用いた山岳の隆起/侵食史復元．**田上高広**

10：30 R14-O-2
OSL感度変化を利用した断層活動の到達温度推定．**鴈澤好博**・越前賢哉・山崎朋子

10：45 R14-O-3
ニュージーランド，アルパイン断層上盤の熱ルミネッセンス年代．**西川　治**・チューンピー ティラポン・高島　勲・重松紀生

11：00 R14-O-4
2008SCAT高分解能反射法地震探査によって明らかとなった伊那谷断層帯の地下構造．**伊藤谷生**・狩野謙一・松島信幸・村松　武・阿部進・菊池伸輔・藤原明・村田和則・池田安隆・山北　聡・工藤　健・佐藤比呂志・金田平太郎・宮内崇裕・阿部信太郎

11：15 R14-O-5
北陸地域の浅部～深部地殻構造と活構造．**石山達也**・佐藤比呂志・加藤直子・越谷　信・松原　誠・阿部　進・東中元倫

11：30 R14-O-6
島根県隠岐諸島島後に産するマントル捕獲岩に対する弾性波速度測定．**高橋宏和**・石川正弘

11：45 R14-O-7
Fault Response Modelling - Application of Elastic Dislocation theory in earthquake research and industry．**Grossmann Johannes**・Macaulay Euan・Broichhausen Heike・Ellis Jenny・戸村元史

第 6 会場（学部共通棟 1）

R15. 古生物

座長：山口龍彦（1-4）

10：45 R15-O-1
北欧エストニアにおけるオルドビス紀中期の動物多様化と環境変動．**島塚桃子**・磯崎行雄・可児智美・石川　晃・Poldvere Anne・Bauert Heikki

11：00 R15-O-2
岐阜県山県市円原地区の美濃帯石灰岩から産出した巻きの解けた微小なフズリナ類について（続報）．**太田泰弘**・佐野弘好・杣山哲男

11：15 R15-O-3
南部北上帯下部三畳系産Thylacocephala（嚢頭類）：わが国からの初産出とその意義．**永広昌之**・佐々木　理・鹿納晴尚・根本　潤・加藤久佳

11：30 R15-O-4
白亜系海洋無酸素事変層準の堆積岩中に見出されるアクリタークの起源生物と白亜紀海洋における基礎生産への寄与．**安藤卓人**・沢田　健・高嶋礼詩・西　弘嗣

8：45

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/ 口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．
※**太字氏名**：代表発表者．　★印：ハイライト（本誌 p.（11）を参照）．　（招待）：招待講演．

■9 月 12 日（土）午前

会場	第 7 会場（学部共通棟 3）	第 8 会場（太田国際記念館研修室）
	R18. 環境地質	**T2. 文化地質学**
	座長：田村嘉之（1-4），高嶋恒太（5-8），風岡　修（9-12）	座長：先山　徹（1-3），原田憲一（4-5），乾　睦子（6-9），大友幸子（10-12）
8：45	8：45 R18-O-1 千葉県内の観測井に現れた2015年遠地地震の影響．**香川　淳**・古野邦雄・楠田　隆・酒井　豊・吉田　剛・荻津　達・風岡　修 9：00 R18-O-2 房総半島中央部における長周期地震動の特徴－速度計による観測結果－．**加藤晶子**・酒井　豊・荻津　達 9：15 R18-O-3 歴史地震から見た長野県北部の震害の特徴．山浦直人・**塩野敏昭** 9：30 R18-O-4 2011年東日本大震災の津波堆積物中の重金属類の起源．**土屋範芳**・細田憲弘・渡邊隆弘 9：45 R18-O-5 東京電力福島第一原子力発電所事故により放出された放射性セシウムの森林土壌における深度分布の経年変化．**新里忠史**・阿部寛信・石井康雄・佐々木祥人・三田地勝昭・北村哲浩・山口正秋 10：00 R18-O-6 簡易地盤リスク自動判定システムを用いた戸建て住宅向け地盤災害リスク情報普及の試み．**横山芳春**・山辺雅志・加藤未希・大久保拓郎 10：15 R18-O-7 宇治市における環境変化と災害，及び宇治川堤防の安全性．**紺谷吉弘** 10：30 R18-O-8 江戸時代（1840年）に記録された新潟県佐渡島相川鉱山のじん肺について．**仲川隆夫** 10：45 R18-O-9 汽水湖・中海における^{224}Ra/^{228}Ra比；^{224}Ra/^{228}Th比の分布特性と湖水の動き．**野村律夫**・辻本　彰・井上睦夫・小藤久毅 11：00 R18-O-10 甲府盆地北部周辺の水文環境と広域地質構造の関係．**奥水達司** 11：15 R18-O-11（招待） 八ヶ岳北東部の上水道水源湧水の年代測定と帯水層中での天然セシウムおよび微量元素の時間挙動．**中屋眞司** 11：45 R18-O-12 関東地下水盆における地盤沈下・地下水位の監視．**古野邦雄**・香川　淳・風岡　修・楠田　隆・楡井　久	8：45 T2-O-1 文化地質学：オーストリーと日本での進展．**鈴木寿志**・石橋弘明 9：00 T2-O-2 首都圏の歴史的建築物を手掛かりにした美祢大理石産業の歴史の解明．**乾　睦子** 9：15 T2-O-3 日本の歴史的重要建造物における徳島県産大理石の使用とその意義．**石田啓祐**・早渕隆人・中尾賢一・東明省三 9：30 T2-O-4 新治花崗岩と新治台地に残る石造文化財　**長　秋雄** 9：45 T2-O-5（招待）★ 文化と日本列島のジオ多様性．**尾池和夫** 10：15 T2-O-6★ 山形城坤櫓遺構の等高線図と栗石の礫種組成．**大友幸子**・八木浩司・淀野将太・永井康雄・齋藤　仁 10：30 T2-O-7 福岡城上之橋御門石垣石材の岩石記載とその産地についての考察．**宮本知治**・中村啓太郎・星野惠美・島田允堯 10：45 T2-O-8 花崗岩質石造物の産地同定における帯磁率の有効性．**先山　徹** 11：00 T2-O-9 亀島山地下壕の断層と風化．**能美洋介**・久木一磨・中西健太 11：15 T2-O-10★ スレイマニヤ博物館所蔵のメソポタミア粘土板胎土の組成．**安間　了**・申　基澈・中野孝教・昆　慶明・辻　彰洋・渡辺千香子・横尾頼子・Rasheed Kamal 11：30 T2-O-11 古代物流経路の推定を目的とした土師器の非破壊蛍光X線分析：企救型甕の例．**森　康**・佐藤浩司・坪根伸也・稗田智美・今塩屋毅行・龍　孝明・小田裕樹 11：45 T2-O-12★ 土佐清水市竜串海底の石柱群の歴史地震考古学的意義．**谷川亘**・山本裕二・浦本豪一郎・濱田洋平・井尻　暁・星野辰彦・若木重行・村山雅史・廣瀬丈洋・林原利明・徳山英一

■ MEMO ■

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/ 口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．
※**太字氏名**：代表発表者．　★印：ハイライト（本誌 p.（11）を参照）．　（招待）：招待講演．

日本地質学会第 122 年学術大会（2015 長野大会）講演プログラム（口頭）

■9 月 12 日（土）午後

第 1 会場（工学部講義棟 100）

R9. 炭酸塩岩の起源と地球環境

座長：奥村知世（3-5），加藤大和（6-9）

14：30
14：30 R9-O-3
異なる植生下における鍾乳洞の洞内環境と地下水涵養メカニズム－沖縄県南大東島を例として－．**松田博貴**・鹿島美香・梁 熙俊・利部　慎・嶋田　純
14：45 R9-O-4
浅間火山の年縞トゥファの形成過．**勝田長貴**・酒井佳祐・内藤さゆり・安田　敦・中井俊一・川上紳一
15：00 R9-O-5
東北地方太平洋側地域の複数の石筍酸素同位体比記録が示す気候変動の周期性とその駆動要因．**加藤大和**・山田　努
15：15 R9-O-6★
沖縄県南大東島大東層における上部中新統～鮮新統炭酸塩岩の堆積様式とドロマイト化作用．**島津　崇**・松田博貴・淺原良浩・八木正彦
15：30 R9-O-7
別所層と青木層に産する大サイズ苦灰石ノジュールの特性．**石田朋志**・森清寿郎
15：45 R9-O-8
秋吉帯石炭–ペルム紀石灰岩における造礁生物としての海綿類の消長．**中澤　努**・上野勝美
16：00 R9-O-9
北中国地塊のカンブリア系第三統張夏層に特徴的な“サンゴ”–イシ海綿–微生物類礁の特異な産状．**江崎洋一**・足立奈津子・刘 建波・闫　振

R10. 堆積過程・堆積環境・堆積地質

座長：高清水康博（1-4）

16：30 R10-O-1（招待）★
深海底で形成される粗粒ベッドフォームの特徴化とLoweモデル再構築の可能性．**伊藤　慎**
17：00 R10-O-2
タービダイト・サクセッションの検層ログデータを用いた定量的堆積相解析の試み．**大西由梨**・石原与四郎・高野　修・佐々木　華
17：15 R10-O-3
海底斜面から海洋底にかけて発達する閉鎖～非閉鎖チャネルシステム：対馬堆積盆地の例．**江川浩輔**・坂田玄輝・宮本広樹・阿部洋祐・松浦紳二・今村哲己・原　尊照・阿久津亨
17：30 R10-O-4
三次元震探データのサイスミック地形学手法による海底扇状地詳細堆積要素の解剖：Frontal splay・舌状体群の構造．**高野修**・西村瑞恵

第 2 会場（工学部講義棟 102）

T3. 水蒸気噴火と火山体構造

座長：及川輝樹（1-3），長谷川　健（4-7）

14：30 T3-O-1（招待）
水蒸気噴火の噴火機構と斑岩銅鉱床モデル．**大場　司**
15：00 T3-O-2
北海道東部，アトサヌプリ溶岩円頂丘における水蒸気噴火の発生履歴．**長谷川　健**・中川光弘・宮城磯治
15：15 T3-O-3
口永良部島・新岳の2014年・2015年の爆発的噴火：水蒸気噴火の可能性．**小林哲夫**
15：30 T3-O-4
焼岳火山1907-39年の噴火活動－大正池形成を含む水蒸気噴火－．**及川輝樹**
15：45 T3-O-5
御嶽山2014年噴火後に発生した降雨型ラハールとRain-on-snowによる出水イベントおよび堆積物の特徴．**片岡香子**・松元高峰・齋藤武士・河島克久・伊豫部勉・佐々木明彦・鈴木啓助・長橋良隆
16：00 T3-O-6
御嶽火山2014年9月噴出物中の粒子について．**牧野州明**・三宅康幸・高橋　康・御嶽山総合観測班地質チーム
16：15 T3-O-7（招待）
水蒸気噴火を起こす火口地下浅部の熱構造．**寺田暁彦**

第 3 会場（工学部講義棟 200）

S2. 東アジアのテクトニクスと古地理

座長： Mark WILLIAMS （6-8), Tatsuo OJI （9-10）

14：30 S2-O-6（招待）
Paleozoic Japan and the Greater South China. **ISOZAKI Yukio**
15：00 S2-O-7（招待）
Cenozoic tectonic development and paleogeography in the Taiwan region. **LIN Andrew T.**
15：30 S2-O-8（招待）
Permian ostracods from Japan—their paleoecological and paleogeographical significance. **TANAKA Gengo**
16：00 S2-O-9（招待）
Mesozoic assembly and rearrangement of proto-Japan：Insights from paleogeography and detrital-zircon age spectra.. **OTOH Shigeru**
16：30 S2-O-10（招待）
Paleoproterozoic to Triassic crustal evolution of the Korean Peninsula： Tectonic correlation with the Japanese Islands. **CHO Moonsup**

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/ 口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．
※**太字氏名**：代表発表者．　★印：ハイライト（本誌 p.（11）を参照）．　（招待）：招待講演．

日本地質学会第 122 年学術大会（2015 長野大会）講演プログラム（口頭）

■9 月 12 日（土）午後

第 4 会場（工学部講義棟 300）

R24. 鉱物資源

座長：高谷雄太郎（1-4），安川和孝（5-7），野崎達生（8-10），藤永公一郎（11-13）

14：30
14：30 R24-O-1（招待）★
太古代アルカリ熱水作用：縞状鉄鉱層と親銅元素鉱床形成．**小宮　剛**
15：00 R24-O-2
海嶺下における熱水循環：オマーンオフィオライトにおける巨大緑泥石岩体産出の意義．**宮下純夫**・足立佳子・金子 龍
15：15 R24-O-3
別子型鉱床形成時の海洋酸化還元状態の推定．**中村謙太郎**・足立遼介・加藤泰浩
15：30 R24-O-4
ジュラ紀付加体中に産出する層状マンガン堆積物の層序と年代．**冨松由希**・尾上哲治
15：45 R24-O-5
沖縄トラフ伊平屋北海丘の人工熱水孔を利用した黒鉱養殖プロジェクト．**野崎達生**・石橋純一郎・島田和彦・長瀬敏郎・高谷雄太郎・加藤泰浩・川口慎介・和辻智郎・渋谷岳造・山田亮一・猿橋具和・許　正憲・高井　研
16：00 R24-O-6
Pb-Nd同位体比組成に基づくスラブ起源流体の豊羽鉱床形成への寄与の定量化．**藤永公一郎**・荒木修平・稗田裕樹・中村謙太郎・加藤泰浩・谷水雅治・清水　徹・町田嗣樹・中村仁美・岩森　光
16：15 R24-O-7
地殻内部の鉱床生成場と物理探査手法開発の試み．**岩森　光**・中村仁美・上木賢太・桑谷　立
16：30 R24-O-8
南鳥島周辺の排他的経済水域内におけるレアアース泥の鉱物学的特徴および粒度分布．**大田隼一郎**・町田嗣樹 ・藤永公一郎・中村謙太郎 ・安川和孝・高谷雄太郎・飯島耕一・鈴木勝彦・岩森　光・加藤泰浩
16：45 R24-O-9
南鳥島EEZ南方海域におけるレアアース資源ポテンシャル評価．**大矢和孝** ・安川和孝 ・大田隼一郎 ・藤永公一郎・ 高谷雄太郎・中村謙太郎 ・野崎達生・飯島耕一・加藤泰浩
17：00 R24-O-10
シュウ酸・炭酸を用いたレアアース泥製錬手法の開発．**高谷雄太郎**・藤永公一郎・中村謙太郎・加藤泰浩
17：15 R24-O-11
太平洋・インド洋の新生代深海堆積物を構成する地球化学的独立成分の時空間分布復元．**安川和孝**・中村謙太郎・藤永公一郎・岩森　光・加藤泰浩
17：30 R24-O-12
深海堆積物中の希土類元素の初期続成過程における挙動： マンガン酸化物からリン酸塩への移動．**高橋嘉夫**・森田康一・福川昌弘
17：45 R24-O-13
海の鉱物資源の科学と工学の新展開．**加藤泰浩**・岩森　光・中村謙太郎・尾上哲治・野崎達生・藤永公一郎・町田嗣樹・高谷雄太郎・安川和孝・大田隼一郎

第 5 会場（工学部講義棟 301）

R14. テクトニクス

座長：重松紀夫（8-11），宮川歩夢（12-15),山北　聡（16-18），堤　之恭（19-21）

14：30 R14-O-8★
第四紀以降の日本列島における地殻構造の発達過程：断層の力学的活動性による検討．**宮川歩夢**・大坪　誠
14：45 R14-O-9
2014年長野県北西部地震における地殻変動の要因－神城断層と小谷-中山断層がつくるポップアップ構造－．**津金達郎**・信州大学震動調査グループ
15：00 R14-O-10
長野県白馬村，神城地震断層周辺の活断層露頭．**小林健太**・飯田圭輔・香取拓馬
15：15 R14-O-11★
屏風山断層帯における運動像の変遷と変質帯の空間分布．**香取拓馬**・小林健太
15：30 R14-O-12
伊那市長谷～大鹿地域の中央構造線の第四紀における活動．**高木秀雄**・杉山幸太郎・河本和朗・北澤夏樹
15：45 R14-O-13
中央構造線，脆性領域における断層内部構造発達．**重松紀生**・亀高正男・稲田徳之・宮脇昌弘・東郷徹宏・亀田　純・藤本光一郎
16：00 R14-O-14
地質断層である奈良県中央構造線の断層破砕帯の鉱物学的・地化学的特徴．**大谷具幸**・椿純一・河野雅弘・小嶋　智
16：15 R14-O-15★
四国西部，中央構造線沿いのドロマイト質片岩の地質構造からみた古第三紀の運動像の検討．**窪田安打**・竹下　徹
16：30 R14-O-16★
沈み込んだインドプレートのデラミネーションによる22～10Maのヒマラヤ変成帯の急激な上昇．**酒井治孝**・河上哲生，佐藤活志・岩野英樹・檀原　徹
16：45 R14-O-17
砕屑性鉱物年代によるロシア沿海州付加体の起源推定．**堤　之恭**・横山一己・カサツキン セルゲイ・ゴロゾボフ ウラジミル
17：00 R14-O-18
白亜紀の東アジアと堆積盆地の分化：砕屑性ジルコン年代学の貢献．**磯崎行雄**・中畑浩基・青木一勝・坂田修平・平田岳史
17：15 R14-O-19
白亜紀日本の背弧堆積盆の断片とその弧横断長距離移動履歴：関東山地北縁，跡倉層・栃谷層の砕屑性ジルコン年代．**中畑浩基**・磯崎行雄・小坂和夫・坂田周平・平田岳史
17：30 R14-O-20
西南日本外帯反時計回り斜走断層群の一員としての九州東部株ノ木断層．**山北　聡**
17：45 R14-O-21
北部九州と韓半島および東シナ海の地質学的関係から示唆される日本海拡大のテクトニクス．**眞島英壽**

第 6 会場（学部共通棟 1）

R15. 古生物

座長：山口龍彦（5-6），千徳明日香（7-11）

14：30 R15-O-5
生痕化石*Schaubcylindrichnus coronus* Frey and Howard, 1981のチューブ構成粒子の起源と形成メカニズム．**菊地一輝**・小竹信宏
14：45 R15-O-6
岩石穿孔性二枚貝類による，中新統の穿孔痕にみられるジオペタル構造．**千代田厚史**・原田吉樹
15：00 R15-O-7
ミャンマー国チャンター海浜砂から産出した底生有孔虫．**秋元和實**
15：15 R15-O-8
分類学的組成の入れ替わりから見たアンモノイドの多様性変動．**生形貴男**
15：30 R15-O-9
植物化石の抵抗性高分子のパレオリピドミクス．**沢田　健**
15：45 R15-O-10
脂肪を多く含む動物組織の薄片作製と観察．**田尻理恵**・栗原　望
16：00 R15-O-11
微化石の光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡観察でのオスミウム蒸着の有用性．**山口龍彦**・寺田武志・諸野祐樹

R16. ジュラ系＋

座長：近藤康生（1-2），松岡　篤（3-4）

16：30 R16-O-1
ジュラ紀付加体にみられる生痕化石とその意義．**松岡　篤**
16：45 R16-O-2
北部石灰アルプスの放散虫岩層序．**鈴木寿志**・ガウリック ハンス-ユルゲン・ディエルシェ フォルカー
17：00 R16-O-3
相馬中村層群山上層の中部ジュラ系二枚貝動物群．**近藤康生**・竹谷陽二郎・八巻安夫・ 荒　　好・平　宗雄
17：15 R16-O-4（招待）
太平洋の中生代化石記録から探る新しいバイオイベント．**伊庭靖弘**

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/ 口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．
※**太字氏名**：代表発表者．　★印：ハイライト（本誌 p.（11）を参照）．　（招待）：招待講演．

日本地質学会第 122 年学術大会（2015 長野大会）講演プログラム（口頭）

■9 月 12 日（土）午後

会場	第 7 会場（学部共通棟 3）	第 8 会場（太田国際記念館研修室）
	R18. 環境地質	**T2. 文化地質学**
	座長：香川　淳（13-16）	座長：鈴木寿志（13-17）
14：30	14：30 R18-O-13 淡水性の泥層からなる難透水層中の流体の通り道 －房総半島北部の下総台地での例－．**風岡　修**・吉田　剛・荻津　達・香川　淳・藤ヶ崎　稔・古野邦雄・酒井　豊 14：45 R18-O-14 TCE地下水汚染サイトにおける分解生成物の経時変化．**高嶋恒太**・風岡　修 15：00 R18-O-15 人工地層の汚染原因を解決する単元調査法（その2）．**上砂正一** 15：15 R18-O-16 人自不整合の形成と扇子状堆積構造中の物質移動．**檜井　久**・平田紀子・木村和也・檜山知代	14：30 T2-O-13★ 西彼杵半島のシシ垣．**筬島聖二** 14：45 T2-O-14 高知県安田町の「くわず貝」伝説について～文化地質学の視点から～．**石橋弘明** 15：00 T2-O-15 伊勢神宮式年遷宮「お白石持」行事に用いられる白石の起源．**内野隆之** 15：15 T2-O-16 江戸期、常陸太田市町屋産蛇紋岩石材（町屋石）と石仏造立．**田切美智雄** 15：30 T2-O-17 文化地質学的観点から見た「夫婦岩」考．**加藤碵一**
	R19. 応用地質学一般およびノンテクトニック構造	**R20. 地学教育・地学史**
	座長：須藤　宏（1-3），西山 賢一（4-6）	座長：平田大二（1-4），矢島道子（5-8）
	15：45 R19-O-1（招待）★ 道路斜面防災の現状と課題．**佐々木靖人** 16：15 R19-O-2★ 2014年8月20日広島豪雨による土石流発生地域の地質．**斎藤眞**・川畑大作・佐藤大介・土志田正二・新井場公徳 16：30 R19-O-3 長崎県佐世保市に分布する史跡・福井洞窟の形成に関与した地すべり．**西山賢一**・辻本裕也・柳田裕三 16：45 R19-O-4 岐阜福井県境，冠山北西の山体重力変形地形の地下構造．**小嶋　智**・岩本直也・山崎智寛・小村慶太朗・金田平太郎・大谷具幸 17：00 R19-O-5 塩ノ平断層の定方位コア試料採取．**鈴木悠爾**・亀高正男・村田誠一・青木和弘・田中義浩・瀬下和芳・酒井　亨 17：15 R19-O-6（招待）★ 2014年長野県北部の地震と糸魚川–静岡構造線断層帯．**近藤久雄**	15:45 R20-O-1 ナウマン(1854-1927)の古生物学的研究．**矢島道子** 16:00 R20-O-2 「小さなEarth Scientistのつどい」の効果．**三次徳二** 16:15 R20-O-3 地学教材指導上の諸問題－特に，火山及び火山岩を中心に－：事例研究．**松田義章** 16:30 R20-O-4 なぜ日本では、「化石」というと「アンモナイト」を連想するのか？－社会における地質学リテラシーの形成要因－．**安曽潤子** 16:45 R20-O-5 天草地域に分布する佐伊津層の礫組成が物語る後背地．**津留ありさ**・高嶌栞織・田中　均 17:00 R20-O-6 茨城県自然博物館における地学分野のアウトリーチ活動．**細谷正夫**・諸橋靖子 17:15 R20-O-7 博物館の講座参加者にみられる地学教育への期待．**平田大二** 17:30 R20-O-8 コンテストからみた高校生の科学研究に求めるもの．**川勝和哉**

■ MEMO ■

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/ 口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．
※**太字氏名**：代表発表者．　★印：ハイライト（本誌 p.（11）を参照）．　（招待）：招待講演．

日本地質学会第 122 年学術大会（2015 長野大会）講演プログラム（口頭）

■9 月 13 日（日）午前

会場	第 1 会場（工学部講義棟 100）	第 2 会場（工学部講義棟 102）	第 3 会場（工学部講義棟 200）
	R10. 堆積過程・堆積環境・堆積地質 座長：仁科健二（5-8），西田尚央（9-12）	**R13. 沈み込み帯・陸上付加体** 座長：橋本善孝（1-5），坂口有人（6-11）	**S1. 北部フォッサマグナ―東西日本の地質境界：過去，現在，そして未来** 座長：常盤哲也（1-2），廣内大助（3-4）
8：45	8：45 R10-O-5 開水路ベッドフォーム形成条件の判別分析．**大畑耕治**・成瀬元・横川美和 9：00 R10-O-6★ 流砂による侵食で形成される基盤岩上の周期的ステップの形態に被覆堆積物が及ぼす影響．**横川美和**・京極晃年・小寺　彰・泉　典洋 9：15 R10-O-7 沖縄島周辺海域の黒潮反流の影響を受けた深海堆積物．**西田尚央**・板木拓也 9：30 R10-O-8 駿河湾から採取された洪水堆積物のバイオマーカー分析に基づく植物片の起源と運搬過程の推定．**風呂田郷史**・沢田　健・西田尚央・池原　研 9：45 R10-O-9 2011年東北沖津波が残した地球化学的痕跡とその時間変化：千葉県山武市蓮沼の例．**篠崎鉄哉**・澤井祐紀・原　淳子・池原　実・松本　弾・谷川晃一朗 10：00 R10-O-10 宮崎平野における津波イベント堆積物について．**市原季彦**・黒木　昌・伊集院弘尚 10：15 R10-O-11 岩手県広田湾における3.11津波堆積物の分布と内部特徴．**横山由香**・坂本　泉・八木雅俊・井上智仁・根元謙次・藤巻三樹雄・笠谷貴史・藤原義弘 10：30 R10-O-12 2011年東北地方太平洋沖地震津波による海底侵食面とその保存ポテンシャル：仙台湾浅海底を例として．**吉河秀郎**・後藤和久・金松敏也・阪口　秀	8：45 R13-O-1 南西諸島海溝南部における前弧ウェッジ構造とプレート境界特性．**新井隆太**・海宝由佳・高橋　努・仲西理子・藤江　剛・中村恭之・三浦誠一・小平秀一・金田義行 9：00 R13-O-2（招待）★ 蛇紋岩化したウェッジマントルにおける固体流動と流体浸透．**ウォリス サイモン**・水上知行・遠藤俊祐・永冶方敬・青矢睦月・河原弘和 9：30 R13-O-3 白亜紀後期日本の構造浸食作用の活動時期．**青木一勝** 9：45 R13-O-4 温度が規定する沈み込み帯巨大地震の変位量と再来周期―コスタリカ沖地震発生帯の例―．**坂口有人**・山下純平 10：00 R13-O-5 コスタリカ沖沈み込み帯斜面に発達する大規模地震波反射面・不整合における物性変化を支配する堆積・変形・化学過程．**浜橋真理**・スクリートン エリザベス・谷川　亘・橋本善孝・マーティン キララ・斎藤実篤・木村　学 10：15 R13-O-6 付加体掘削での坑内温度計測．**山田泰広**・真田佳典・Kyaw Thu Moe 10：30 R13-O-7 掘削トルクデータから求めた日本海溝沈み込み帯の高速摩擦強度断面．**氏家恒太郎**・井上朝哉・石渡隼也 10：45 R13-O-8 コア試料の非弾性ひずみ回復法による応力測定：GSJ新居浜掘削の例．**林　為人**・木口　努・佐藤隆司・長野優羽・畠田健太郎・多田井修・桑原保人 11：00 R13-O-9 小断層の発熱量・活動時間の推定とスロー地震のスケーリング則との関係：四国四万十帯．**橋本善孝**・森田清彦・大久保慎人・浜田洋平・林　為人・廣瀬丈洋・北村真奈美 11：15 R13-O-10 南海トラフ巨大分岐断層の暗灰色ガウジにおけるイライト化反応の定量的評価．**増本広和**・亀田　純・濱田洋平・北村有迅 11：30 R13-O-11★ 断層岩の微量元素分析に基づく摩擦溶融の評価．**石川剛志**・氏家恒太郎・松岡　淳・永石一弥・川合達也	8：45 S1-O-1 糸魚川－静岡構造線活断層帯において発生した2014年長野県北部の地震にみられる諸課題．**廣内大助** 9：30 S1-O-2（招待） 北部フォッサマグナの地殻構造と新生代テクトニクス．**佐藤比呂志** 10：15 S1-O-3（招待） 島弧地殻の変形と内陸震発生過程．**飯尾能久** 11：00 S1-O-4 短縮テクトニクスにより生じた北部フォッサマグナと大峰帯での変形，飛騨山脈の傾動隆起．**原山　智**
	R7. 海洋地質 座長：板木拓也（1-3）		
	11：00 R7-O-1 第四紀後期の浮遊性有孔虫殻形態の変遷からみた北大西洋亜極循環の形成時期．**山崎　誠**・嶋田智恵子・池原　実 11：15 R7-O-2 北部九州–パラオ海嶺における海洋地質調査の成果と古海洋研究の展開：新青丸KS-15-4次航海速報．**池原　実**・岡崎裕典・堀川恵司・板木拓也・杉崎彩子・松崎賢史・佐藤太一・佐藤雅彦 11：30 R7-O-3 ピストンコアラーのインナーパイプに関する課題．**佐藤悠介**・橋本泰志		

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/ 口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．
※**太字氏名**：代表発表者．　★印：ハイライト（本誌 p.（11）を参照）．　（招待）：招待講演．

日本地質学会第 122 年学術大会（2015 長野大会）講演プログラム（口頭）

■9 月 13 日（日）午前

第 4 会場（工学部講義棟 300）

T6. 地球史から宇宙史へ：日本の地球史研究 25 年

座長：磯崎行雄（1-4），小宮　剛（5-8),片山郁夫（9-13）

8：45
8：45 T6-O-1
1990年に日本で全地球史解読研究を開始したのはなぜか？ **丸山茂徳**
9：00 T6-O-2（招待）
My research history and geology in Japan. **Windley Brian F.**
9：15 T6-O-3
Shock-metamorphosed zircons recovered from the Jack Hills metaconglomerates in the Narryer Gneiss Complex, Western Australia. **山本伸次**・小宮剛・飯塚毅・渋谷岳造・Collerson Kenneth
9：30 T6-O-4
最古の表成岩と初期地球進化. **小宮　剛**・山本伸次・越田渓子・青木翔吾・田代貴志・石川　晃
9：45 T6-O-5
海洋の持続的な存在の検証：地球内部での水収支. **片山郁夫**
10：00 T6-O-6
地球史を通した海洋塩化物イオン濃度の変化. **齋藤拓也**・渋谷岳造・澤木佑介・小宮　剛・丸山茂徳
10：15 T6-O-7
エディアカラ紀の古環境解読研究. **澤木佑介**
10：30 T6-O-8
広域変成帯の研究からみた固体地球変動とその変遷. **太田努**・片山郁夫
10：45 T6-O-9
太平洋型造山運動に基づくウェールズ・イングランド地域の構造発達史の再解釈. **浅沼　尚**・岡田吉弘・澤木佑介・山本伸次・丸山茂徳
11：00 T6-O-10
ジュラ紀付加体中のペルム系－ジュラ系層状チャートに記録された地球外物質の付加. **尾上哲治**・佐藤峰南・野崎達生・鈴木勝彦・中村智樹・白井直樹・海老原充
11：15 T6-O-11（招待）
タンデム惑星形成論：京都モデルの枠組みに新物理. **戎崎俊一**・今枝佑輔
11：30 T6-O-12
前期原生代研究：酸素濃度の増加とガボン多細胞生物の出現. **佐藤友彦**・澤木佑介・丸山茂徳
11：45 T6-O-13
人類進化と大陸リフト系の誘発トリガー. **磯崎行雄**

第 5 会場（工学部講義棟 301）

R2. 岩石・鉱物・鉱床学一般

座長：壷井基裕（1-3），纐纈佑衣（4-6）

9：00 R2-O-1
男鹿半島一の目潟・寒風火山に産する交代された下部地殻捕獲岩の化学組成と組織の変化. **山元正継**・業田顕行
9：15 R2-O-2
多里–三坂かんらん岩（西南日本）：超枯渇海洋性マントルかんらん岩？ **荒井章司**・田村明弘
9：30 R2-O-3
北八ヶ岳横岳火山岩類の岩石化学・鉱物学的研究. **大場孝信**
9：45 R2-O-4
長野県大町市，仁科山地に分布する木崎流紋岩類の岩石化学的研究－その2－. **渡辺吉和**・大場孝信
10：00 R2-O-5
氷上花崗岩類と古生代花崗岩類のSr-Nd同位体比. **佐々木惇**・土谷信高・柴田知之・芳川雅子・足立達朗・中野伸彦・北野一平・小山内康人
10：15 R2-O-6★
三内丸山遺跡出土の緑色磨製石斧の岩石学的特徴とその原産地. **前川寛和**・大塚和義・山本鋼志・合地信生

R4. 変成岩とテクトニクス

座長：宮崎一博（1-4）

10：45 R4-O-1
天然のカンラン石ファブリックとテクトニクスの関係. **道林克禎**・尾上彩佳・小田島庸浩
11：00 R4-O-2
マリアナ海溝最西端で採取された海溝カンラン岩の地質学的研究. **大家翔馬**・道林克禎・小原泰彦・石井輝秋・水野那希・萬年一剛
11：15 R4-O-3
変成脈における炭酸塩鉱物の周期的沈殿：接触変成帯と広域変成帯における2つの事例の比較. **西山忠男**
11：30 R4-O-4
スタグナントスラブ，展張，変成帯貫入. **鳥海光弘**

第 6 会場（学部共通棟 1）

S3. 法地質学の進歩

座長：風岡　修（1-3）・杉田律子（4-6）

9：00
趣旨説明及び会長挨拶
9：10 S3-O-1
Introduction to Forensic Science and Geology. **SUGITA Ritsuko**
9：25 S3-O-2（招待）
Forensic Geology – The Science and the Application. **Ray MURRAY**
9：50 S3-O-3（招待）
Searching for graves and objects buried in peat or concealed in freshwater associated with crime. **Alastair RUFFELL**・Laurance Donnelly
10：15
休憩
10：25 S3-O-4（招待）※講演取消
Forensic Geology Cases from North America. **William M. SCHNECK**
10：40 S3-O-5（招待）
Using GIS in Forensic Search Strategies. **Jennifer McKINLEY**
11：05 S3-O-6（招待）
Forensic Examination of Soil Evidence in Japan. **Hiromi ITAMIYA**・Ritsuko SUGITA
11：20
Discussion

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/ 口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．
※**太字氏名**：代表発表者．　★印：ハイライト（本誌 p.（11）を参照）．　（招待）：招待講演．

■ 9 月 13 日（日）午前

会場	第 7 会場（学部共通棟 3）	第 8 会場（太田国際記念館研修室）
	T5.「泥火山」の新しい研究展開に向けて	R6. ジオパーク
	座長：井尻　暁（1-6），土岐知弘（7-11）	座長：天野一男（1-4），渡辺真人（5-9）
8：45	8：45 T5-O-1 音響層序学および構造学的見地から考える泥火山探査：熊野泥火山群を例に．**森田澄人**・芦　寿一郎・中村恭之 9：00 T5-O-2 南海トラフ熊野海盆の断層分布と泥火山の関係．**辻　健** 9：15 T5-O-3 海洋泥火山へのアプローチ－熊野外縁隆起帯における泥火山活動の理解のために．**浅田美穂**・野口拓郎・川村喜一郎・中嶋　新・潮崎翔一・Moore G.F. 9：30 T5-O-4 熊野海盆の海底地すべりとそのトリガー．**川村喜一郎**・グレゴリー ムーア・浅田美穂・潮崎翔一・中嶋　新 9：45 T5-O-5 熊野沖海底湧水域の間隙水の化学組成から推定された湧水の起源と間隙流体の分布と挙動．**土岐知弘**・比嘉良作・井尻　暁・角皆　潤・芦　寿一郎 10：00 T5-O-6（招待） 海底泥火山深部生命圏の実態解明に向けて．**稲垣史生**・井尻　暁 10：30 T5-O-7 種子島沖海底泥火山の新規流出泥流調査速報．**井尻　暁**・町山栄章・稲垣史生・芦　寿一郎 10：45 T5-O-8（招待）★ 陸上泥火山研究の進展．**田中和広** 11：15 T5-O-9 Active mud volcanism on Ramree and Cheduba Islands, offshore west Myanmar．**Moore Gregory F.**・Aung Lin Thu・Kopf Achim 11：30 T5-O-10★ LUSI泥火山の特徴と発生過程の再検討（レビュー）．**谷川亘**・西尾嘉朗 11：45 T5-O-11 フランシスカン・メランジュの最終的配置：泥岩の注入説．**小川勇二郎**	9：15 R6-O-1 世界ジオパークを巡る現在の状況と今後の方向．**渡辺真人** 9：30 R6-O-2（招待）★ 日本のジオパークの現状と課題．**松原典孝** 10：00 R6-O-3 北海道地質百選 —北海道の地質 魅力発見!—．**重野聖之**・石井正之・垣原康之・鬼頭伸治・田近　淳・中川　充・宮坂省吾 10：15 R6-O-4 赤石山脈、遠山上流域の渓谷がもつ特性—南アルプスジオパークの主な渓谷の比較から—．**坂本正夫** 10：30 R6-O-5 ジオパークを活用した学校の教育活動．**高木秀雄**・山本隆太 10：45 R6-O-6 三陸ジオパークにおける教育普及活動の紹介．**斎　宏行**・下向武文・熊谷　誠・永広昌之・大石雅之・橋本智雄・伊藤太久 11：00 R6-O-7 生まれ変わったフォッサマグナミュージアム．**竹之内　耕**・宮島　宏・茨木洋介 11：15 R6-O-8 平尾台の保護の歴史に見る先進的取り組みとジオパーク活動による活用．**太田泰弘**・久下洋一 11：30 R6-O-9 地質遺産3Dアーカイブの試み．**北沢俊幸**・金井友則・谷口健太・白木洋平

■ MEMO ■

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/ 口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．
※**太字氏名**：代表発表者．　★印：ハイライト（本誌 p.（11）を参照）．　（招待）：招待講演．

日本地質学会第 122 年学術大会（2015 長野大会）講演プログラム（口頭）

■9 月 13 日（日）午後

会場	第 1 会場（工学部講義棟 100）	第 2 会場（工学部講義棟 102）	第 3 会場（工学部講義棟 200）
	R7. 海洋地質	**R13. 沈み込み帯・陸上付加体**	**S1. 北部フォッサマグナ—東西日本の地質境界：過去，現在，そして未来**
	座長：小原泰彦（4-6），中村謙太郎（7-10），井上卓彦（11-14）	座長：氏家恒太郎（12-17）	座長：原山　智（5-6）
14：30	14：30 R7-O-4（招待）★ 沖縄トラフの海底熱水系の地球化学的特徴．**石橋純一郎** 15：00 R7-O-5（招待）★ 北部琉球弧における第四紀海底火山活動．**横瀬久芳** 15：30 R7-O-6 中部沖縄トラフにおける海底熱水噴出孔の網羅的探査．**中村謙太郎**・川口慎介・北田数也・熊谷英憲・高井　研・沖野郷子 15：45 R7-O-7 バーティカルケーブルサイスミック探査手法を用いた中部沖縄トラフ伊是名海穴Hakurei熱水サイトの浅部地下構造と海底熱水鉱床の分布．**多良賢二**・芦寿一郎・淺川栄一・村上文俊・塚原　均・徳山英一 16：00 R7-O-8 海底地形図「南西諸島」に見る沖縄トラフの海底地形と海底地形名．**小原泰彦** 16：15 R7-O-9 鬼界カルデラ及び薩摩硫黄島における海洋底堆積物の層序と鉱物・化学組成．**原田拓人**・清川昌一・池原　実 16：30 R7-O-10 喜界島南方の海底カルデラ状地形から採取された堆積物の特徴．**板木拓也**・佐藤太一・井上卓彦・天野敦子・田中裕一郎 16：45 R7-O-11 伊豆半島南沖の石廊海底谷から得られた玄武岩と相模湾東部の相模海丘の複数の玄武岩礫層類のテクトニクス．**藤岡換太郎**・高橋直樹・森　慎一・大島光春・平田大二・山下浩之・柴田健一郎・KOOHOOの会 17：00 R7-O-12 房総半島東部沿岸における反射法音波探査とその地質学的意義．**古山精史朗**・佐藤智之 17：15 R7-O-13 三次元的構造解析による下北半島沖大規模海底地すべり層の規模と滑動方向の推定．**中村祐貴**・芦　寿一郎・森田澄人 17：30 R7-O-14 ロギング地質学への挑戦—IODP Expedition 337，青森県八戸沖掘削での岩相同定—．**中嶋　新**・斎藤実篤・川村喜一郎	14：30 R13-O-12（招待）★ 高分解能反射構造イメージングから得られた南海トラフ沈み込み帯の特徴．**山下幹也**・中村恭之・仲西理子・三浦誠一・小平秀一・金田義行 15：00 R13-O-13 紀伊半島南部四万十帯の海底地すべり−土石流堆積物．**中屋志津男**・中屋志郎 15：15 R13-O-14 底付け付加体の小断層方位解析による古応力と摩擦係数の推定．**佐藤活志** 15：30 R13-O-15 炭質物のラマンスペクトルを用いた断層における摩擦発熱検出．**田畑皓輝**・氏家恒太郎・纐纈佑衣・鍵　裕之 15：45 R13-O-16★ 房総半島から見いだされた沈み込み帯浅部の地震性すべりの痕跡．**山本由弦**・千代延　俊・氏家恒太郎・濱田洋平・神谷奈々・斎藤実篤 16：00 R13-O-17 房総半島の前弧海盆南縁における変形と被熱構造．**神谷奈々**・山本由弦・竹村貴人	14：30 S1-O-5（招待） 東北日本弧の後期新生代地質構造発達史．**中嶋　健** 15：15 S1-O-6（招待） プレート運動に基づく日本列島の形成過程．**高橋雅紀** 16：15 総合討論

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/ 口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．
※**太字氏名**：代表発表者．　★印：ハイライト（本誌 p.（11）を参照）．　（招待）：招待講演．

■9 月 13 日（日）午後

会場	■ MEMO ■
14：30	

第 5 会場（工学部講義棟 301）

R4. 変成岩とテクトニクス

座長：河上哲生（5-8），志村俊昭（9-11），遠藤俊祐（12-15）

14：30 R4-O-5（招待）★
高圧・超高圧変成岩のフェンジャイトK-Ar年代学．**板谷徹丸**

15：00 R4-O-6
三波川エクロジャイト中に共存する異なる累帯構造のザクロ石：エクロジャイト相変成作用時の岩石混合の証拠．**榎並正樹**・木村純一・壷井基裕

15：15 R4-O-7
秩父帯北帯の地質構造と変成作用．**遠藤俊祐**・ウォリス サイモン

15：30 R4-O-8
西彼杵半島泥質片岩の変成岩組織，ジルコンU-Pb年代,及びフェンジャイトK-Ar年代．**宮崎一博**・西山忠男・森　康・重野未来・檀原　徹・岩野英樹・八木公史・平田岳史

15：45 R4-O-9（招待）★
グラニュライト中の「珪長岩包有物」から推定される大陸衝突型造山帯での地殻深部過程．**廣井美邦**・鹿山雅裕・三宅亮・足立達朗・外田智千・Prame Bernard・Satish-Kumar Madhusoodhan・柳　綾彦・加藤睦実・小林記之・石川正弘・小山内康人・西戸裕嗣・本吉洋一・白石和行

16：15 R4-O-10
東南極スカレビックハルセン産ザクロ石-珪線石片麻岩の複変成の可能性と塩素に富む黒雲母の意義．**河上哲生**・外田智千・坂田周平

16：30 R4-O-11
ザクロ石Ti 温度計．**川嵜智佑**・本吉洋一

16：45 R4-O-12
New constraints on the tectono-thermal history of the Ryoke Belt （Iwakuni-Yanai area, Yamaguchi Prefecture）．**SKRZYPEK Etienne**・KAWAKAMI Tetsuo・HIRATA Takafumi・SAKATA Shuhei・IKEDA Takeshi・KATO Takenori

17：00 R4-O-13
日高変成帯の形成テクトニクス（1）：二度の変成作用と地殻の二重構造．**志村俊昭**・小島　萌・KEMP Anthony I. S.

17：15 R4-O-14
日高変成帯の形成テクトニクス（2）：二度の火成活動．**小島　萌**・KEMP Anthony I. S.・大橋美由希・志村俊昭

17：30 R4-O-15
方解石双晶の方向データから複数の偏差応力テンソルを検出する新手法．**山路　敦**

第 6 会場（学部共通棟 1）

R23. 原子力と地質科学

座長：吉田英一（1-4），梅田浩司（5-8），高橋正樹（9-12）

14：30 R23-O-1（招待）
地球環境変遷から見た人口・エネルギー問題と原子力．**山崎晴雄**

15：00 R23-O-2
日本列島第四紀マグマ活動の長期安定性評価と問題点．**高橋正樹**

15：15 R23-O-3
内陸地震震源域下の流体の分布と起源：地球物理，地球化学データを用いた震源断層の調査技術に向けて　**梅田浩司**・浅森浩一

15：30 R23-O-4
地質環境長期安定性評価確証技術開発：後背地解析技術に関する研究．**安江健一**・須貝俊彦・徳安佳代子・小松哲也・堀内泰治・清水　整・森田泰彦

15：45 R23-O-5
地層処分の観点からのわが国の深部地質環境の分類－NUMOセーフティケースにおける候補母岩の設定－．**太田久仁雄**・國丸貴紀

16：00 R23-O-6
わが国の新第三紀堆積岩類を対象とした地質構造モデルの構築－NUMOセーフティケースにおける候補母岩のモデル化－．**戸田亜希子**・田中達也・ブライネス パトリック・戸谷成寿・太田久仁雄・國丸貴紀

16：15 R23-O-7
ナチュラルアナログを活用した「サイトの安定性」評価とその指標の検討．**山田彩織**・太田久仁雄・Alexander W. Russell

16：30 R23-O-8
地層処分地選定のための地質環境調査技術の実証研究．**吉村公孝**・出口　朗・西尾　光・近藤浩文

16：45 R23-O-9★
日本の原子力規制と地質学．**石渡　明**

17：00 R23-O-10
断層周辺ダメージゾーンの充填鉱物による履歴解析とその応用．**吉田英一**

17：15 R23-O-11
瑞浪超深地層研究所における断層の分布と地質環境への影響に関する事例研究．**野原　壮**・酒井利啓・石橋正祐紀・松本　淳

17：30 R23-O-12
熱年代学および記載岩石学的検討に基づく中部日本土岐花崗岩における割れ目頻度と岩体冷却過程の関係．**笹尾英嗣**・湯口貴史

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/ 口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．
※**太字氏名**：代表発表者．　★印：ハイライト（本誌 p.（11）を参照）．　（招待）：招待講演．

日本地質学会第122年学術大会（2015長野大会）講演プログラム（ポスター）

■9月11日（金）　コアタイム 13：45 ～ 15：05　ポスター会場（体育館）

R1. 深成岩・火山岩とマグマプロセス

R1-P-1
東北脊梁山地に点在する白亜紀花崗岩類のジルコンU-Pb年代. **早坂康隆**・大友幸子・西川　治
R1-P-2
島根県川本花崗閃緑岩のアパタイト・ジルコン・スフェンFT年代とU-Pb年代. **岩野英樹**・檀原　徹・坂田周平・平田岳史
R1-P-3
日近花崗閃緑岩体に含まれるジルコン結晶形態について. **久木一磨**・能美洋介
R1-P-4
只見川古期花崗岩類における長石のCe異常. **一野亘生**・若木重行・谷岡裕大・壷井基裕
R1-P-5
珪長質深成岩体の噴火能力について. **佐藤博明**・田結庄良昭・森岡幸三郎
R1-P-6
槍・穂高カルデラにおけるファコリス状閃緑斑岩岩床の産状. **日比野由佳**・原山　智
R1-P-7
阿武隈帯，栗子地域における角閃岩及び花崗閃緑岩の地球化学的特徴. **鏡　早智**・加々島慎一
R1-P-8
チリ・パタゴニア北部，プエルトシスネスにおける中新世花崗岩の成因. **加藤夢絵**・加々島慎一・安間　了
R1-P-9
北部九州，白亜紀I-タイプ花崗閃緑岩のマグマ過程. **大和田正明**・浦島遼平・江島圭祐・松田洋一・池田眞一郎・亀井淳志
R1-P-10
北部九州，白亜紀牛斬山花崗閃緑岩の定置深度とマグマ過程. **江島圭祐**・大和田正明
R1-P-11
含水マグマだまりの同化分別結晶作用：生駒はんれい複合岩体の例. **小泉奈緒子**・奥平敬元・小川大介・山下勝行・隅田祥光
R1-P-12
北関東山地黒内山超苦鉄質岩体の起源. **井澤一輝**・高澤栄一
R1-P-13
フィリピン海プレート基盤海洋地殻の火山岩層序：IODP Exp. 351奄美三角海盆コア試料解析. **草野有紀**・石塚　治

R5. 地域地質・地域層序・年代層序

R5-P-1
岩手県一戸・二戸地域の第三系層序と構造. **辻野　匠**・工藤崇
R5-P-2
付加体地質構造からみた“北部北上帯”を細分する構造線の意義：岩手県一戸地域からの検討. **中江　訓**
R5-P-3
南部北上帯のオルドビス紀背弧海盆玄武岩類とテクトニクス. **内野隆之**・川村信人
R5-P-4
湯沢ジオパーク御嶽山の地質. **藤本幸雄**
R5-P-5
5万分の１地質図幅「川俣」地域の地質：特に阿武隈花崗岩類の泥質変成岩母岩中の斑れい岩類について. **久保和也**・山元孝広・村田泰章・牧野雅彦
R5-P-6
新津丘陵における前期更新世の石灰質ナンノ化石および貝形虫化石群集. **飯田里菜**・楠　慧子・山田　桂・田中裕一郎
R5-P-7
日立カンブリア系赤沢層から化石組織報告2—海綿骨片，有孔虫，棘皮動物. **田切美智雄**・塙　勝利・及川　晃
R5-P-8
関東山地東部，秩父市浦山地域の秩父累帯（その4）. **加藤　潔**
R5-P-9
房総半島東部，上総層群下部の層序（予報）. **宇都宮正志**・中嶋輝允
R5-P-10
本邦太平洋側とその周辺海域における新第三系・第四系石灰質ナノ化石基準面. **亀尾浩司**・岡田良昭・千代延　俊・岡田　誠
R5-P-11
安房層群安野層の古地磁気—酸素同位体複合年代層序　**羽田裕貴**・岡田　誠
R5-P-12
神奈川県北西部，四万十帯相模湖層群瀬戸層中の苦鉄質岩類の産状. **河尻清和**
R5-P-13
三浦半島北部，鮮新-更新統池子層に挟まれるKGPテフラ. **蟹江康光**・鈴木　進・布施憲太郎
R5-P-14
北部フォッサマグナ南東部，小諸陥没盆地構成層の層序と構造. **宮坂　晃**・狩野謙一
R5-P-15
2014年長野県神城断層地震による地盤災害. **山田隆二**・飯田智之・鈴木比奈子・若月　強・内山庄一郎
R5-P-16
善光寺の石造物の破損に基づく2014年11月22日地震の震動の復元. **花岡邦明**・竹下欣宏・長野市・飯綱町・信濃町・小川村における2014年長野県北西部地震の被害調査グループ
R5-P-17
上高地の活断層：1998年飛騨山脈群発地震の震央集中域との関係. **本合弘樹**・井上　篤・原山　智
R5-P-18
上高地における高瀬川断層の南方延長. **佐藤拓実**・原山　智
R5-P-19
駿河湾沿岸海域の海底地質. **佐藤智之**・荒井晃作
R5-P-20
東海層群下部の指標テフラ，下石火山灰層の放射年代と記載岩石学的特徴. **星　博幸**・田村糸子・小松哲也
R5-P-21
京都府福知山市猪崎における大山起源テフラの発見—テフラ同定・対比における普通角閃石の化学組成の有用性の一例—. **小滝篤夫**・足立泰樹・加藤みやび
R5-P-22
5万分の1地質図幅「播州赤穂」地域，後期白亜紀火山岩類の層序. **佐藤大介**・山元孝広
R5-P-23
紀伊半島に分布する日高川帯丹生川層より得られたジルコンのU-Pb年代. **志村侑亮**・常盤哲也・竹内　誠・山本鋼志・高橋　康
R5-P-24
紀伊半島の四万十帯，丹生ノ川層の泥岩礫の起源. **山本俊哉**・紀州四万十帯団体研究グループ
R5-P-25
鳥取県東部白兎海岸淤岐ノ島と気多岬に露出する新第三系の岩相と火山岩のK-Ar年代. **菅森義晃**・池内萌加・佐野円香・田子直樹・星野和真・伊吹彩花・梶山隼人・高橋　聖・遠藤晴矢・小玉芳敬
R5-P-26
岡山県東部，中—上部ペルム系上月層（超丹波帯）のデボン紀チャート層. **竹村静夫**・植野　輝・竹村厚司・菅森義晃・古谷　裕
R5-P-27
岡山県川上町地頭地域における上部三畳系成羽層群地頭層の層相解析. **正岡祐人**・鈴木茂之
R5-P-28★
岡山県北部におけるカンブリア紀後期を示す花崗岩マイロナイトの発見　**原田達也**・早坂康隆・木村光佑
R5-P-29
三波川変成岩類に関連する地質単元のジルコンU-Pb年代. **長田充弘**・横川実和・高地吉一・大藤　茂・山本鋼志
R5-P-30
高知県物部地域および徳島県勝浦地域の秩父累帯 下部白亜系における砕屑性ジルコンU-Pb年代分布. **池田拓司**・原田拓也・高地吉一・大藤　茂・山本鋼志
R5-P-31
愛媛県松山市北部における上部白亜系和泉層群基底部の堆積年代・堆積環境及び周辺同時期火成活動との関係. **野田　篤**・佐藤大介
R5-P-32★
二枚貝フォーナと砕屑性クロムスピネルを用いた黒瀬川帯下部白亜系の古地理. **三宅由洋**・久田健一郎・田中　均

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします.
※**太字氏名：代表発表者.**　★印：ハイライト（本誌 p.（11）を参照）.　（招待）：招待講演.

■9月11日（金）　コアタイム 13：45 ～ 15：05　ポスター会場（体育館）

R5-P-33
志布志湾北部地域に分布する漸新統日南層群の地質と原層序の堆積環境．**谷口知寛**・小竹信宏
R5-P-34
与論島に分布する中生界立長層の地質（予報）．**笠原慎平**・北村有迅
R5-P-35
タイ国北部Lampang 層群Hong Hoi層から産出した三畳紀中世の放散虫化石．**鎌田祥仁**・上野勝美・宮東　照・原　英俊・久田健一郎・宇野康司・Thasinee Charoentitirat・Punya Charusiri
R5-P-36
タイ国北部，Lampang層群の下部三畳系炭酸塩サクセション．**上野勝美**・田川　諒・宮東　照・鎌田祥仁・Thasinee Charoentitirat
R5-P-37
タイ北部,ペルム系・三畳系海成層の後背地と砕屑性ジルコンU-Pb年代：スコタイ島弧の発達とパレオテチス閉鎖の記録．**原　英俊**・國井美幸・久田健一郎・鎌田祥仁・上野勝美・昆　慶明・San Assavapatchara・Anuwat Treerotchananon・Thasinee Charoentitirat・Punya Charusiri
R5-P-38
インドチャイナ地塊西縁部からのペルム紀～三畳紀堆積岩の古地磁気データ．**宇野康司**・友岡　希・上野勝美・鎌田祥仁・Charusiri Punya・Charoentitirat Thasinee・Vilaykham Khamseng・Khamphavong Keo
R5-P-39
オマーンオフィオライトWadi Hilti地域に分布するV2溶岩層上の遠洋性堆積物から産出した後期Cenomanianの放散虫化石．**安喰由実**・原　康祐・栗原敏之

R11．石油・石炭地質学と有機地球化学

R11-P-1
孔径分布データを用いた砂岩浸透率の推定．**辻　隆司**・切明畑伸一
R11-P-2
阿武隈リッジ南部３Ｄ地震探査データ解釈に基づく，阿武隈リッジの断層の形態と特徴．**千代延　俊**・荒戸裕之
R11-P-3
燃料資源図「関東地方」の出版．**佐脇貴幸**・金子信行・前川竜男・猪狩俊一郎

R12．岩石・鉱物の変形と反応

R12-P-1
FT熱年代解析に基づいた，黒雲母の塑性変形を伴う破砕帯活動時期の制約．**末岡　茂**・島田耕史・石丸恒存・丹羽正和・安江健一・梅田浩司・檀原徹・岩野英樹
R12-P-2
A succession of dynamic fault weakening in accretionary prism from micro-scale 3-D observation of natural fault rock.
濱田洋平・木村　学・亀田　純・山口飛鳥・浜橋真理・福地里菜・北村有迅・岡本伸也
R12-P-3
断層岩に含まれる石英のカソードルミネッセンスのスペクトル特性．**田野孝太朗**・金井拓人・高木秀雄
R12-P-4
丹沢地域，道志川断層に発達する微細炭酸塩鉱物脈の変形機構．**久末修也**・高木秀雄
R12-P-5★
鉱物脈を用いたプレート沈み込み帯巨大分岐断層周辺での応力状態および駆動流体圧比の推定：延岡衝上断層の例．**大坪　誠**・宮川歩夢・川崎令詞・佐藤活志・山口飛鳥・木村　学
R12-P-6
静岡県佐久間町中央構造線沿いに分布する鹿塩マイロナイトに重複した脆性破壊組織．**遠藤弘人**・道林克禎
R12-P-7
中央構造線に沿うカタクレーサイトの微細構造と成因．**荒井駿**・竹下　徹
R12-P-8
モンモリロナイトの粉砕と非晶質化における水の影響．**藤本光一郎**・遠藤　伶
R12-P-9
徳之島西部秋利神に産する異地性岩片を含む暗色粉砕岩脈．**貞包健良**・山本啓司
R12-P-10
伊吹山地貝月山花崗岩中に発達する坂本断層の破砕帯構造．**岡崎和彦**・飯田高弘・溝口一生・酒井　亨・鈴木悠爾・稲田徳之・亀高正男
R12-P-11
三重県三峰におけるMTL破砕帯の内部構造と変質様式．**阿部田門**・藤本光一郎・重松紀生
R12-P-12
内畑断層系成合断層の断層破砕帯の内部構造：泉佐野市大池露頭での解析結果．**飯田高弘**・岡崎和彦・溝口一生
R12-P-13
塩ノ平断層の破砕部性状と変位センス．**酒井　亨**・亀高正男・田中由美子・青木和弘・田中義浩・丹羽正和・瀬下和芳
R12-P-14
六甲断層・五助橋断層の断層岩における化学組成変化．**清水麻由子**・丹羽正和・田中義浩・青木和弘・亀高正男
R12-P-15
瀬戸内海手島に発達する小剪断帯の変形環境の推定．**矢野萌生**・坂巻邦彦・高木秀雄・荒井優祐
R12-P-16
封圧下における岩石の比抵抗に関する研究．**畠田健太朗**・林　為人・廣瀬丈洋・谷川　亘・濱田洋平・多田井修
R12-P-17
乾燥岩石試料の熱物性値の温度依存性．**多田井修**・林　為人・廣瀬丈洋・谷川　亘・濱田洋平・畠田健太朗
R12-P-18
炭質層に発達する鏡肌の微細組織と地すべりの発生に与える影響．**佐藤　琢**・安東淳一・鍵　裕之・大藤弘明
R12-P-19
画像解析に基づく脆性断層岩中石英粒子の粒度分布の推定．**池谷昌美**・金井拓人・高木秀雄
R12-P-20
人工衝突クレーター周辺の誘電率・密度・クラック分布．**石山　謙**・熊本篤志・高木靖彦・中村教博・長谷川　直
R12-P-21
ナノからミリスケールにおける地震断層面の形状特性：井戸沢断層と神城断層の解析結果．**岸田実紀**・溝口一生・高橋美紀・廣瀬丈洋
R12-P-22
数値シミュレーションを用いたマイクロブーディンデータの再現：簡易応力解析法の提案．**松村太郎次郎**・増田俊明
R12-P-23
含水条件でのクロムスピネルの組成改変とクラック形成．**新井　翔**・水上知行・永冶方敬・Wallis Simon・森下知晃・曽田祐介
R12-P-24
含水かんらん岩における変形機構の競合と転位構造．**水上知行**・大内智博
R12-P-25
蛇紋岩の浸透率に基づくアウターライズ断層沿いのマントルの加水作用の検証．**畠山航平**・片山郁夫
R12-P-26
2種類のアンチゴライトが作る層構造と生成メカニズム．**小林仁弥**・水上知行・曽田祐介・草野有紀・荒井章司

R22．地球史

R22-P-1
房総半島南端千倉層群布良層における浮遊性有孔虫化石を用いた古海洋環境の復元．**山本秀忠**・岡田　誠・所　佳実
R22-P-2
タイ国インドシナ地塊（ペルム系）より産出した腕足動物殻化石における炭素・酸素同位体組成の殻内変化および個体差．**滝澤　護**・Lapone Techapinawat・髙柳栄子・Charoentitirat Thasinee・浅海竜司・阿部　理・原　英俊・曽根正敏・山本鋼志・井龍康文
R22-P-3
カナダ・ラブラドル，サグレック岩体の初期太古代（>3.95 Ga）堆積岩中の炭質物と炭酸塩の炭素同位体比：初期生命の痕跡．**田代貴志**・石田章純・堀　真子・伊規須素子・佐野有司・

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．
※**太字氏名：代表発表者．**　★印：ハイライト（本誌 p.（11）を参照）．　（招待）：招待講演．

■9月11日（金）　コアタイム 13：45 ～ 15：05　ポスター会場（体育館）

小宮　剛
R22-P-4
SPring-8によるエディアカラ紀微化石の放射光分析．**大河原綾乃**・上杉健太朗・Du Wei・小宮　剛
R22-P-5
アカスタ片麻岩体苦鉄質のRe-Os 同位体組成：冥王代マントル進化解明にむけて．**越田渓子**・石川　晃・鈴木勝彦・小宮　剛
R22-P-6
Mid-Cretaceous calcareous nannofossil biostratigraphy in the Vocontian Basin, Southeast France. **Gyawali Babu Ram**・Nishi Hiroshi・Takashima Reishi・Herrle Jens O.
R22-P-7
エジプトEl Dabbah地域の7億年前の縞状鉄鉱層の岩相変化とXRF分析．**鈴木大志**・清川昌一・池原　実・佐野貴司

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/ 口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．
※太字氏名：代表発表者．　★印：ハイライト（本誌 p.（11）を参照）．　（招待）：招待講演．

日本地質学会第122年学術大会（2015長野大会）講演プログラム（ポスター）

■9月12日（土）　コアタイム 13：00 ～ 14：20　ポスター会場（体育館）

T2. 文化地質学

T2-P-1
千葉県房総半島にみられる特定の凝灰岩単層のみを石材として利用した石蔵．**高橋直樹**・赤司卓也・椎熊邦廣・織本潤一

T3. 水蒸気噴火と火山体構造

T3-P-1
アンケート調査に基づく御嶽山2014年9月27日噴火の降灰域と拡散過程．**竹下欣宏**・桐生和樹・花井嘉夫・北澤夏樹・川上明宏

T4. 三次元地質モデル研究の新展開

T4-P-1
DEMから作成する詳細地形判読のためのステレオ等高線地形解析図．**粟田泰夫**
T4-P-2★
積層型の立体造形物と3Dプロジェクションマッピングを用いた，地質情報の可視化およびアウトリーチ手法の現状．**芝原暁彦**・木村克己・西山昭一
T4-P-3
地震動解析のための浅部モデル作成プログラムの開発．**堀　伸三郎**・奥野哲朗
T4-P-4
データ分布を考慮したスプライン補間による地層境界面のDEM作成．**野々垣　進**・升本眞二・根本達也

R3. 噴火・火山発達史と噴出物

R3-P-1
浅間火山2015年6月16日噴火の噴出物について．**高橋　康**・牧野州明・三宅康幸・津金達郎
R3-P-2
降下火山灰が電力流通設備に与える影響―がいしの耐電圧特性に関する最近の知見―．**土志田　潔**・本間宏也・屋地康平・服部康男・竹内晋吾
R3-P-3
流紋岩溶岩の破砕・脱ガスとスフェルライト形成の関係―神津島、沢尻湾溶岩と砂糠山溶岩の例―．**古川邦之**・宇野康司・金丸龍夫

R8. 堆積物（岩）の起源・組織・組成

R8-P-1
北海道天塩中川地域に分布する蝦夷層群の泥質堆積物に含まれる粘土鉱物組み合わせの意義．**勝家康太郎**・吉田孝紀
R8-P-2
シワリク層群中部～上部中新統砂岩における砂岩組成とザクロ石組成．松本悠暉・**吉田孝紀**・酒井治孝
R8-P-3
四万十帯砕屑物組成の時間・空間変化様式：琉球と三重地域の広域比較．**広瀬　健**・葛原弘毅・太田　亨
R8-P-4
瀬戸内区新第三系における古土壌構成の変遷：中部中新統と上部鮮新統の比較．**葉田野　希**・吉田孝紀
R8-P-5
楕円フーリエ－主成分分析法を用いた砕屑物粒子形状の定量化および堆積場判別手法の検証．**橋本朋子**・太田　亨

R9. 炭酸塩岩の起源と地球環境

R9-P-1★
山口県美祢市秋吉産大理石石材の古生物学的・岩石学的研究．**井川敏恵**・中澤　努・藤川将之・上野勝美
R9-P-2★
北部秩父帯，叶山石灰岩に見られる石灰藻（*Anthracoporella* - *Palaeoaplysina*）マウンドの堆積過程．**冨永紘平**・久田健一郎・上野勝美
R9-P-3
秋田県新第三系に発達する炭酸塩コンクリーションの同位体地球化学的特徴．**安東大輝**・西川　治・内田　隆・石山大三・松葉谷治
R9-P-4
同位体希釈ICP質量分析によるGSJ地球化学標準物質JCp-1（サンゴ），JCt-1（シャコガイ）の14希土類元素の高確度定量．**田中　剛**・Lee Seung-Gu・Kim Taehoon・Han Seunghee・Lee Hyo Min・Lee Seung Ryeol・Lee Jong Ik

R10. 堆積過程・堆積環境・堆積地質

R10-P-1
海底扇状地の多様性の要因．**成瀬　元**
R10-P-2★
長波長ベッドフォームの形成からみた"トラクションカーペットの堆積物"の成因．大西由梨・津田佳祐・**石原与四郎**・横川美和
R10-P-3
堆積盆水深に支配されるデルタ分流チャネルのダイナミクス: 水槽実験および幾何モデリング．**武藤鉄司**・西川信秀・成瀬元
R10-P-4
露頭写真からの粒子認識の試み．**佐々木　華**・石原与四郎
R10-P-5★
塊状タービダイト砂層の粒子ファブリックから可視化されたメートルスケールのベッドフォーム．**宮田雄一郎**・松山　優
R10-P-6
1回の大増水で変わった穂谷川の流路．**坂本隆彦**
R10-P-7
石英の表面形態を用いた後背地推定のための基礎的検討．**板宮裕実**・杉田律子・須貝俊彦
R10-P-8
島弧会合部における陸棚斜面埋積モデル：北部フォッサマグナ長野地域新第三系の例．**関　めぐみ**・保柳康一
R10-P-9
長野県北部新第三系のファンデルタシステム復元と鮮新世テクトニクスによる地質構造形成．**滝川雅大**・保柳康一
R10-P-10
足柄衝突帯下部更新統塩沢層のファンデルタシステムに認められる礫質洪水堆積物と堆積サイクル．**下村崇宏**・伊藤　慎
R10-P-11
岩手県北東部に分布する上部白亜系久慈層群の堆積相とシーケンス層序．三**塚俊輔**・安藤寿男
R10-P-12
岐阜県高山市荘川町に分布する手取層群の堆積環境と産出する材化石．**上村真優子**・保柳康一・下島志津夫
R10-P-13
射流領域の堆積作用と内部成層構造：新第三系国見層の例．**前島　渉**・小川尚真
R10-P-14
インド北東部スィンブーム地塊に分布する前期原生代潮汐堆積物のウェーブレット解析：20億年前の地球自転速度の推定．**宮田浩之**・太田　亨
R10-P-15
現世と歴史時代の津波堆積物に対する磁気ファブリックの適用例．**高清水康博**・卜部厚志・加瀬善洋・林　圭一
R10-P-16
岩手県広田湾における珪藻遺骸群集の特徴について．**井上智仁**・坂本　泉・横山由香・八木雅俊・堤　康裕・飯島さつき・松澤啓之・嵯峨山　積
R10-P-17★
日本海石狩湾陸棚上の起伏地形の形成要因，津波および内部波の検討．**仁科健**二・内田康人・川上源太郎

R14. テクトニクス

R14-P-1
更新統足柄層群の変形環境．**粉川真人**・小林健太
R14-P-2
北海道日高変成帯南端部上歌別川地域における 変成岩類・トーナル岩に関する構造地質学的研究．**櫻井宏信**・豊島剛志
R14-P-3
関東山地四万十帯の砂岩・頁岩および丹沢層群緑色岩の高圧下における弾性波速度測定．**本多聡子**・石川正弘
R14-P-4
日本列島の基盤岩類における低温領域の熱年代データのコンパイル．**福田将眞**・末岡　茂・田上高広
R14-P-5
沈み込み帯ダイナミクスの数値モデル．**石井和彦**・野嶽弘継
R14-P-6
断層ガウジの2軸剪断試験：変形構造の垂直応力依存性．**相山**

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．
※**太字氏名：代表発表者．**　★印：ハイライト（本誌 p.（11）を参照）．　（招待）：招待講演．

■9月12日（土）　コアタイム 13：00 ～ 14：20　ポスター会場（体育館）

光太郎・溝口一生・平野公平

R14-P-7★
布田川–日奈久断層帯海域延長部における活動履歴と最新活動時期について．**八木雅俊**・坂本　泉・田中博通・横山由香・井上智仁・久保崇大・藤巻三樹雄・根元謙次

R14-P-8
トライシアー・モデルによる地質構造とその形成過程の解明：東京大学千葉演習林の清澄背斜付近を例として．**古角晃洋**・山中克正・山路　敦

R14-P-9
スマトラ断層北端部の変位地形・活動履歴・クリープ変位．**堤　浩之**・副田宜男・Ismail Nazli・田部井隆雄

R14-P-10
長野県神城断層地震で出現した主断層以外の断裂の変形構造．**中田英二**・上田圭一

R14-P-11
外房地域東海岸の応力史再訪．**山中克正**・佐藤活志・山路　敦

R14-P-12
炭酸塩フラクチャ貯留岩における脈方位および脈方解石の双晶方位から推定された古応力について．**八木正彦**・玉川哲也・山路　敦・西川　治

R14-P-13
千葉県房総半島南端地域における古応力解析．**前田知行**・岡田　誠

R14-P-14
敦賀半島，江若花崗岩に分布する断層ガウジの粘土鉱物組成とK-Ar年代．**丹羽正和**・島田耕史・末岡　茂・田村　肇・柴田健二

R14-P-15
山口県菊川断層帯の活動履歴：下関市菊川町上諏訪トレンチ調査結果．**宮下由香里**・下釜耕太・松浦一樹

R14-P-16
弾性波速度測定による日高変成帯の地殻構成岩石の推定．**山内紘一**・石川正弘・佐藤比呂志・岩崎貴哉・豊島剛志

R15. 古生物

R15-P-1
南部北上帯岩井崎石灰岩に記録されたペルム紀中期末の生相・環境変化：グローバル寒冷化に対する中緯度での応答．**飛田知世**・磯崎行雄・可児智美・林　隆太郎

R15-P-2
スッポンの起源，および「中期」白亜紀超温室地球での地理的放散．**中島保寿**・Danilov Igor G.・平山　廉・薗田哲平・Scheyer Torsten M.

R15-P-3
前期更新世の日本海における深海貝形虫群集と海洋環境．**黒木健太郎**・山田　桂・山口龍彦

R15-P-4
臼田標本（*Mammuthus trogontherii*）のＸ線ＣＴによる観察．**近藤洋一**・高橋啓一・馬場理香・北川博道・関めぐみ

R15-P-5
マイクロフォーカスＸ線ＣＴ画像を用いたサンゴ骨格の内部構造解析．**千徳明日香**・石橋正嗣・森嵜仁美・升本眞二・大野理恵・町山栄章・富山隆將・多田井　修・江﨑洋一

R15-P-6
多摩丘陵の下部更新統・上総層群産オストラコーダ化石群と産出意義．**小沢広和**・石井　透

R15-P-7
山口県周南市鹿野地域で新たに発見したマンガン炭酸塩岩の産状と産出化石．**田中菜月**・中川孝典・脇田浩二

R16. ジュラ系＋

R16-P-1
福井県大野市に分布する中部ジュラ系手取層群九頭竜亜層群貝皿層における放散虫群集とアンモノイド年代．**鹿澤優祐**・松岡　篤

R16-P-2
長野県開田地域における美濃帯東部味噌川コンプレックスの岩相層序及び放散虫化石．**箱岩寛晶**・松岡　篤

R16-P-3
ペルム紀放散虫*Albaillella sinuata*の二形性の形態学的検討．**伊藤　剛**・馮　慶来・松岡　篤

R16-P-4
南チベット白亜系放散虫化石層序と海洋無酸素事変．**李　鑫**・松岡　篤・李　亜林・王　成善

R17. 情報地質とその利活用

R17-P-1
地理院地図を用いた日本シームレス地質図新ビューアの公開．**西岡芳晴**・北尾　馨・長津樹理

R17-P-2
3Dタイルを用いた3次元地質モデル可視化の試み．**根本達也**・升本眞二・野々垣進

R17-P-3
方向データに混合ビンガム分布をフィッティングするソフトウェア．**山路　敦**

R18. 環境地質

R18-P-1
千葉県北西部八千代市と習志野市に連続する帯水層の地下水流動～より精密な地下水盆管理を目指して～．**吉田　剛**・風岡　修・香川　淳・藤ヶ崎　稔・坂本雅治・長根山晧介

R18-P-2
日向峠–小笠木峠断層ガウジのルミネッセンス測定．**三浦知督**・鴈澤好博・長谷部徳子

R18-P-3
「2011年長野県北部の地震」で発生した天然ダムの破堤原因の考察とその後．**室田真宏**・赤井静夫・塩野敏昭・小林保男・赤井理一郎

R18-P-4
浅部地質構造による地震動の増幅と間隙水圧変化．**荻津　達**・酒井　豊・風岡　修・香川　淳・加藤晶子・吉田　剛・亀山　瞬

R19. 応用地質学一般およびノンテクトニック構造

R19-P-1
３種類のハンマーを用いた岩盤分類と岩石強度の関係．**大河内誠**

R19-P-2
山田断層における断層破砕部の性状に関するSEM観察と鉱物分析による検討．**田中姿郎**・溝口一生・相山光太郎

R19-P-3
片理と節理に規制された泥質片岩の重力性傾動構造－高知県いの町葛地区の三波川変成コンプレックスの例－．**石橋愛香**・横山俊治・本間こぎと

R19-P-4
詳細な動態観測とコア分析から見えてきた広島県庄原地すべり地域のすべり強化挙動．**岳　孝太郎**・佐竹伸二・坂口有人

R20. 地学教育・地学史

R20-P-1
恐竜のしっぽを体験する．大島光春・**田口公則**

R20-P-2
博物館所蔵ボーリング標本を用いた学校向け貸し出し教材による地学教育支援：指導案の提案と研究授業の実施．**石井陽子**

R20-P-3
初等教員養成をめぐる最近の動向と学生の意識（2014）．**中井　均**・中井睦美・橋本みのり・寺田浩司

R21. 第四紀地質

R21-P-1
大阪湾堆積物コアの花粉分析により検出した最終間氷期の寒冷化イベント．**渋谷早苗**・北場育子・兵頭政幸・加藤茂弘・佐藤裕司

R21-P-2
能登半島志賀町に分布する海成段丘のローム層に発達する斑紋構造の形成時期．**濱田崇臣**・幡谷竜太

R21-P-3
北海道南部に分布する火山灰土壌の有する重金属吸着能の評価．**藤井雄大**・平岩良太・栗原正憲・香村一夫

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．
※**太字氏名：代表発表者．**　★印：ハイライト（本誌 p.（11）を参照）．　（招待）：招待講演．

■9月12日（土）　コアタイム 13：00 ～ 14：20　ポスター会場（体育館）

R21-P-4
東北地方に分布する火山灰土壌の有する重金属吸着特性に関して．**向山悠樹**・野口周平・栗原正憲・香村一夫
R21-P-5
千葉県九十九里平野北部～中部の沖積層下の埋没谷地形．**小松原純子**
R21-P-6
山地形成過程の把握に必要な後背地解析技術の研究–石英の放射線損傷を用いた手法–．**安江健**一・小松哲也・徳安佳代子・田村糸子・堀内泰治
R21-P-7
愛知県犬山扇状地扇頂部の地下地質．**牧野内　猛**・吉野真由・浅井康佑
R21-P-8
東京湾岸千葉県北西部沖積層中のラグ堆積物．**宮地良典**・小松原純子・風岡　修・吉田　剛・中島　礼
R21-P-9
和歌山平野における第四紀後期の花粉化石群集と古植生・古気候変遷．**山田英明**・此松昌彦・三田村宗樹
R21-P-10
過去約5万年間の琵琶湖古気候変遷史．**井内美郎**・山田和芳・里口保文・芳賀裕樹・林竜馬・岡村　眞・松岡裕美
R21-P-11
京都府北部久美浜湾における過去4500年間の相対的海面変動と古環境変遷．**山田　桂**・増馬鉄朗・瀬戸浩二・内田昌男・天野敦子・三瓶良和
R21-P-12
色を用いた第四紀日本海堆積物の明暗層分類とそれに基づく氷期–間氷期サイクルの認定．**関　有沙**・多田隆治・入野智久・烏田明典・Murray Richard W.・Alvarez Zarikian Carlos・Exp. 346 Scientists
R21-P-13
富山湾沿岸における津波履歴と波源としての呉羽山断層．**竹内　章**・矢野さおり・山口弘幸・宮本智史

会場：ホクト文化ホール（市民講演会会場）

R6. ジオパーク
（コアタイムなし　原則掲示のみ）

掲示可能時間帯　11：00～17：30
会場：ホクト文化ホール

R6-P-1
地質情報を活用した地域振興を目指して．**福田貴大**・松久祐子・福永智恵・北原遼太・杉野伊吹・遠藤史隆・山本啓介・今泉利架・柴田翔平・大友眞太郎・渡部将太・小関敏文・前田知行・澤畑優理恵・天野一男
R6-P-2
佐渡ジオパークにおけるガイド養成手法の変化と効果．**市橋弥生**
R6-P-3
ヒマラヤジオツアー、地学実習ツアーと野外実習合宿．**吉田　勝**・ウプレティ B. N.

OR. 日本地質学会アウトリーチセッション

掲示可能時間帯：11：00～17：30
コアタイム13：00～14：00，16：30～17：30
会場：ホクト文化ホール

OR-P-1
富山城石垣・高岡城石垣・金沢城石垣の帯磁率．**長　秋雄**
OR-P-2★
みんなで坂を調べよう：坂から見る大阪平野の成り立ち．**中条武司**・大阪市立自然史博物館「都市の自然」調査グループ平野の坂班
OR-P-3★
役に立つ「揺れやすさマップ」を作り地震に備える．**小坂共栄**・塩野敏昭・津金達郎・信州大学震動調査グループ
OR-P-4
2015年ネパール地震．**吉田　勝**・B.N.ウプレティ

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．
※太字氏名：代表発表者．　★印：ハイライト（本誌 p.（11）を参照）．　（招待）：招待講演．

■9月13日（日）　コアタイム 13：00 ～ 14：20　ポスター会場（体育館）

S3. 法地質学の進歩

S3-P-1
房総半島北部の更新統中・上部が分布する下総台地の谷津田でのPCEによる地質汚染事例と汚染メカニズム．**風岡　修**・酒井　豊・南條剛文・楠田　隆・楡井　久
S3-P-2
法科学的検査のための田圃における土壌の不均質性について（予報）．眞邉健人・杉田律子・吉川ひとみ・板宮裕実・**北村有迅**
S3-P-3
SEM-EDS自動粒子解析による石英砂の識別．Hiscock Matthew・Lang Christian・**三井千珠**・Morgan Ruth
S3-P-4
岩石磁気学的方法を用いた海水中に存在する浮遊物質の起源の同定．**川村紀子**
S3-P-5
Overview of IUGS-IFG and GIN．**Sugita Ritsuko**・Donnelly Laurance

T5.「泥火山」の新しい研究展開に向けて

T5-P-1
種子島沖泥火山群の高解像度地形とその特徴．**町山栄章**・北田数也・山本富士夫・飯島耕一・正木裕香・浦本豪一郎・井尻暁・稲垣史生・森田澄人
T5-P-2
四万十付加体中の粒子の溶解を伴う新しい流体移動．**岳　孝太郎**・坂口有人
T5-P-3
礫ファブリックからみた含礫泥岩メランジュの形成様式．**潮崎翔一**・宮田雄一郎
T5-P-4
凍結乾燥法・樹脂包埋法を用いた含水未固結堆積物の微細組織観察．**藏永　萌**・川村喜一郎

R2. 岩石・鉱物・鉱床学一般

R2-P-1
大江山オフィオライトのジルコンU-Pb年齢と起原．**木村光佑**・早坂康隆
R2-P-2
紀伊半島南部串本の苗我島に認められる天然ガスクラスレート鉱物の痕跡，メラノフロジャイト後の石英について．**石橋隆**・長瀬敏郎・門馬綱一・下林典正・福井清子・小原正顕
R2-P-3
含水鉱物のK-Ar系閉止温度．**兵藤博信**
R2-P-4
氷上花崗岩再訪．**鈴木和博**・柴田　賢・浅原良浩・アブドゥルザーラ イマド カディム
R2-P-5
砒素及びセレンの溶出濃度の粒度依存性について．**菅原　雄**・品川俊介・阿南修司・伊藤剛士
R2-P-6
IODP Exp.336大西洋中央海嶺North Pond掘削から採取されたかんらん岩の微細構造解析．**針金由美子**・阿部なつ江・道林克禎・木村純一・常　青

R4. 変成岩とテクトニクス

R4-P-1
ポロシリオフィオライトの変成ステージと鉱物化学組成．**田中真二**・宮下純夫
R4-P-2
Multi-stage alteration processes of ultramafic rocks from the Hantaishir ophiolite, western Mongolia．**Dandar Otgonbayar**・Uno Masaoki・Okamoto Atsushi・Tsuchiya Noriyoshi
R4-P-3★
アンチゴライト形成反応と酸化還元状態の変化．**曽田祐介**・横山寛紀・水上知行・森下知晃
R4-P-4
丹沢深成岩体に接する変成マフィック岩の変形微細構造．**水野那希**・道林克禎
R4-P-5
超高圧変成岩の微細構造解析：ギリシャ，Rhodope高圧変成帯．**武井　諒**・増田俊明
R4-P-6
関東山地東部における御荷鉾帯と秩父帯の関係．**川島庸亮**・高木秀雄
R4-P-7
跡倉ナップとみかぶスラストについての考察．**小野　晃**
R4-P-8
A new occurrence of eclogite in the Omi-area, Itoigawa-city, Niigata prefecture: P-T condition and tectonic implications．**Yoshida Takumi**・Satish-Kumar Madhusoodhan
R4-P-9
紀伊半島北西部御荷鉾帯毛原層の塩基性変成岩中のアルカリ角閃石を含む鉱物組み合わせとその意義．**加藤亮吏**・平島崇男
R4-P-10
西彼杵変成岩における蛇紋岩中の流体の作用．**西　右京**・西山忠男・森　康・重野未来
R4-P-11
北部九州東部に分布する田川変成岩類の変成作用と変成時期．**柚原雅樹**・清浦海里・日髙万莉亜・早坂康隆
R4-P-12
東南極セール・ロンダーネ山地における角閃岩相変成作用．**外田智千**・堀江憲路・小山内康人・中野伸彦・足立達朗・豊島剛志・馬場壮太郎
R4-P-13
東南極セール・ロンダーネ山地北部，ブラットニーパネに産する苦鉄質グラニュライトの減圧変成組織．**馬場壮太郎**・上里萌子・外田智千・足立達朗・小山内康人・中野伸彦・豊島剛志
R4-P-14
東南極セール・ロンダーネ山地，ブラットニーパネ地域に産するフォルステライト–スピネル岩の変成P-T-t経路．**石川真帆**・志村俊昭・大和田正明・亀井淳志・東田和弘・柚原雅樹
R4-P-15
東南極セール・ロンダーネ山地ブラットニーパネで見られるザクロ石–角閃石脈の形成と物質移動．**東野文子**・河上哲生・土屋範芳・サティシュ クマール・石川正弘・グランサム ジェフ
R4-P-16
ボヘミア山塊南部モルダニューブ帯に産する泥質片麻岩とHP-グラニュライトの進化過程．**小林記之**・平島崇男・廣井美邦・スフォイッカ マルチン・ハーレー サイモン
R4-P-17
インド南西部太古代後期ダールワール岩体西部，チトラドゥルガ片岩帯の大構造．**豊島剛志**・Satish-Kumar Madhusoodhan・外田智千・三島　郁・片岡香子・亀井淳志
R4-P-18
地質年代学から捉えるインドWestern Dharwar Craton南部境界におけるテクトニクス進化．**宮成　晃**・日高　洋・Das Kaushik・Bose Snakar
R4-P-19★
日高変成帯南部における熱輸送機構の解明．**坂田龍玄**・小澤一仁
R4-P-20
領家帯木曽地域泥質変成岩中のモナザイトとアラナイト．**猪川千晶**・外田智千・堀江憲路・本吉洋一
R4-P-21
福岡県西部，浮嶽周辺に産する白亜紀変成貫入岩類のマグマ過程．**浦島遼平**・大和田正明
R4-P-22
福岡県飯塚地域に産する低圧型変成岩類の変成過程．**深見潤**・大和田正明・兵土大輔
R4-P-23
肥後変成岩における泥質片麻岩中のザクロ石の二重累帯構造．**石丸元気**・西山忠男
R4-P-24★
石墨化実験のアレーニウス則に基づく地質学的外挿．**中村佳博**・芳野　極・Satish-Kumar Madhusoodhan
R4-P-25
広域変成岩に適用可能な流体包有物圧力計の開発～鉱物の塑性変形による包有物密度再平衡過程．**吉田健太**

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．
※**太字氏名：代表発表者．**　★印：ハイライト（本誌 p.（11）を参照）．　（招待）：招待講演．

日本地質学会第122年学術大会（2015長野大会）講演プログラム（ポスター）

■9月13日（日）　コアタイム 13：00 ～ 14：20　ポスター会場（体育館）

R6. ジオパーク

R6-P-1
地質情報を活用した地域振興を目指して．福田貴大・**松久祐子**・福永智恵・北原遼太・杉野伊吹・遠藤史隆・山本啓介・今泉利架・柴田翔平・大友眞太郎・渡部将太・小関敏文・前田知行・澤畑優理恵・天野一男

R6-P-2
佐渡ジオパークにおけるガイド養成手法の変化と効果．**市橋弥生**

R6-P-3
ヒマラヤジオツアー，地学実習ツアーと野外実習合宿．**吉田勝**・ウプレティ B. N.

R7. 海洋地質

R7-P-1
IODP Exp. 337下北沖石炭層生命圏掘削で採取された深部掘削コアの全元素分析と堆積環境．**村山雅史**・松崎琢也・東丸直頌・井尻　暁・谷川　亘・山田泰広・久保雄介・稲垣史生・森田澄人・HINRICHS Kai-Uwe・IODP Expedition 337 Science Party

R7-P-2
反射法地震探査記録から見た鹿児島県喜界島周辺海域の地質構造．**井上卓彦**・佐藤智之・古山精史朗

R7-P-3
母島海山における反射法地震探査断面．**三浦　亮**

R7-P-4
伊豆小笠原弧スミスカルデラ周辺の地形地質的特徴．**松下小春**・坂本　泉・上原太樹・八木雅俊・井上智仁

R13. 沈み込み帯・陸上付加体

R13-P-1
IODP Expedition 344 コスタリカ沖堆積物物性と間隙水圧．**佐伯綾香**・橋本善孝

R13-P-2
プレート沈み込み帯に持ち込まれる生物起源堆積物の摩擦特性．**並木由香**・堤　昭人

R13-P-3★
遠洋性堆積岩における断層帯構造：犬山地域ジュラ紀付加体チャート–砕屑岩シーケンスにおけるスラストの例．**木下貴裕**・田畑皓輝・氏家恒太郎

R13-P-4
秋吉帯“芳井層群”中のチャート角礫岩の産状と形成プロセス．**渡邉亮太**・脇田浩二

R13-P-5
ビトリナイト反射率による宮崎層群の熱構造．**古田行平**・坂口有人

R13-P-6
IODP 第348次航海で得られたカッティングス中の炭質物 ビトリナイト反射率分析からみた南海付加体の古地温構造．**福地里菜**・山口飛鳥・山本由弦・芦　寿一郎

R13-P-7
延岡衝上断層ボーリングコア中の断層帯の化学組成分布について（予報）．**長谷川亮太**・福地里菜・山口飛鳥・北村有迅

R13-P-8
和歌山県に分布する四万十帯のメランジュ形成から褶曲作用．**竹末勘人**・鈴木茂之

R13-P-9
付加体における変形構造と脈の関係；四万十帯白亜系美山層の例．**常盤哲也**・影山典史・吉田英一

R13-P-10
三波川沈み込み帯浅部マントルウェッジ中のブルース石の重要性を示す岩石学的・野外地質学的証拠．**河原弘和**・遠藤俊祐・Wallis Simon・永冶方敬・森　宏・山本鋼志・淺原良浩

R13-P-11
日本近海における中生代海洋性島弧－背弧系復元の試み．**植田勇人**・折橋裕二

R23. 原子力と地質科学

R23-P-1
名古屋大学キャンパス各所の放射線量を大学初年次教育に用いる．**田中　剛**・椋本ひかり・冨山慎二・加藤ともみ・坂田　健

R23-P-2
愛知県の中央構造線沿いに産する「食い違い礫」の自己修復作用とその応用．**五ノ井祐二**・吉田英一

R23-P-3
土岐花崗岩体地下-500mでの小断層に伴う変質過程と元素移動．**松本孟紘**・石橋正祐紀・吉田英一

R23-P-4
フィリピン国・ザンバレスオフィオライトのアルカリ地下水との相互作用によるベントナイトの地球化学的・鉱物学的変遷プロセス．**山川　稔**・藤井直樹・西村政展・佐藤　努・大友一夫

R23-P-5
地層処分のサイト選定における水理学的コンパートメント構造とその意義について．**竹内真司**・貴島望文・土橋沙紀・加藤ありさ

OR. アウトリーチ

（コアタイムなし　原則掲示のみ）

OR-P-1
富山城石垣・高岡城石垣・金沢城石垣の帯磁率．**長　秋雄**

OR-P-2★
みんなで坂を調べよう：坂から見る大阪平野の成り立ち．**中条武司**・大阪市立自然史博物館「都市の自然」調査グループ平野の坂班

OR-P-3★
役に立つ「揺れやすさマップ」を作り地震に備える．**小坂共栄**・塩野敏昭・津金達郎・信州大学震動調査グループ

OR-P-4
2015年ネパール地震．**吉田　勝**・B.N.ウプレティ

※講演番号は，シンポジウム（S），トピックセッション（T），レギュラーセッション（R）のそれぞれに，ポスター（P）/口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています．
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします．
※太字氏名：代表発表者．　★印：ハイライト（本誌 p.（11）を参照）．　（招待）：招待講演．

関 連 行 事

地質情報展 2015 ながの「知っていますか信濃の大地」

日程：9 月 11 日（金）～ 13 日（日）
11 日（金）9:30 ～ 17:00
12 日（土）9:30 ～ 17:00
13 日（日）9:30 ～ 16:00
会場：長野市生涯学習センター（TOiGO WEST 4F）［入場無料］
主催：産業技術総合研究所地質調査総合センター・一般社団法人日本地質学会
共催：南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク協議会，苗場山麓ジオパーク振興協議会
後援：長野県，長野県教育委員会，長野市，長野市教育委員会，NHK 長野放送局，信濃毎日新聞，（公財）ながの観光コンベンションビューロー，全国地質調査業協会連合会，日本ジオパークネットワーク
展示協力：戸隠地質化石博物館，野尻湖ナウマンゾウ博物館，大鹿村中央構造線博物館，信州新町化石博物館

内容：長野県および周辺地域の地質をはじめとして，最新の地質学の成果や地震・津波・地盤災害の起こるしくみをわかりやすく体験的に”展示・解説”します．小学校入学前のお子様から大人まで，皆さんに楽しみながら「地質」を学んでいただけるイベントです．また，さまざまな”体験学習コーナー”を用意しており，実験や実演を通じて地質学をわかりやすく学ぶことができます．
展示テーマ（予定）：長野県の地質紹介，地震・津波，長野県の火山，地中熱の利用，地質の利用，長野県の地質系博物館・県の研究所展示，ジオパーク（日本ジオパーク / 苗場山麓ジオパーク / 南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク）など
体験コーナー（予定）：「化石のレプリカ作り」・「石割り体験」・「岩石破壊実験」・「ペットボトルで地盤の液状化実験」・「焼岳見たまま砂絵で地質図」・「グラブ採泥器を使ってマンガン団塊を採ろう！」・「地学クイズに挑戦」など
地質学会コーナー：第 6 回惑星地球フォトコンテスト入選作品展示

問い合せ先：
産業技術総合研究所地質調査総合センター
地質情報展企画運営事務局
TEL：029-861-3540
e-mail：johoten2015jimu-ml@aist.go.jp

※地質情報展は，平成 27 年科学研究費補助金研究成果公開促進費補助事業です．

市民講演会「信州の自然とともに生きる ー地震と火山の防災地学—」

日時：2015 年 9 月 12 日（土）14：00 ～ 16：30
※開場は 13：00 より
【入場無料・事前申込不要】
会場：ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）小ホール（長野県長野市若里 1 - 1 - 3）
講師：三宅康幸（信州大学理学部教授）
塚原弘昭（信州大学名誉教授）
概要：長野県では昨年 2014 年には多くの災害に見舞われました．7 月 9 日の南木曽土石流，9 月 27 日の御嶽山の水蒸気爆発，そして 11 月 22 日の長野県神城断層地震．このような状況で，あらためて私たちの住む長野県の成り立ちと地質学的特徴を理解し，より安全な市民生活を送る一助となることを願って，長年信州大学でそれぞれ活火山と地震の研究に携わってこられたお二人を講師に，次のような講演を企画いたしました．

信州の火山を知ろう（三宅康幸）
まず長野県内の諸火山群の分布を紹介し，それらのなかで特徴的な活火山である，浅間山，焼岳，御嶽山の活動史とその噴火活動や地形発達などについて，現地調査の様子なども交えながら詳しく解説していきます．

糸静構造線活断層地震が起きたとき，長野盆地・松本盆地の震災は（塚原弘昭）
長野県内の 5 大活断層帯とそれらの大地震発生確率を紹介し，さらに糸静活断層で発生する大地震による震災の予測を示す．また糸静活断層による大地震が予知困難な理由を示したうえで，減災のために住民がめざす地域とはどのようなものか考えていきます．

防災・減災の面からの提案をもとに，市民のみなさんにも参加していただいて議論を深めていく予定です．
詳しくは，http://www.geosociety.jp/nagano/content0001.html

・本講演会は，平成 27 年科学研究費補助金研究成果公開促進費補助事業です．

小さな Earth Scientist のつどい ～第 13 回小，中，高校生徒「地学研究」発表会～

日本地質学会地学教育委員会では，年会の開催に合わせて，地学教育の普及と振興を図ることを目的に，学校等における地学研究を紹介する「地学研究」発表会をおこなっています．長野大会でも，小・中・高等学校の地学クラブの活動，および授業の中で児童・生徒が行った研究，学校外の研究会において児童・生徒が中心に行った研究などが発表されます．長野県内，また中部地方，さらには全国の児童・生徒の来場をお待ちしています．会場は研究者も発表するポスター会場内に，特設コーナーを用意いたします．同時並行で研究者の発表も行われますので，児童・生徒同士のみならず，研究者との交流もできます．この会を通じて生徒，研究者，市民の交流が進み，地質学，地球科学への理解が深まって，未来を担う小さな地球科学者たちの学習意欲への良い刺激と励みになることを願っております．

日時：2015 年 9 月 13 日（日）9 ：00 ～ 15：30
場所：長野大会ポスター会場（信州大学（工学）キャンパス内体育館）

参加予定校（7 月 30 日現在，13 校・1 団体参加，18 件）
・長野県松本深志高等学校地学会
・長野県長野西高等学校

・岐阜県立加茂高等学校（２件）
・山梨県立日川高等学校物理・地学部（２件）
・新潟大学理学部未来の科学者養成講座（２件）
・群馬県立太田女子高校地学部
・千葉県立柏高等学校課題研究Ⅱ受講者
・東京学芸大学附属高等学校
・早稲田大学高等学院理科部地学班
・学校法人奈良学園奈良学園高等学校 SS 研究チーム
・滋賀県立彦根東高等学校 SS 部地学班
・兵庫県立西脇高等学校地学部（２件）
・兵庫県立加古川東高等学校地学部
・鹿児島玉龍高等学校サイエンス部天文班

問い合わせ先：
日本地質学会地学教育委員会（担当　三次）
〒101-0032　東京都千代田区岩本町２- ８-15 井桁ビル６F
TEL：03-5823-1150　FAX：03-5823-1156
e-mail：main@geosociety.jp

若手会員のための業界研究サポート

本年も，表記「若手会員のための業界研究サポート」を開催することになりました．本行事は，地質企業に興味のある学生・大学院生および指導にあたっている教員の方々を対象とし，地質企業の現状や求める人材について語り合う交流会を目的としています．

東日本大震災から４年，国土強靱化の施策のもとに“防災・減災に対するハード・ソフト対策”と“戦後から高度成長期にかけて建設されたインフラの維持管理・更新”が重要なキーワードとなっております．この社会的要請に対して地質技術者が不足しており，その人材確保に企業の皆様も苦労されていると思います．また，今後の日本のエネルギー政策として“地熱”・“地下資源”の開発が改めて注目を集めています．実際に企業で活躍されている地質技術者と語り合い，大学で学んだ地質学が企業でどのように生かされているのか，学生・大学院生および教員の方々が，企業の生の声を聴くことができるような場を提供したいと考えています．

日程　2015 年 9 月 12 日（土）14：00 ～ 17：00（＊時間帯は若干変更になる場合があります）
場所　信州大学長野（工学）キャンパス　工学部講義棟２階 203
主催　一般社団法人日本地質学会
内容　主催者等　挨拶・紹介，参加各社の個別説明会（今回は，例年以上に多くの企業にご参加頂けることになりました．そのため会場の都合上，実施内容を一部変更いたします．各社によるプレゼンテーションはありません）．
対象　長野大会に参加する学生・院生および大学教員等の会員．信州大学等の学生・院生および教員等

出展予定企業（敬称略．８月 10 日現在）
・川崎地質株式会社
・石油資源開発株式会社
・株式会社建設技術研究所
・中央開発株式会社
・株式会社日さく長野営業所
・日鉄鉱業株式会社
・日本綜合建設株式会社
・三井石油開発株式会社
・応用地質株式会社
・株式会社地圏総合コンサルタント
・株式会社サクセン
・有限会社アルプス調査所

問い合わせ先：
日本地質学会　担当理事　緒方信一 / 事務局　堀内昭子
電話：03-5823-1150　FAX：03-5823-1156
e-mail：main@geosociety.jp

特別講演会「地質地盤情報の利活用と法整備」

期日：2015 年 9 月 13 日（日）14：30 ～ 17：00
会場：信州大学工学部講義棟 300
主催：一般社団法人日本地質学会

【開催趣旨】

日本学術会議は，平成 25 年 1 月 31 日，提言「地質地盤情報の共有化に向けて－安全・安心な社会構築のための地質地盤情報に関する法整備－」を公開しました．提言の骨子は，①地質地盤情報に関する包括的な法律の制定，②地質地盤情報の整備・公開と共有化の仕組みの構築，③社会的な課題解決のための地質地盤情報の活用の促進と国民の理解向上，の 3 項目です．

この提言に示されるように，日本の国土を構成している地質・地盤の状況を把握し，その情報を社会の安全に役立てることが必要です．そこで平成 25 年 4 月，地質・地盤に関する学協会・業界・研究機関等が中心になって，「地質・地盤情報活用促進に関する法整備推進協議会」が設立されました．日本地質学会も本協議会に加入しています．

講演会では，本協議会の活動を紹介し，地質地盤情報の整備・利用の現状，学術研究の進展，法整備の必要性，および日本地質学会の現状について報告します．総合討論では，今後の活動の進め方について議論します．

【プログラム】
司会：松浦一樹（(株) ダイヤコンサルタント）・佐脇貴幸（産業技術総合研究所）
１．開催趣旨と法整備推進協議会の活動
　栗本史雄（地質・地盤情報活用促進に関する法整備推進協議会，産業技術総合研究所）
２．地質地盤情報を用いた学術研究とその整備に対する提言
　増田富士雄（同志社大学理工学部）
３．地質地盤情報の整理と工学的地盤モデル
　山本浩司（(一財) 地域地盤環境研究所）
４．地質地盤情報の利用とビジネスモデル
　丸山昌則（基礎地盤コンサルタンツ（株））
５．二次利用を促進するための法整備
　平野　勇（地質・地盤情報活用促進に関する法整備推進協議会，応用地質（株））
６．日本地質学会と地質地盤情報の整備・活用
　小嶋　智（岐阜大学工学部）
７．総合討論

問い合わせ先：
栗本史雄 <kurimoto-chikao@aist.go.jp>

知っていますか 信濃の大地

地質情報展 2015 ながの

2015年 9/11(金)・12(土)・13(日)

時間 9:30～17:00（13日は、16:00終了） 入場無料

会場 長野市生涯学習センター（TOiGO WEST 4F）
長野市大字鶴賀問御所町 1271-3

長野県および周辺地域の地質をはじめとして、最新の地質学の成果や地震・火山・地盤災害の起こるしくみをわかりやすく体験的に“展示・解説”します。小学校入学前のお子様から大人まで、皆さんに楽しみながら「地質」を学んでいただけるイベントです。

また、さまざまな“体験学習コーナー”を用意しており、実験や実演を通じて地質学をわかりやすく学ぶことができます。

ぜひ、「地質情報展 2015 ながの」にご来場ください。

市民講演会（主催:日本地質学会）

**「信州の自然とともに生きる
－地震と火山の防災地学－」**

日時:2015年9月12日(土)
14:30～16:00

会場:ホクト文化ホール(長野県県民文化会館)

「信州の火山を知ろう」
三宅康幸(信州大学理学部教授)

「糸静構造線活断層地震が起きたとき、
長野盆地・松本盆地の震災は」
塚原弘昭(信州大学理学部名誉教授)

連絡先:日本地質学会事務局
03-5823-1150

主　催：国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター
一般社団法人 日本地質学会

共　催：南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク協議会、苗場山麓ジオパーク振興協議会

後　援：長野県、長野県教育委員会、長野市、長野市教育委員会、NHK長野放送局、信濃毎日新聞社、(公財)ながの観光コンベンションビューロー、全国地質調査業協会連合会、日本ジオパークネットワーク

展示協力：戸隠地質化石博物館、信州新町化石博物館、野尻湖ナウマンゾウ博物館、大鹿村中央構造線博物館

【 問い合わせ 】
国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター 地質情報展開催事務局
Email: johoten2015jimu-ml@aist.go.jp / TEL: 029-861-3540
URL: https://www.gsj.jp/event/2015fy-event/nagano2015/

「地質情報展 2015 ながの 知っていますか信濃の大地」は、平成 27 年度科学研究費補助金研究成果公開促進費補助事業です。

日本地質学会*News*

Vol.18 No.8 August 2015

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル ６F
編集委員長　小宮　剛
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

日本地質学会第122年学術大会（長野大会）プログラム ……00

案内 ……2
2015年度日本地球化学会第62回年会

公募 ……2
新潟大学教育研究院自然科学系教員公募/弘前大学大学院理工学研究科　（理工学部地球環境学科併任）教員公募/東京大学大気海洋研究所共同利用公募/北海道立総合研究機構地質研究所職員採用試験

各賞・研究助成 ……3
アジア恐竜協会若手研究者支援プロジェクト（渡航費・滞在費の補助）/平成28年度笹川科学研究助成

紹介 ……4
石ころ博士入門　高橋直樹,大木淳一著（矢島道子）

学協会・研究会報告 ……5
American Association of Petroleum Geologists Annual Convention & Exhibition 2015参加報告（山本和幸ほか）

TOPIC ……7
新生代の紀の名称について，そろそろ決着を（石渡　明）

2015年度秋季地質調査研修参加者募集のお知らせ ……7

支部コーナー ……8
関東支部：「富士山巡検」のお知らせミニ・ショートコース/『地すべり試験ラボ見学』のご案内（第１報）/箱根ミニ巡検報告

院生コーナー ……10
兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科（郡山鈴夏）

追悼 ……12
名誉会員　猪木幸男さんを偲ぶ（山田直利）

CALENDAR ……13

巻末　入会申込書

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都文京区湯島３－20－12

表紙紹介

長野市，上田市境の地蔵峠から北方，長野盆地を望む

写真：**竹下欣宏**（信州大学）
文：**保柳康一**（信州大学）

長野市街地の背後に長野盆地西縁断層の作る地形，新第三系堆積岩からなる水内丘陵（西山），第四紀火山岩類からなる飯綱山（正面），黒姫山・妙高火山（画面右），新第三系火山岩・堆積岩からなる戸隠連峰（画面左）を見ることが出来る．

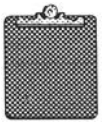
事務局営業カレンダー　お休み

8月 August

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24/31	25	26	27	28	29

9月 September

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		



ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

2015年度日本地球化学会第62回年会

主催：日本地球化学会
共催：日本地質学会ほか
会期：2015年９月16日（水）～18日（金）
会場：横浜国立大学常盤台キャンパス（教育人間科学部講義棟および教育文化ホール）

［内容］口頭発表およびポスター発表，夜間小集会，学会賞記念講演，総会，懇親会など．関連イベントとして，９月15日（火）にショートコース，９月19日（土）に市民講演会を開催します．
［講演セッション］特別セッション，学会基盤セッション（17件）が行われます．セッションの概要については，年会サイトをご覧ください．
［プログラムの公表］プログラムは８月上旬に年会サイト上に公開されます．年会前の要旨集の配送は行いませんので，プログラムの確認は年会サイトで行ってください．８月末頃に配布される地球化学会ニュースにもプログラムを掲載します．なお，講演要旨は８月末頃にJ-STAGE上で公開されます．

［参加登録費（講演要旨集１部を含む）］
事前参加登録：一般会員5,000円，学生会員2,000円，会員外（一般）6,000円，会員外（学生）3,000円
当日参加登録：一般会員7,000円，学生会員3,000円，会員外（一般）8,000円，会員外（学生）4,000円
＊なお，会員は日本地球化学会及び共催学会の会員を指します．当日受付で入会申込された方も会員扱とします．
＊学部生は無料です（但し，講演要旨集なし）．

［懇親会］９月17日（木）学会賞等受賞講演終了後，キャンパス内の第一食堂で開催いたします．会費は事前参加予約が5,000円（学生2,500円），当日参加申し込みは7,000円（学生4,000円）となります．

［年会事務局］
〒240-8501　横浜市保土ヶ谷区常盤台79-２
横浜国立大学教育人間科学部内
2015年度日本地球化学年会事務局
E-mail：2015@geochem.jp

年会サイト：http://www.geochem.jp/conf/2015/

公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

新潟大学教育研究院自然科学系教員公募

所属：新潟大学教育研究院自然科学系　環境科学系列
担当学部・研究科：理学部地質科学科
大学院自然科学研究科：環境科学専攻地球科学コース
担当予定科目：
学部：野外調査を基本とする実習科目，岩石学・鉱物学・構造地質学・堆積学・古生物学に関する何れかの専門科目，地学に関する基礎科目
大学院：フィールド地質学に関わる地質科学分野の専門科目　など
職種・人員：准教授１名
採用予定日：平成28年４月１日以降のなるべく早い時期
給与：国立大学法人新潟大学職員給与規程による

職務内容・条件：
（1）理学部地質科学科及び大学院自然科学研究科環境科学専攻地球科学コースの教育目標と教育内容を理解し，野外調査を基本とする地質科学の教育及び研究に情熱を持って取り組むこと．（2）野外実習を含む地質科学の基礎科目の教育を行うこと．（3）日本技術者教育認定機構（JABEE）に認定されている教育プログラムに参画すること．（4）地質科学分野の教員と協力して学科,学部等の運営に参画すること．（5）新潟大学自然科学系附置コア・ステーション「地球環境・地球物質研究センター」の活動に参画すること．

応募資格：
（1）博士の学位を有すること．（2）上記職務内容に関して優れた教育研究業績を有し，地質科学分野の教員と協力して教育研究を担える能力と熱意があること．
応募の締切：平成27年９月30日（水）必着

問合せ先：
〒950-2181　新潟市西区五十嵐２の町8050番地
新潟大学理学部地質科学科
教授　高澤　栄一
電話　025-262-6114（直通）
E-mail：takazawa@geo.sc.niigata-u.ac.jp

応募書類，選考方法など詳しくは，
http://www.gs.niigata-u.ac.jp/~scitech/gakugai/koubo.html

弘前大学大学院理工学研究科（理工学部地球環境学科併任）教員公募

１．公募人員 教授１名
２．所属　弘前大学大学院理工学研究科（理工学部地球環境学科併任）
３．専門分野　広い意味での地質学
４．担当科目
理工学部科目：地球環境学概論，資源地質学，地質学，地質調査法実習，ほか地質学に関する実験・実習
大学院理工学研究科科目：大学院の科目
教養科目：基礎教育科目，基礎ゼミナール等
５．応募資格（1）博士の学位を有する方
６．着任時期（予定）平成28年１月１日以降のできるだけ早い時期
７．選考方法　（1）書類選考　（2）候補者に対する面接
８．提出書類　（1）履歴書（写真添付）（2）研究業績リストおよび教育業績リスト（3）これまでの競争的資金の獲得状況（4）主要論文の別刷りまたはコピー（５編）（5）これまでの研究業績概要（2000字以内）（6）研究および教育に関する抱負（各1000字以内）　（7）応募者への照会可能者２名の氏名と連絡先
９．提出先
〒036-8561　青森県弘前市文京町３
弘前大学大学院理工学研究科教授（地球環境学科併任）選考委員会 委員長 柴　正敏
封筒の表に「専任教員（教授）応募書類」と朱書きの上，書留でお送りください．応募書類は返却しません．
10．応募期限　平成27年10月２日（金）消印有効
11．問合せ先
弘前大学大学院理工学研究科（地球環境学科）柴　正敏
TEL：0172-39-3617
E-mail：shibamas@hirosaki-u.ac.jp
http://www.hirosaki-u.ac.jp/wordpress2014/wp-content/uploads/2015/07/14.pdf

東京大学大気海洋研究所共同利用公募

白鳳丸は，遠洋，近海を含め比較的長期の研究航海を行う研究船です．研究計画は３年ごとに公募により策定され，さらにその研究計画に基づいた単年度の公募があります．

新青丸は，2012年度で退役した淡青丸の後継船として建造された，東北海洋生態系調査研究船（学術研究船）です，公募は主として日本近海の調査研究を対象に毎年行われま

す.

・**平成28年度学術研究船白鳳丸共同利用公募（計画航海参加型）**
・**平成28年度学術研究船白鳳丸共同利用公募（新規航海提案型）**
・**平成28年度東北海洋生態系調査研究船（学術研究船）新青丸の共同利用公募**

申し込み期限：平成27年９月25日（金）（厳守）

申し込み先：東京大学大気海洋研究所　事務部　国際・研究推進チーム
〒277-8564　千葉県柏市柏の葉５-１-５
TEL：04-7136-6009，6010
FAX：04-7136-6039
e-mail：iarp［at］aori.u-tokyo.ac.jp

詳しくは，http://www.aori.u-tokyo.ac.jp/coop/index.html

北海道立総合研究機構地質研究所職員採用試験

地方独立行政法人北海道立総合研究機構（道総研）では，平成28年度採用の研究職員採用試験を下記要領で実施します．地質研究所では，地質災害の研究員を１名の枠で公募しております．募集要項の案内は道総研WEBサイトに掲載されております．

１．採用試験について（地質研究所分のみ）
(1) 採用予定数：１名（地すべり・斜面崩壊等の地質災害の防止及び被害軽減に関する調査研究）
(2) 受付期間：**平成27年９月11日（金）まで［郵送の場合は消印有効］**
(3) 第１次試験：平成27年10月11日（日）（教養試験，専門試験）
(4) 第２次試験：平成27年11月中旬（面接，適正検査）
(5) 試験地：札幌市

試験区分：地質
求める人材：地球科学及び土質工学の基礎知識，土砂災害・地質災害科学の専門知識
受験資格：昭和56年４月２日以降に生まれた者で修士課程修了者と同等の能力を有すると認められる者

お問い合わせ先：
地方独立行政法人北海道立総合研究機構本部経営企画部経営企画グループ
電話 011-747-0055

採用募集要項等詳しくは，下記のサイトから該当のファイルをダウンロードしてください．
<https://www.hro.or.jp/hro/recruit/recruit/>

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内いたします．

アジア恐竜協会若手研究者支援プロジェクト（渡航費・滞在費の補助）

趣旨・目的
アジアの恐竜研究の将来を担う若手研究者を育成することを目的とし，恐竜をはじめとする古生物とそれらを取り巻く環境の研究を行う若手研究者が，2015年11月19日からタイ・バンコクで開催される第２回アジア恐竜国際シンポジウム（The 2nd International Symposium on Asian Dinosaurs in Thailand 2015）（以下，「ISAD2015」という．）で，自己の成果を発表する場合の渡航費・滞在費を補助します．

申請者資格
（ア）大学，大学院，またはそれに相当する高等教育機関あるいは研究機関に在籍する学生および研究生で，定額給与ないし報酬を受けていない者．（イ）年齢は問いません．（ウ）国籍は問いません．（エ）ISAD2015で，口頭発表あるいはポスター発表を申し込み，受け付けられた者．（オ）本申請以外に，他の学会や支援団体，在籍大学等から，ISAD2015へ参加するための奨学金や助成金などの補助や資金援助を受けていない者．

申請
（ア）申請者が，申請書（様式１）を作成，署名のうえ，アジア恐竜協会事務局に提出してください．（イ）指導教官等の推薦書がある場合は，申請書とともに提出してください．（ウ）**申請の締め切りを，2015年９月30日とします（当日消印有効）．**

支援
（ア）支援予定人数　10名程度
（イ）支援の内容　①１名あたり10万円を上限として支給します．②金額は，申請書に基づいて算出します．③支援金は，ISAD2015の会場にて，参加受付時に支給します．④支援金は，ISAD2015開催直前の為替レートに基づいて，タイバーツで支給します．⑤ISAD2015に参加されなかった場合は，支援金は支給できません．⑥支援金の前払い，ISAD2015終了後の支払いはできません．

申請書類等の提出先及び本件照会先
アジア恐竜協会事務局 ISAD2015支援係
〒911-8601　福井県勝山市村岡町寺尾51-11
福井県立恐竜博物館　気付
電話：0779-88-0001　FAX：0779-88-8700
E-mail：ada@dinosaur.pref.fukui.jp

その他詳しい内容は下記URLをご参照ください．
http://www.dinosaur.pref.fukui.jp/ADA/ISAD2015/youkou.pdf

平成28年度笹川科学研究助成

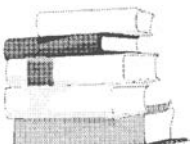
基本方針：本助成制度は，課題の設定が独創性・萌芽性をもつ研究，発想や着眼点が従来にない新規性をもつ若手の研究を支援します．

申請受付期間：
【学術研究部門】平成27年10月１日～10月15日
【実践研究部門】平成27年11月１日～11月16日

主な募集対象者：
【学術研究部門】
・大学院生（修士課程・博士課程）
・35歳未満の若手研究者
【実践研究部門】
・博物館，学校，NPOなどに所属している者

詳細は，本会ウェブサイトにてご確認願います．
http://www.jss.or.jp/ikusei/sasakawa/

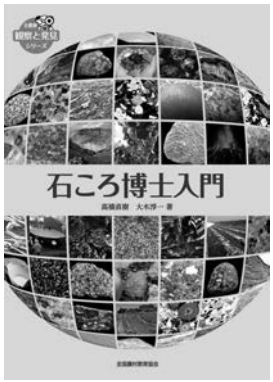
問い合わせ先：
公益財団法人日本科学協会　笹川科学研究助成係
TEL 03-6229-5365　FAX 03-6229-5369
http://www.jss.or.jp
E-mail：josei@jss.or.jp



紹　介

石ころ博士入門
（全農教・観察と発見シリーズ）

高橋直樹，大木淳一　著



全国農村教育協会，2015年５月９日発行，B５判，173頁，ISBN978-4881371817．定価2,700円（税別）

学校の先生が石ころ観察を指導したくないのは，子どもたちが石ころをひろってきて，「これは何」と質問されても答えられないからだという．最近，理科の教科書で，「玄武岩は黒，流紋岩は白っぽい色，安山岩はその中間」という記述は削除されつつある．専門家だって，コンクリートと礫岩を間違えるご時世である．学校現場では，石ころはますます嫌われそうである．

そんなとき，本書は石ころの大好きな研究者が，石ころの楽しさを十分語っている．石ころの写真も豊富である．岩石の写真ではなく，どこにでも転がっている石ころの写真である．よく集めたなと感心した．石ころの名前を絵合わせで当てるのは至難の業であり，本書の終章の「著者からメッセージ」でも「難しい」と書いてあるが，それでも，かなりの手掛かりは本書にある．

「石は，表面が泥や藻類などの植物で汚れていることが多いですが，水とたわしや歯ブラシできれいに洗ってやれば，美しい色や模様が現れます．しかも千差万別で，どれ一つとして同じものはありません．石は実は美しいのです．」著者は，きっと子どもの時からずっと石ころに魅せられたままなのであろう．

本書の目次は以下のようである．

序章　石はどこにあるの?
（街中で石材を見てみよう，川原や海岸で石ころを見つけよう）
第１章　石って何?
（石ころの正体とは?石ころ観察のコツ）
第２章　石の種類とでき方―石ころ図鑑
（石のでき方による分類，偏光顕微鏡による岩石の観察，おもな造岩鉱物，岩石の正式な分類・命名，岩石・鉱物・鉱石・宝石）
第３章　石ころの生い立ちを探る
（石の履歴書，日本列島はさまざまな石からできている，石ころのふるさとをたどる，露頭を見つけて観察しよう，石ころを持ち帰った後の作業）
終章　石ころ博士をめざして
（石ころ少年の未来の姿，観察テーマを持とう―博物館へ行こう！観察会に参加しよう！，ジオパークへ行こう！，著者からのメッセージ，参考になる本・調査道具の入手先など）
用語解説，索引

序章「石はどこにあるの?」では，ビビンバの器も石であることに気づかされ，小さいころの川遊びを思い出す．

第１章「石って何？」では千葉県立中央博物館ホールをもう１度見直してみようという気になったし，石筆は今でも使われているのに，びっくりしたりした．

第２章「石の種類とでき方―石ころ図鑑」本書の主要部である．火成岩，堆積岩，火山砕屑岩，変成岩など，ありとあらゆる石が登場する．断層岩，メランジュ，マイロナイト，カタクレーサイトなど，学術書に最近登場する石も出てくる．そして，なんといっても人工物まで出てくるのが，本書の面白いところである．

第３章「石ころの生い立ちを探る」では観察のしかたから研究の進め方まで書いてある．本書を手にした子どもたちの何人かは石ころ博士になるかもしれない．

終章「石ころ博士をめざして」は石ころ博士の紹介であり，ジオパークの説明もある．

物言わぬように見える石ころは，本当は多弁なのだ．石ころを美しい，面白いと思っていると石ころが壮大な物語を語ってくれるかもしれない．本書を道しるべにして．

（**矢島道子**）

American Association of Petroleum Geologists Annual Convention & Exhibition 2015参加報告

山本和幸・佐藤隆司・大野研也・小林博文（国際石油開発帝石株式会社）

2015年５月31日～６月３日に，米国コロラド州デンバーで開催された，American Association of Petroleum Geologists（AAPG；米国石油地質家協会）の年次総会・展示会に参加したので，その概要について報告する．

AAPG（米国石油地質家協会）について

AAPGは，石油・天然ガスなどのエネルギー資源に関連する地質学の発展や調査研究の促進，および探鉱・開発技術の向上などを目的に1917年に設立された協会である．本部は米国オクラホマ州タルサに置かれ，米国以外の海外６カ所にも拠点を有する．会員は世界129ヶ国，４万名（うち学生は約８千名）を超え，地質関連では世界最大規模の国際的な科学コミュニティである．会員の内訳は，地質や物理探査の技術者，大学・研究機関の研究者・学生，および石油産業の関係者が主体となっている．毎年開催される年次総会では，石油地質学の最新の研究動向や，探鉱・開発の技術・成果に関する講演が行われ，同時開催される展示会では，石油関連企業が集結してブースを出展し，最新技術のグローバルな動向を知ることができる．またAAPGは，年次総会の他にも特定の技術的な話題に特化したワークショップや，会員向けの教育プログラムとしてショートコースや地質巡検を世界各地で開催しているほか，石油地質学に関する最新の学術論文雑誌である“The AAPG Bulletin”を毎月発行し，一般的な地質学や石油地質学に関する専門書籍をこれまで多数刊行している．

コロラド州デンバー

年次総会が開催されたデンバーは，米国西部のコロラド州に位置し，成田からの直行便で約11時間，ロッキー山脈の麓に位置する都市である．コロラド州の州都で市域の人口は約65万人，夏でもロッキー山脈の高地に残った残雪を見通すことができる．デンバーは周辺地域の豊富な鉱物資源を背景に，ゴールドラッシュの時代から鉱山都市として発展してきた．デンバーのすぐ西隣に位置するゴールデンという町には，世界有数の鉱山大学であるコロラド鉱山大学（Colorado School of Mines）があり，金属鉱物や石油・天然ガスなどの資源について学ぶ学生が世界中から集まっている．デンバーの空港内には同大学の大きな垂れ幕が掲げられており（写真１），地域社会と資源開発の密接な関わりを感じた．

年次総会・展示会の概要

年次総会・展示会の会場となったのは，デンバーの中心部にあるコロラドコンベンションセンターである（写真２）．今年は６千名を超える参加者があり，口頭発表とポスター発表を合わせて900件近い発表が行われ，展示会では250を超える企業がブースを出展した．企業ブースでは各企業が新たなビジネスチャンスを求めて，自社の宣伝や最新技術の紹介を活発に行っていた．最近の油価下落による景気悪化の影響で，年次総会・展示会の参加者は例年よりも少なく，展示会の規模も小さかったようであるが，石油産業の世界的な規模の大きさとそれに関連する多くの人々の熱気を肌で感じることができた．

年次総会の講演内容は基礎研究分野から応用まで石油地質学の幅広いトピックスを網羅しており，１）非在来型資源（シェールガス，オイルサンドなど），２）探鉱開発技術・新技術，３）炭酸塩岩・蒸発岩，４）珪質堆積岩，５）構造地質，６）CO_2圧入・石油増進回収法・フラクチャリング，７）有機地球化学・ベースンモデリング，８）物理探査，９）その他，の９つのテーマに分かれ，それらは80を超えるセッションで構成されている．The Society for Sedimentary Geology（SEPM）の共催で開催されたセッションも多く見受けられ，年次総会の中でSEPMの研究シンポジウムも開催されていた．また，特別セッションとして学生のポスターセッションや，近年発見された油ガス田の探鉱活動を紹介する「Discovery thinking」のセッションもあり，アフリカ，ブラジル，レバノン，北米大陸などでの新規油ガス田の発見事例の紹介がなされた．

写真１．デンバー空港内に掲げられたコロラド鉱山大学の垂れ幕．

日本人の講演発表

日本人による講演として，報告者の佐藤，大野，小林の３名がそれぞれポスター発表を，山本が口頭発表を行った．内容は以下の通りである．なお，大野と小林の２名は，現在コロラド鉱山大学に留学中である．

佐藤は，米国ユタ州東部ユインタ堆積盆に露出する始新統の湖成デルタ～河川・沖積平野堆積物の大規模露頭の詳細な堆積相解析を行い，露頭情報に基づいた地質モデルを構築し，貯留岩特性の観点から堆積体の分布・形状・連結性の評価を行った．本研究は，佐藤がユタ大学留学中に行ったもので，同様の堆積システムを有する油ガス田の貯留岩の地質モデリングに役立てることを目的としている．

大野は，米国カリフォルニア州西南部に露出する始新統の深海成チャネル砂岩の詳細な堆積相解析を行った．その結果，陸棚斜面において海底谷中のチャネル砂岩と，海底谷が発達しない場所のチャネル砂岩では，チャネル幅や堆積相が大きく異なることを確認した．本研究は，そのメカニズムを解明することにより，深海成チャネル砂岩の形態分布予測につなげる試みである．

小林は，マレーシア沖の深海褶曲帯において収録された高解像度３次元震探データの解析を行い，震探データから予測される堆積相や古地形の特徴を整理し，石油システムの観

写真２．年次総会・展示会が開催されたコロラドコンベンションセンター

写真３（左）セノマニアン階／チューロニアン階境界のGSSP（Greenhorn層のBridge Creek石灰岩部層）．同境界を指さすのは巡検を案内してくれたJeffrey May氏．写真４（右）貯留岩相当層であるチョーク質の石灰岩層と有機物を含む薄い頁岩層の互層（Niobrara層のFort Hays石灰岩部層）

点から貯留岩・帽岩の分布・発達について考察を行った．

山本は，アラブ首長国連邦アブダビ沖の巨大油田において，白亜系ドロマイト貯留岩の成因と貯留岩性状の不均質性の関係を地球化学的手法により解明した．本研究は東北大学・名古屋大学の協力により，アブダビ国営石油傘下の現地油田操業会社が行った研究の成果であり，産学連携の技術で油田開発に直接貢献することを目指したものである．

地質巡検

年次総会の直前と直後には，18のショートコースと13の地質巡検が企画されており，山本は１泊２日の日程で開催された「デンバー堆積盆地南部の非在来型資源と地域層序」の巡検に参加した．本巡検は，コロラド州デンバーの南方約160 kmの町プエブロの周辺地域に分布するセノマニアン階～カンパニアン階の泥岩，砂岩，石灰岩の層序を対象とする巡検で，セノマニアン階／チューロニアン階境界のGSSP（Global Boundary Stratotype Section and Point）にも立ち寄った（写真３）．これらの地層は“Western Interior Seaway”と呼ばれる白亜紀の北米大陸に形成された南北に細長く伸びる海域で堆積しており，コロラド州周辺地域では，これらの地層が実際に石油システムを形成し，油ガス田の探鉱・開発が行われている．地下深部の貯留岩の相当層を実際に目の前の露頭で観察することにより，貯留岩の岩相や断層・フラクチャーの空間的広がりのイメージをつかむことができるだけでなく，油やガスを生産する際にどのような井戸を掘るべきか，また，地質的に何が生産障害になり得るのか，といった議論を深めることができた（写真４）．今回の巡検参加者（総勢20名）は，コロラド州周辺での探鉱の仕事に関わっている人が多かった．中には，家族で探鉱会社を経営し，「大学を出たての息子に石油地質学の手ほどきをしている」という父親もおり，石油地質学が発展してきた米国では，地質を理解して自分達の手で資源を開発するという精神が長い歴史の中で培われ，受け継がれていることを感じた．

おわりに

AAPGの年次総会は，石油地質学に携わる産業界の技術者および大学・研究機関の研究者・学生が世界中から集まって活発な議論を交わす最大規模の国際学会であり，石油地質学の最新の研究・技術動向を知ることはもちろん，われわれ自身の研究成果を発表することにより，日本の石油地質学のレベルアップとプレゼンス向上につながる絶好の機会であると考える．

年次総会を通じて印象に残ったことは，産学連携で調査・研究を進めている石油会社や大学が多いことである．プレゼンテーションの冒頭で，協力関係にあった石油会社や大学の名前とそれらのロゴマークをまとめたスライドがよく提示されていた．自前で研究組織を有する海外の大手石油会社であっても，大学との共同研究を活発に行っており，それらの内容は基礎的な学術研究から探鉱・開発の実務に直結したものまで様々であった．また，石油会社をスポンサーにした大学の研究コンソーシアムに所属する学生の発表も多く，大学と石油会社が連携し，双方に有益な研究分野の開拓や学生の研究活動の支援を行い，石油会社はその成果を活用し，さらには卒業した学生がそのまま石油業界に就職する，という構図が出来上がっており，産学連携での技術力の向上と人材育成が進んでいることを感じた．

TOPIC

新生代の紀の名称について，そろそろ決着を

石渡　明

私が2006年２月の日本地質学会News第９巻2号10ページに「新生代の紀の名称として『古獣紀・新獣紀』の提案」を行ってから10年近くが経過した．

イタリアのフィレンツェで開催された2004年の万国地質学会議（IGC）で当時の国際層序学会議（ICS）委員長F. M. Gradsteinらによって発表された地質年代表は，「第三紀」と「第四紀」という昔ながらの時代区分をどちらも廃止するという革新的なものであったが（長谷川四郎・中島　隆・岡田　誠，2006「層序と年代」共立出版p. 154-159を参照），その後一部の抵抗により「第四紀」が復活した．しかし，今日に至るまで「第三紀」は復活しておらず，この名称は完全に過去のものとなった．しかるに，現在の日本においては，新生代を「古第三紀」，「新第三紀」，「第四紀」（英語ではPaleogene, Neogene, Quaternary）に区分しており，「第三紀」という区分自体はなくなったものの，２つの紀の名称に含まれる形でその語が残存していて，これらは紀の名称としても訳語としても非常に不適切である．鈴木寿志と石田志朗（2005；地質学雑誌，111，565-568）は，日本に地質学が伝来して以来の文献を詳しく調査し，PaleogeneとNeogeneの訳語として「古成紀」と「新成紀」が適当であろうと述べたが，鈴木が2012年に京都大学学術出版会から出した「要説地質年代」では「旧成紀」と「新成紀」を用いている．地質時代の名称に「新・古」と「新・旧」が混在するのはまずく，従来の「新・古」に統一すべきだと思う．一方，2014年に清川昌一・伊藤　孝・池原　実・尾上哲治が岩波書店から出した「地球全史スーパー年表」や日本地質学会2015年１月発行の国際年代層序表日本語版（http://www.geosociety.jp/uploads/fckeditor//name/ChronostratChart2015.pdf）では依然として「古第三紀・新第三紀」が使われている．

私は，このままズルズルと「第三紀」という語を使用し続けるのはよくないと思う．しかし，「古成紀・新成紀」の最大の問題は，上記前著でも述べたように，「こせい」，「しんせい」に同音異義語が多く，話し言葉として意味が正確に伝わりにくいことである．この点さえ解決すれば，字も簡単で妥当な訳語だと思う．なお，私が提案した「古獣紀・新獣紀」は「字が難しい」など不評で，本学会某理事の「ケダモノはダメよ」という一言で完敗した．

さて，「成」には成人，成立などの「せい」という読みの他に，成就，成仏などの「じょう」という読みがある．「成功」のように，「せいこう」と読む場合と「じょうごう」と読む場合で意味が大違いの語もある（「広辞苑」参照）．「じょう」という呉音はもともと仏教用語に使われたらしいが，現在では両方の読みが日常的に使われている．「古成紀・新成紀」を「こじょうき・しんじょうき」と読むことにすれば，同音異義語はほとんどなくなり，話し言葉として意味が伝わりにくい問題が解決する上に，「じ」音が英語名の「－gene」を連想させるメリットもある．語尾の「紀」を「系」，「層」などに置き換える場合も，他の語と紛らわしくなることはない．学習者への説明としては，生物の進化が哺乳類の繁栄と霊長類・人類の発生という形で成就した時代，ということになろうか．

「第三紀」問題が顕在化してからもう10年になり，そろそろ決着させないと本学会の見識を疑われかねない．日本地質学会会員諸氏の熟考と英断を期待する．

2015年度秋季地質調査研修
参加者募集のお知らせ

下記の概要で，2015年度秋季地質調査研修を実施します．なお，本研修の実施内容や申込方法等の詳細については，日本地質学会のホームページをご覧ください．

実施期間：2015年11月９日（月）～11月13日（金）（４泊５日）
実施場所：千葉県君津市及びその周辺地域（房総半島中部域）
講師：徳橋秀一氏（産総研 地圏資源環境研究部門 客員研究員）
　　宇都宮正志氏（産総研 地質情報研究部門 研究員）
募集対象：主に，地質関連会社の若手技術者（日本地質学会の会員・非会員を問いません）
募集人数：６名
参加費：12万円（ただし，宿泊費および交通費は含みません）

募集期間：2015年９月14日（月）～10月13日（火）

※ただし，定員に達し次第，締め切らせていただきます

詳しくは，http://www.geosociety.jp/engineer/content0043.html

☆関東支部

案内

「富士山巡検」のお知らせ

日本地質学会関東支部では2015年度事業として「富士山巡検－富士山西側山腹を巡る」を開催いたします．参加者の皆様には，富士山西側の大沢扇状地や岩屑なだれ堆積物，火砕流堆積物，溶岩流などを観察していただき，宿泊先では案内者から富士山に関する勉強会も予定しています．

富士山は一昨年６月に世界文化遺産に登録されましたが，過去に噴火を繰り返してきた活火山であり，将来の噴火に対する防災上の視点からも富士山巡検を行うことは意味があると考えております．会員の方はもとより，広く参加者を募集致します．

主催：日本地質学会関東支部
日程：2015年10月17日（土）～18日（日），１泊２日，雨天決行
見学ルート概要（天候などにより変更有り）
10月17日（土）：10時集合　東海道新幹線新富士駅前～風祭　火砕流～大沢扇状地～白糸の滝～宿泊施設
10月18日（日）：宿泊施設～田貫湖岩屑なだれ堆積物～別所　砂礫層～大宮断層～水神溶岩～東海道新幹線新富士駅解散16時頃
昼食：１日目は各自弁当持参，２日目は主催者が用意致します．
その他の注意事項：各自タオル，歯ブラシ，寝間着（パジャマなど）を持参する．
CPD単位：16単位
募集人数：会員および一般・30名程度（先着順）
宿泊施設：民宿旅館「西の家」
案内者：山元孝広（(国）産業技術総合研究所）
千葉達朗（アジア航測株式会社）
吉本充宏（山梨県富士山科学研究所）
巡検スタッフ：日本地質学会関東支部幹事　荒井健一，細根清治
参加費用：一般22,000円，学生・院生13,000円
申し込み方法・問合せ先：住所，氏名，年齢，性別，携帯電話番号，メールアドレス，所属をメールで下記へご連絡下さい．その際には，銀行振込を確認出来る「ご利用明細標」のコピー（PDFなど）も送付して下さい．
細根清治（日本地質学会関東支部幹事）
メールアドレス：s.hosone28@gmail.com
携帯：080-4337-2841
銀行振込先：ゆうちょ銀行０三九店（ゼロサンキュウ店）
日本地質学会関東支部　郵便振替　口座番号00330-9-4159（当座預金　0004159）
銀行振込の確認により参加申込完了とさせて頂きます．
申し込み期間：８月24日（月）～10月２日（金）（定員に達した時点で締め切り）
※キャンセルした場合の払戻料金は，申込締切日（10/２（金））までは100%，10/３（土）～10/14（水）までは50%，10/15（木）以降は０%となります．

☆関東支部

案内

ミニ・ショートコース『地すべり試験ラボ見学』のご案内（第１報）

地すべり試験のラボ見学を開催します．地すべり試験に関する講義，すべり面試料から供試体を作成する過程や各種試験機（一面剪断試験機やリング剪断試験機）の見学などを通して，すべり面を対象とした試験について学習します．

日程：2015年10月31日（土）11:00～16:00
場所：国土防災技術（株）技術本部 試験研究所（福島市南矢野目）
主催：日本地質学会関東支部
後援：日本地質学会東北支部
講師：長谷川陽一氏（国土防災技術（株））
集合場所・集合時間：福島駅西口改札前に10時30分に集合（福島駅までの交通費は各自で負担）
費用：3,000円（資料代，福島駅から試験所までの往復タクシー代を含みます）
募集人数：10名（先着順，地質学会会員を優先します）
CPD単位：４単位
受講申込み先：日本地質学会関東支部（kanto@geosociety.jp）宛にメールにて，氏名・所属・連絡先メールアドレス・携帯電話の電話番号・地質学会会員かどうかを記入してお申込みください．
応募締切：10月９日（金）
昼食は各自でご用意ください（近隣には飲食店もございます）．
詳細は支部HP（http://kanto.geosociety.jp/）に掲載します．
お問合せは亀高正男（関東支部幹事：black_kametaka@mac.comまたはm.kametaka@ diaconsult.co.jpまでお願いします．

☆関東支部

報告

箱根ミニ巡検報告

現在，噴火警戒レベルが発令されている箱根火山を正しく理解し，安心して観光していただくための努力を続けている箱根ジオパークを支援する意味も込め，今回改めて話題となっている大涌谷とはどのような場所なのかを学ぶ巡検を関東支部は企画いたしました．箱根火山は企画後にも噴火警戒レベルが６月30日に３（入山規制）に引き上げられ，巡検当日の７月12日（日）も大涌谷周辺の約１km以内に規制がかかった状態でした．巡検コースはこれを受けて少し変更し，箱根湯本駅（10:00集合）→下湯（大涌沢見学）→箱根ビジターセンター（今回の活動解説）→湖尻露頭（神山岩屑なだれ堆積物）→大石（流れ山観察）→姥子（大涌谷観察）→昼食→長尾峠（露頭，大涌谷観察）→山伏峠（地形観察）→大観山（地形観察）→天成園（日帰り入浴希望者解散）→箱根湯本駅（16:20解散）というルートで行いました．梅雨明け前でしたが天候にも恵まれ，大涌谷の現状や箱根ジオパークを，貸切マイクロバスで見て回ることができました．ご参加された18名の方々，講師の箱根ジオミュージアム学芸員山口珠美様，箱根ジオパーク事務局青山朋

史様どうもありがとうございました．関東支部では今後とも，箱根ジオパークをはじめ地域のジオパーク支援を行ってまいりたいと思っております．

（幹事長　**笠間友博**）

箱根火山ミニ巡検「大涌谷とはなにか」に参加して

このたび初めて日本地質学会の巡検に参加いたしました．テーマは噴火警戒レベルが3に上がり，話題になっている箱根火山の大涌谷についてです．この巡検ではまず，現在の箱根火山の活動状況を学び，それから神山の岩屑なだれ堆積物や流れ山の観察を行いました．お昼には地元のお店で「大涌谷噴火カレー」を食べ，箱根ジオパークに関する地域の取り組みを学び，午後に仙石火山の断面露頭や遠方からの溶岩地形・カルデラ地形の観察を行いました．非常に多くのことが勉強になりましたが，特に印象深かったことはビジターセンターにて，今現在起きている箱根火山の活動を最新のデータや貴重な映像で知ることができたことです．

箱根火山は様々な観測設備が設けられており，その結果により今回の活動も小噴火が起こる前に入山規制をかけることができたと知りました．箱根は観光地でもあり，噴気活動や火山性地震が活発になると多くの注目をあびる場所であります．火山による被害状況だけではなく，このような設備が整っていることも多くの一般の方に伝えるべきことであると感じました．また，この巡検では参加者の方もコンサルから学校の先生，学生と様々であり，みんなで議論をすることでより理解を深めることができました．このような経験から，今後とも積極的に巡検に参加していきたいと思いました．最後にこの巡検において，企画・案内をしてくださった皆様に深く感謝いたします．

（**岩井桃香**　応用地質株式会社）

写真：長尾峠より大涌谷を背景に．後列向かって右端が山口氏，その隣が青山氏

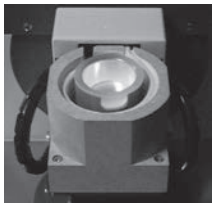
XRF 分析用のガラスビード作成

ICP/AA 分析のアルカリ融解処理　には

ビード＆フューズサンプラ

東京科学の廃業に伴いアメナテックが事業を引き継ぎました

今後もよろしくお願いいたします



AmenaTech

株式会社アメナテック
〒213-0012
神奈川県川崎市高津区坂戸 3-2-1 KSP 東棟 601A
TEL：044-322-0671 / FAX：044-322-0672
e-mail：info@amena.co.jp　URL：http://www.amena.co.jp

有限会社アメナ工房
〒192-0913
東京都八王子市北野台 2-22-5
TEL：042-632-7730 / FAX：042-632-7734

兵庫県立大学大学院
地域資源マネジメント研究科

郡山鈴夏
（兵庫県立大学大学院地域資源
マネジメント研究科ジオ分野）

新たな大学院設立

山と水田に囲まれ，コウノトリが舞う自然豊かな土地，兵庫県豊岡市に2014年４月兵庫県立大学大学院　地域資源マネジメント研究科が開設されました．本大学院には地学（ジオ）・生態学（エコ）・人文社会科学（ソシオ）の３つの学問領域があります．地域に内在する自然資源とこれに基づいて成立している社会・文化資源を「地域資源」と捉え，地域資源を発掘し，保護・保全しながら活用することによって地域の持続的発展について教育・研究しています．

学部のない独立大学院なので，現在１期生10名，２期生11名，教員10名の少人数キャンパスです．少人数ですが，学生の年齢は下は22歳，上は65歳と幅広く在籍しています．出身地も経歴も様々な人が学生として集まっているため，学生間の雑談の内容は多種多様．様々な話を聞くことができます．

授業はジオ・エコ・ソシオの３分野で，それぞれの基礎的な授業とそれらの分野横断的な授業があり，地域資源マネジメントの土台を作ります．初歩から入るので初めての分野でも理解しやすいです．その次の段階として，「地域資源マネジメント論」など発掘した地域資源を保全・活用するための授業があります．さらに，演習科目も充実していて理論と実践の両方が学べます．

研究はそれぞれの分野が教員各３～４名，学生各６～７名と少人数なため，充実した指導を受けることができます．毎回ゼミの内容は濃いです．長丁場です．

ジオ分野について

大学院のある兵庫県北部は「山陰海岸ジオパーク」の一部です．ジオパークには地球科学上貴重な地域資源が多く含まれます．これらの価値を評価し伝えていくこと，さらにツーリズムなどを通じて地域の経済発展につなげることがジオパークには求められています．ジオ分野では，地球科学的方面から各地域資源の学術的価値や人との暮らしの関わりを明らかにし，それらを活用しながら保全に進めるための研究をしています．

ジオ分野の研究紹介

現在ジオ分野の学生が行っている研究についていくつか紹介します．

山陰海岸ジオパークのジオサイトの一つである**但馬御火浦において堆積相解析を用いた堆積環境の復元を行っています**．山陰海岸ジオパークは日本海拡大がテーマとなっています．山陰海岸ジオパークに広く分布する新第三紀北但層群は日本海拡大開始～形成後までを記録した一連の地層からなっており，日本海形成期の水中火山活動の実態やテクトニクスを解明するうえで非常に重要な地層群です．しかし，堆積環境や火山活動については十分に議論されておらず，その地質学的実態は未だ明らかにされていません．そこで，北但層群の砕屑岩類，火山岩類，火山砕屑岩類を対象に研究を行っています．

調査は地元の漁師さん達にも協力してもらい，船からの海上調査等も行っています．また，調査以外にもイカ釣りに連れて行っていただいたり，夜はとりたての魚で宴会をしたり，朝日の絶景ポイントへ連れて行っていただいたりと地元の方との交流も全力で楽しんでいます．

地元の方にお世話になりながら研究を行っているので，研究によって明らかになった但馬御火浦の地質情報を「地域資源」として活用する提案も行っていきます （M1 S.K）．

兵庫県北部地域の流紋岩体の層序や産状を研究しています．この地域における流紋岩は，兵庫県の天然記念物や山陰海岸ジオパークのジオサイトに認定されていますが，地質学的な基礎研究がまだまだ足りない状況です．そのため岩石学的，構造学的な視点を用いて，地域内の流紋岩体の形成環境・形成時期を明らかにすることを目的としています．兵庫県北部の海岸部はリアス海岸で切り立った岬や入り江が多く調査は困難を伴います．そのため地域の方に協力いただき，カヌーを用いた海上からの調査を試みたりもしています．

授業を受け，仲間たちと語らい，授業のない日は調査をして過ごします．休日になると時々県外へと出かけていき，新潟県で翡翠やスカルン鉱物を採集したり，福島県でペグマタイト鉱物を採集したりもしています （M1 M.Y）．

兵庫県丹波市・広島市と大きな土砂災害が続きました．山間部と人の生活区域が隣接している日本列島ではこうした斜面災害の危険性は常に潜んでいると考えられます．しかし，地域の地質特性とそこで発生する災害（特に斜面災害）との関係は必ずしも解明されているわけではありません．そこで**地質と土砂災害の関係性から地域の防災につなげる研究をしています**．

教鞭に立つ傍ら研究を行う私（長期履修生）は他の学生の皆さんとは受講科目数が異なります．また学校関係の各種会議や行事・会報の発行などで時間のないときもあって，常に私だけ遅れているような感じを持ちがちですが，若い人たちと一緒に知らないことを学べるのは至福の喜びです （M1 K.H）．

ジオパークでの効果的なツーリズムについて研究をしています．ジオパークの認知度，ニーズを定量的に把握し，山陰海岸ジオパークを事例に来訪者満足度を調査しています．山陰海岸ジオパークは多様な地形地質資源が存在しており，各地域が地形地質的特徴をツーリズムに活用しています．近年ではシーカヤックやスノーシューなどのアクティビティを用いて地形地質資源を楽しむツーリズムが増えてきています．ジオパークをツーリズムに結びつけるためには地質資源を生態系や人々の暮らし，歴史などとの関係を魅力的に伝えるためのジオストーリーの構築が必要であると言われてきています．ガイドおよびアウトドア・アクティビティ事業者のインストラクターはジオストーリーの語り部でもあります．ガイドやインストラクターを利用することでツーリズムへの満足度も上がるという仮説を立て検証を行っています．

ジオパークの研究を始めてから自分もアクティビティの楽しさを知りました．大学院ができて２年目になった今年からは後輩もでき，観光客への満足度調査では丸３日に及ぶアンケート調査を手伝ってもらうなど，研究がよりはかどるようになりました （M2 M.T）．

京都府京丹後市の久美浜湾周辺には，砂丘・沖積平野・段丘・丘陵地といった様々な地形・地質が存在していて，砂丘メロンなどの作物が久美浜地域の名産物となっています．しかしながら，久美浜地域での地形・地質についての詳細な研究は行われていません．**地形ごとの地質学的特性を明らかにし，その土地をどのように利用しているか研究しています**．

1．新温泉町三尾での公開セミナー

2．地形観察フィールドワーク

私たちは１期生だったため，入学当初の院生室には机といすをのぞけば何もない状態でした．学生で院生会を立ち上げ，コピー機やプリンターなど要望を大学へ伝え，自分たちの使いやすい院生室を作り上げました．大学も限られた予算の中で私たちの要望をかなえようとしてくれているので，今後も院生会でよりよい研究環境を作り上げていきたいと思います（M2 K.K）．

院生の日常

本大学院の魅力は，前述したように地学系・生物系・人文社会学系それぞれの分野を専攻する学生が集まっていることにあります．他分野の学生と日常的に意見交換が行えることが魅力的です．それを表すエピソードとして，フィールドワーク中の一コマがあります．大学院の授業では地域住民との交流や地域理解・他分野理解を目的としたフィールドワークが多く行われます．そんなフィールドワークの中，ジオの学生は露頭や岩石を観察し，エコの学生は鳥を観察し，鳴き声を聞き，ソシオの学生は地域の歴史や土地の成り立ちの看板に注目する．同じフィールドに行っているのに，見るものが全く違うという状況がしょっちゅう起こります．そんなメンバーでのフィールドワークに最初は戸惑いました．しかし，今は互いが観察している物を共有し，教え合うことで他分野理解に励むようになりました．自分のフィールドでの野外調査中でも飛んでいる鳥が気になったりするので，確実に周囲の学生からの影響を受けていることがわかります．

また，大学院の院生室に籠ってばかりではなく，学生同士で地元のお祭りやイベントに積極的に参加しています．遊んでいるように見えますが，「地域資源マネジメント研究科」としては，地域にのこる伝統行事のお祭りやイベントも重要な地域資源の一つであるため，地元住民に混ざりそれらに参加・体験することも学びであると言い張っておきます．

そうして地元住民との交流を積極的にしていると，仲良くなって新鮮な真鯛をいただいたりもします．院生室で解体ショーをしたり，バーベキューで塩焼きにしたりして美味しくいただきました．また，大学院の裏山でとれた筍が籠いっぱい玄関に置かれていることもあります．タケノコご飯と煮物にして学生のお昼ご飯になりました．

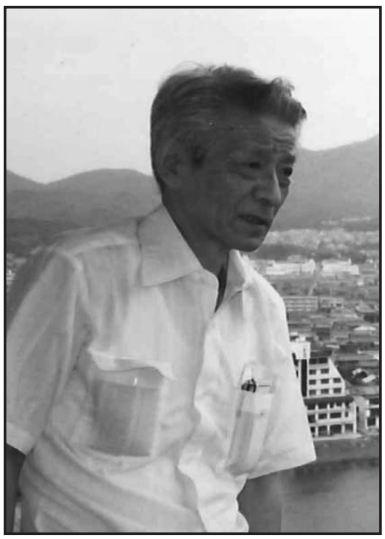
3．竹野浜でのシーカヤック

３つの分野が複合した本大学院ですが，単に広く浅くというわけではなく，専門分野に関しては深く学ぶことができます．同時に自分の研究がどのように地域社会と関わっていくのか，地域社会に関しても学ぶことのできる大学院です．地域にはまだまだたくさんの資源（宝）が眠っています．この研究科で，それぞれの専門分野から宝を一緒にほりおこしませんか？まだ新設２年目の本大学院は随時学生を募集しています．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名で行っています．原稿は5000字以内，図・写真３点以内を目安に，e- mailでいただければ幸いです．

13nd403y@vc.ibaraki.ac.jp　菅谷真奈美（茨城大）
kouzu_0419@geol.tsukuba.ac.jp　高津翔平（筑波大）
14nm310h@vc.ibarkai.ac.jp　羽田裕貴（茨城大）
k0231215@kadai.jp　山下大輔（熊本大）

追　悼



名誉会員　猪木幸男さんを偲ぶ

日本地質学会名誉会員の猪木幸男さんは，2015年５月９日，老衰のため逝去されました．享年93歳でした．ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます．

猪木さんは，1921年８月８日，岡山県倉敷市でお生まれになり，宮城県立仙台第一中学校（現仙台一高）を経て，1940年北海道帝国大学予科に入り，1943年同大学理学部地質学鉱物学科に進学され，1946年９月，同学科を卒業されました．卒業論文は「日高国糠平鉱山付近ノ地質並ビニ鉱床」でした．同級には，加納　博，富阪武士，陶山国男，番場猛夫，菊池　徹，今田正，村山正郎など，戦後の日本地質学・鉱物学の発展に寄与された方々がおられました．

猪木さんは1946年12月に北海道工業試験場に入り，鉱物資源調査に従事されます．1948年５月には新設の地質調査所北海道支所地質課に移り，それ以後北海道の５万分の１地質図幅の調査に専念されました．猪木さんは，「小樽西部」（1954）を皮切りに，「幌泉」「猿留」「襟裳岬」（1956），「幌加内」（1958），「敏音知」（1959）の地質図幅を共同研究者と共に次々に作成して行きました．「幌泉」「猿留」両図幅では日高変成帯南端部の大きなドーム状の構造を見事に描き出しています．その頃，猪木さんは舟橋光男氏・番場猛夫氏らと日高帯研究グループを結成しており，その一環として「幌満地方の輝石橄欖岩体」（1953）の論文で同岩体の内部構造（流理構造）を詳細に解析しました．また“神居古潭帯” に属する「幌加内」図幅の調査から「幌加内附近における角閃岩と蛇紋岩との関係」（1959）の論文を書き，現在のオフィオライト問題にも通じる重要な観察を行っています．

猪木さんは1956年に支所から本所の地質部（川崎市溝の口）に配置換えになり，同年に地質部図幅第２課主任研究員，1965年に同課主任研究官，同年に地質部地質第３課主任研究官，1967年に同部地質第３課長，1974年に地質部長へと，昇任されました．このような職務多忙の期間にあっても，猪木さんは中国・近畿地方の図幅調査を精力的に行い，共同研究者と共に，「舞鶴」（1961），「大江山」（1965），「横田」（1973），「多里」（1977），「上郡」（1980）の地質図幅（地域地質研究報告）を作成しました．これらの図幅では，主として舞鶴帯の夜久野複合岩体および“三郡帯”・上郡帯の変成岩類・超苦鉄質岩類を調査し，関連して数多くの論文を発表しています．1960年代には，黒田吉益氏・岩崎正夫氏らと共同で「日本の超塩基性岩類」（1967）という英文のレビュー論文を発表しています．1973年には「西南日本内帯の夜久野コンプレックス中の変はんれい岩とその関連岩類」の論文に対して北海道大学より理学博士の称号が授与されています．

その頃，国際的には，1960年代に国際地球内部開発計画（UMP），1970年代に国際地球内部ダイナミックス研究計画（GDP）が進行していました．猪木さんは測地学審議会のUMP部会およびGDP小委員会のメンバーとして活躍され，ご自身もUMP C-Zoneの地質断面図作成のテーマを分担され，それらの成果を牛来正夫氏との共編の「日本列島の地殻および上部マントル」（第２部，1973；英文）として地質調査所から出版されました．

地質調査所は1980年に川崎市から筑波研究学園都市に移転しますが，猪木さんはその翌年４月，地質部長を辞して，山口大学理学部地質学鉱物学科に出向されました．山口では地史学講座の初代教授として，1985年まで地質学概論および構造地質学の講義を担当されました．猪木さんはご自身のテーマとして「長門構造帯の地質構造」を研究され，学生たちの卒業論文でも長門構造帯，舞鶴帯，黒瀬川帯，山崎断層などのテーマで指導されました．1985年に定年退職されるまで，２回も教室主任を務め，学生からは白髪，温厚な老教授として慕われていました．

1985年に川崎市子母口のご自宅に戻られた猪木さんには，「日本の地質７　中国地方」と「日本地質図大系」の出版という大仕事が待っていました．

「中国地方」（1987，共立出版）では村上充英氏，大久保雅弘氏と共に代表編集委員を務め，多くの未解決も問題を抱えた同地方の地質をどのようにまとめるかに苦心され，自らも「中・古生界概説」，「超塩基性岩・斑れい岩・緑色岩」の一部を執筆しておられます．

「日本地質図大系」（全８巻，1990-1997，朝倉書店）は，絶版になったものが多い地質調査所発行の地質図幅の中からとくに重要なものを選び，それらを原寸大で複製し，最新の解説を加えて，一般の人にも利用されやすい形の地方別アトラスとして出版したものです．猪木さんは「大系」の総編集者として，また「１．日本の地質総図」および「７．中国・四国地方」の編集者として，10年間にも及んだこの大事業を完遂させました．猪木さんは2001年に日本地質学会名誉会員に推挙されますが，それには「日本地質図大系」出版に対する功績が高く評価されたものと思われます．

1997年以後は，ほとんど自宅で悠々自適の生活を送り，ときには長年の趣味であった映画鑑賞に出かけていましたが，次第に歩行が困難になり，３年前に自動車事故で大怪我をされてからは，完全に引きこもるようになってしまいました．猪木さんは奥様を早い時期に亡くされ，お子様には長男淑郎様，長女さや様，次女久保ちま様の３人がおられますが，家庭では厳格でワンマンな父親であったようです．晩年には川崎市麻生区にお住まいのちま様がよくお世話をしておられました．

猪木さんはとても個性的な方でした．若い頃は「かみそり猪木」などとよばれ，中高年になっても頭の切れがよく，相手に鋭く問いかけることがありました．しかし，それも猪木さんなりの考えがあってのことでしょう．私は地調時代，猪木さんの部下であったため，厳しく「お説教」されたこともありましたが，よく一緒にお酒を飲み，かつ議論もしました．中国地方の調査でご一緒したときのことなどは，いまでは貴重な思い出です．猪木さんが地質学の研究・教育・普及に人生を捧げられたことを深く心に刻み，その旅立ちを静かに見送りたいと思います．

この追悼文を書くにあたり，山口大学名誉教授の西村祐二郎さん，北海道大学総合博物館の在田一則さん，産業技術総合研究所地質調査総合センターの宮崎一博さんと酒井 彰さん，地質学会事務局長の橋辺菊恵さん，ご遺族の久保ちまさんからご協力をいただきました．厚くお礼申し上げます．　　**（山田直利）**

CALENDAR

2015. 9 〜

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は学会主催，（共）共催，（後）後援，（協）協賛．

2015年

9月　September

★関東支部：清澄フィールドキャンプ
9月1日（火）〜9月7日（月）6泊7日
場所：東京大学千葉演習林（千葉県鴨川市）
http://kanto.geosociety.jp

（共）第59回粘土科学討論会
9月2日（水）〜5日（土）
場所：山口大学理学部・人文学部
http://www.cssj2.org/

★日本地質学会第122年学術大会（2015長野大会）
9月11日（金）〜13日（日）
場所：信州大学工学部（長野市若里キャンパス）ほか

（後）第11回国際化石藻類シンポジウム
9月14日（月）〜19日（土）
場所：琉球大学

（共）2015年度日本地球化学会第62回年会
9月16日（水）〜18日（金）
場所：横浜国立大学常盤台キャンパス
http://www.geochem.jp/conf/2015/

（後）第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム
9月16日（水）〜20日（日）
場所：豊岡市民会館，鳥取環境大学ほか
http://apgn2015-jpn.com/

○第32回歴史地震研究会
9月21日（月・祝）〜23日（水・祝）
場所：京丹後市峰山総合福祉センター
http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/menu7.html

（共）Arthur Holmes Meeting-Tsunami Hazards and Risks: Using the Geological Record
9月25日（金）
場所：The Geological Society（英ロンドン）
プレ巡検：22日（火）〜23日（水）
http://www.geolsoc.org.uk/ahm15

○第178回地質汚染イブニングセミナー
日本地質学会環境地質部会 共催
9月25日（金）18:30〜20:30
場所：北とぴあ902会議室
テーマ：東京電力福島第一原子力発電所事故と放射性物質汚染ー中央では出来ない地元大学の貢献ー
http://www.npo-geopol.or.jp/event.htm

（後）第10回アジア地域応用質学シンポジウム
9月26日（土）〜27日（日）
場所：京都大学宇治おうばくプラザ
http://2015ars.com/

10月　October

（後）国際シンポジウム「沈み込み帯堆積盆地のリソスフェア・ダイナミクス」
10月5日（月）〜7日（水）
会場：東京第一ホテルシーフォート（品川区東品川）
http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/ILP2015

○第8回アジア海洋地質会議（ICAMG-8）
10月5日（月）〜10日（土）（巡検を含む）
場所：韓国済州島，JEJU GRAND HOTEL
http://icamg-8.kigam.re.kr/ICAMG/index.jsp

○第30回ヒマラヤ・カラコルム・チベットワークショップ（30th HKT 2015）
10月6日（火）〜8日（木）
場所：Wadia Institute, Dehra Dun, India
http://www.hktwadia2015.org/

○国際ゴンドワナ研究連合（IAGR）2015年総会及び第12回ゴンドワナからアジア国際シンポジウム
10月21日（水）〜23日（金）
場所：筑波大学
http://www.geol.tsukuba.ac.jp/~gansekihp/IAGR2015/

○IGCP589「アジアにおけるテチス区の発達」第4回国際シンポジウム
10月26日（月）〜27日（火）
場所：チュラロンコン大学（タイ・バンコク）
http://www.igcp589bangkok.org/

★関東支部：富士山巡検ー富士山西側山腹を巡る
10月17日（土）〜18日（日）1泊2日
申込期間：8月24日（月）〜10月2日（金）
http://kanto.geosociety.jp/

★関東支部：ミニ・ショートコース「地すべり試験ラボ見学」
10月31日（土）
場所：国土防災技術（株） 技術本部試験研究所（福島市南矢野目）
応募締切：10月9日（金）
http://kanto.geosociety.jp/

11月　November

★2015年度春季地質調査研修
11月9日（月）〜11月13日（金）（4泊5日）
場所：千葉県君津市及びその周辺地域
募集期間：9月14日（月）〜10月13日（火）
http://www.geosociety.jp/engineer/content0043.html

○第2回アジア恐竜国際シンポジウム（ISAD2015）
11月19日（木）〜24日（火）
場所　タイ　バンコク
http://www.isad2015.com/isad2015/

（協）第31回ゼオライト研究発表会
11月26日（木）〜27日（金）
場所：とりぎん文化会館（鳥取市尚徳町）
http://katalab.org/31zeolite/

12月　December

○地質学史懇話会
12月23日（水・祝）13:30〜17:00
場所：北とぴあ8階803号室（東京都北区：JR京浜東北線王子駅下車3分）
・吉岡有文『日本の科学教育映画の世界』（仮題）
・秋葉文雄『日本の珪藻化石研究』（仮題）
問い合わせ先：矢島道子
<pxi02070@nifty.com>

入　会　の　ご　案　内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を一般社団法人日本地質学会事務局へお送りください．
入会には正会員1名の紹介が必要です．近くに紹介者となるべき会員がいない場合はその旨お申し出ください．また，申し込み時には，初年度の会費を添えてお申し込みください．会員としての正式登録は，入会承認後，初年度会費の入金を確認した上で行い，雑誌の送付(4月号から)を開始いたします．

申込書送付先：101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　一般社団法人日本地質学会
送金先：郵便振替口座　00140-8-28067　日本地質学会
会費(※1)年額：正会員 12,000円　(学部学生割引＊5,000円，院生割引＊8,000円【定収のない方に限る】 ※2)
※1：学会費には地質学雑誌の購読料が含まれています．
※2：学部学生割引，院生割引を希望される方は，下記の割引申請欄に指導教官の署名，捺印をもらってください．

一般社団法人日本地質学会入会申込書　Application form for the Geological Society of Japan

太枠内のみにご記入ください(＊Official use only)

＊会員番号	＊会員種別　□正会員 (□学部学生割引 ・ □院生割引)
氏名(ふりがな) Name in Japanese	ローマ字表記 family name　first name
＿＿年Year＿＿月Mo＿＿日Day 生born on	Sex：□ 男 Male　□ 女 Female　Country：

学歴 Academic career：

＿＿＿＿＿学校 High school＿＿＿＿＿年卒業 Year completed

＿＿＿＿＿大学 University ＿＿＿＿＿学部 Faculty ＿＿＿＿年＿＿月 卒業(見込み)Year completed

修士 Master：＿＿＿＿＿大学Univ.＿＿＿＿＿研究科Fac. ＿＿＿年＿＿月 修了(見込み)Year completed

博士 Doctor：＿＿＿＿＿大学Univ.＿＿＿＿＿研究科Fac. ＿＿＿年＿＿月 修了(見込み)Year completed

自宅住所 Home address：(郵便番号 Zip code　－　)

電話 Phone：　ファックス Fax：

個人でプロバイダ契約をして取得した e-mail Address：

所属機関名称・所属機関住所 Affiliation with address：(郵便番号 Zip code　－　)
※ 郵便物がきちんと届けられるよう，ご記入ください．

電話 Phone：　ファックス Fax：

所属先から発行された個人の e-mail Address：

※e-mail Addressはメルマガ配信用に登録します．携帯電話各社のe-mail Addressを記入の場合は登録いたしません．ご注意ください．
※所属先(代表)のe-mail Addressは記入しないでください．

連絡先 Correspondence：　□ 自宅 Home　□ 所属機関 Office

会員名簿の掲載項目：2年に1度，会員名簿を発行しています．氏名・所属先は掲載必須項目です．下記の項目について**掲載を拒否する項目には □ にチェックを付けてください(チェックが無い項目は掲載承諾いただいたものとします)**．

□ 最終学歴　□ 所属先学科名・部課名(掲載不可の場合は「○○大学○○学部」，「㈱△△△△社」までを必須項目として掲載)
□ 所属先住所　□所属先電話・FAX番号　□自宅住所　□自宅電話・FAX番号　□e-mail Address

紹介者名(正・院生会員)　印

Recommended by (name of member) ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ Signature

学部学生割引・院生割引申請欄：運営規則に基づき会費の院生割引を申請いたします．

上記本学の学生につき，　□ **学部学生** ・ □ **定収のない院生(研究生)**　〔いずれかにチェックをつけてください〕
であることを証明いたします．

指導教官　所属：　氏名：　印

専門部会：現在，下記の13の専門部会があり活動しています．専門部会に参加ご希望の方は登録をお願いします．所属希望の部会を3つまで選択することができます．(該当する項目に○印を付けて下さい)

1. 地域地質　2. 層序　3. 堆積地質　4. 現行地質過程　5. 海洋地質　6. 構造地質　7. 岩石　8. 火山
9. 応用地質　10. 環境地質　11. 情報地質　12. 古生物　13. 第四紀地質　14. 環境変動史　15. 鉱物資源

興味専門分野：あなたの興味専門分野を教えてください．3つまで選択することができます．(該当する項目に○印を付けて下さい)

1. 層位　2. 堆積・堆積岩　3. 古生物　4. 構造地質　5. 火山・火山岩　6. 深成岩　7. 変成岩
8. 鉱床地質(金属・非金属)　9. 鉱床　10. 鉱物　11. 燃料地質　12. 地熱　13. 第四紀　14. 環境地質
15. 都市地質　16. 土木地質　17. 土質工学　18. 水文地質　19. 探査地質　20. 土木工学　21. 情報地質
22. 地震地質　23. 海洋地質　24. 地球物理　25. 地球化学　26. 地質年代学　27. 地理　28. 地学教育
29. 考古学　30. その他　40. 地球惑星

＊受付(　年　月　日)　＊入金(　年　月　日) 振替・現金・銀行・他
＊承認(　年　月　日)　＊送本(　巻　号)

市民講演会

日本地質学会第一二二年学術大会

信州の自然とともに生きる
地震と火山の防災地学

長野県では昨年は多くの災害に見舞われました．7月9日の南木曽土石流，9月 27 日の御嶽山の水蒸気爆発，そして11月22日の長野県神城断層地震．このような状況で，あらためて私たちの住む長野県の成り立ちと地質学的特徴を理解し，より安全な市民生活を送る一助となることを願って，標記のような講演を企画いたしました．
講師は長年信州大学でそれぞれ活火山と地震の研究に携わってこられたお二人です．御嶽山を含む長野県の活火山の分布とそれらの活動の“癖”や，県内の地震発生と活断層との関係や震災について，やさしく詳しく解説します．さらに，これらをふまえた防災・減災の面からの提案をもとに，市民のみなさんにも参加していただいて議論を深めていく予定です．

2015 9.12 土

時間：14:30～16:00

会場：ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）
小ホール（長野県長野市若里1-1-3）

入場無料

事前申込不要

講演予定：

「信州の火山を知ろう」三宅康幸（信州大学理学部教授）

「糸静構造線活断層地震が起きたとき，長野盆地・松本盆地の震災は」
塚原弘昭（信州大学名誉教授）

※本講演会は，平成 27 年度科学研究費（研究成果公開促進費）による助成事業です．

日本の要（かなめ）で地質学ダヨ！

日本地質学会第 122 年学術大会（長野大会）
2015 年 9 月11 日（金）～13 日（日）　会場：信州大学（工学）キャンパスほか

一般社団法人 日本地質学会
〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-15 井桁ビル 6F　電話：03-5823-1150　http://www.geosociety.jp

Stallard Scientific Editing

your trusted partner in English-language excellence

science • technology • medicine • engineering • arts　　research papers • theses • books • abstracts

スタラード・サイエンティフィック英文校正のDr.アーロン・スタラードにお任せください.
貴方の地球科学の学術論文の英語をネイティブレベルの完璧な英語に英文校正します.

Dr.アーロン・スタラードの略歴:

- 1999年，ジェームスクック大学（オーストラリア）において博士号（地球科学）取得.
- 2000ー2001年，日本学術振興会外国人特別研究員として静岡大学理学部に滞在.
- 2002ー2005年，カンタベリー大学（ニュージーランド）FRST特別研究員.
- 国際誌10編の原著論文.
- 固体地球科学，地震学，物理探査（リモートセンシング），古生物学，生態学，気象学，森林学，気候変動学，海洋学，環境モデリング等，地球科学と環境科学の幅広い分野での英文校正の実績.

スタラード・サイエンティフィック英文校正について.

スタラード・サイエンティフィック英文校正は，世界各国の英語を外国語とする研究者の方々のためのオンライン英文校正サービス会社です．ニュージーランドのネルソンから，ニュージーランド在住のネイティブスピーカーによる英文校正サービスをご提供いたします.

スタラード・サイエンティフィック英文校正は2006年にDr. アーロン・スタラードとアナベル・ボーイズ夫妻により設立されました．夫妻は，地球科学（Earth Science）と医療撮影（Medical Imaging）の専門分野でそれぞれ活躍後，日本やヨーロッパの英文校正会社にてフリーランスの英文校正者としての経験を積んで独立し，スタラード・サイエンティフィック英文校正を設立いたしました.

スタラード・サイエンティフィック英文校正の利点をご検討下さい.

- **迅速な対応：**スタンダードサービス4ー6日（休日を除く）;エクスプレスサービス1ー2日（休日を除く）.
- **英文校正者のエキスパート：**専門分野に精通した校正経験豊富なネイティブ英文校正者.
- **満足感、高品質を保証：**お客様が私どものサービスに100%御満足いただけるまで料金のお支払いは不要です．私どもの無料*Ask-the-Editor Service* 及び*Draft-to-Journal Guarantee*保証をご覧下さい.
- **お客様の自国の通貨でお支払い：**日本円建てによるお見積り，お支払いをお取り扱いしております.
- **お支払い方法：**日本国内の銀行口座への振込による方法とオンライン上でクレジットカードによるお支払いの方法が選択できます.

www.stallardediting.com

Stallard Scientific Editing, 56 Brougham St, Nelson 7010, New Zealand

Tel: +64 3 5489108　　Internet: www.stallardediting.com
Fax: +64 3 5489106　　Email: aaron@stallardediting.com